SONY

4-647-435-**01** (1)

SONY PCV-L750/L550/L450G

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター
PCV-L750/L550/L450G



S400



 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

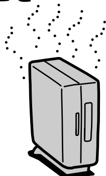
7～14ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



➡

1. **電源を切る**
2. **電源コードや接続ケーブルを抜く**
3. **VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する**

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号


注意


火災


感電

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


水ぬれ禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


強制


アース線を接続せよ


プラグをコンセントから抜く

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のCD-RWドライブが搭載されています。

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- □ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

目次

操作編

基本的な使いかた

VAIOを使いこなす

拡張編

周辺機器を接続する

本体を拡張する

次のページにつづく

セットアップ編

困ったときは

その他



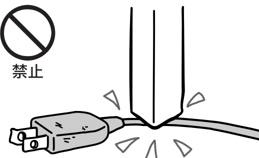




下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない





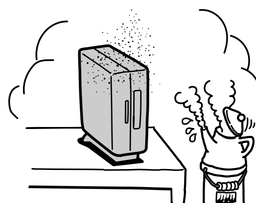
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

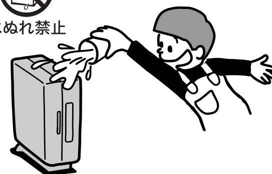




上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

内部に水や異物を入れない





水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。







下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

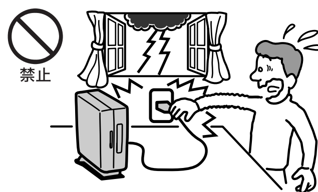
むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



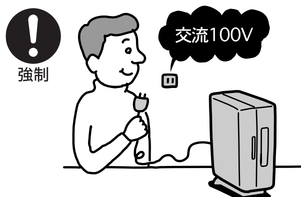
雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

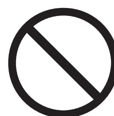




下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

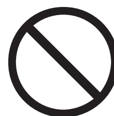
ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
デスクトップ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



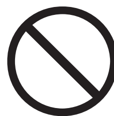
キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。





下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



安全アースを接続する

安全アースを接続しないと感電の原因となることがあります。安全アースを取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

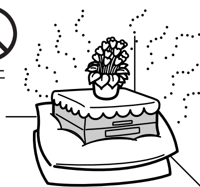


通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

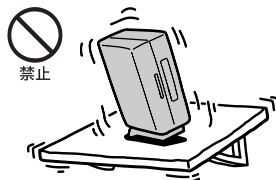
- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや逆さまにしない。
- 本機を縦置きにするときは、付属の縦置きスタンドを使用する。





不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。



製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。





下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

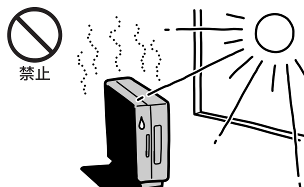
コネクタはきちんと接続する



- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。

直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

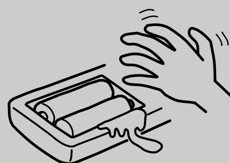


アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。





必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。





電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

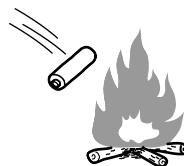




電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。





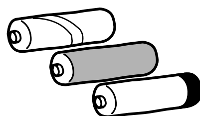
電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠注意

市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

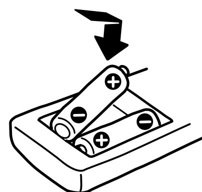




電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

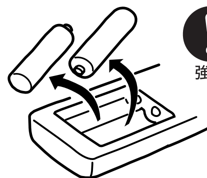
+と–の向きを正しく入れる





+と–を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す





電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の章で構成されています。
また、本機にどのようなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「ご確認ください」をご覧ください。

❑ 操作編

本機を初めてお使いになるときは、「基本的な使いかた」（30ページ）からお読みください。特にコンピュータを初めてお使いになる方は、「マウスを使う」（34ページ）や「キーボードを使う」（39ページ）、「文字を入力する」（46ページ）をお読みになり、コンピュータの基本的な使いかたをマスターすることをおすすめします。
一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」（78ページ）をご覧ください。

❑ 拡張編

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器やプリンタなどの周辺機器のつなぎかた、また本機の拡張のしかたについて説明しています。

❑ セットアップ編

ここでは、本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更する方法を説明しています。

❑ 困ったときは

本機の操作がわからなかったり、本機がうまく動作しないときにお読みください。トラブルの解決方法を説明しています。

❑ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

**本書で使われている本機のイラスト画面について**

本書で使われている本機のイラストは断りがない限りPCV-L750／L550のものです。また、本書で使われている画面は実際のものと異なる場合があります。

オンラインマニュアルの使いかた

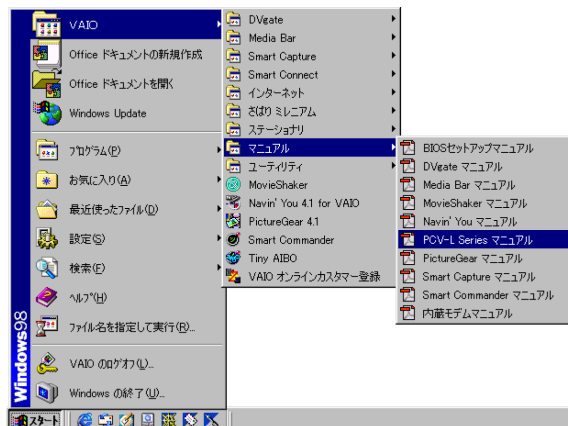
この取扱説明書の内容や本機に付属のソフトウェアの取扱説明書、BIOSセットアップメニューや内蔵モデムについての情報は、オンラインマニュアル*として本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。
また、本機に付属しているソフトウェアによっては、ヘルプをデスクトップ画面上でお読みいただけます。
*PDF（Portable Document Format）のファイルで付属しています。

デスクトップ画面とは
本機の電源を入れた後、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、読みたいオンラインマニュアルをクリックする。
ここでは、この取扱説明書の内容を表示させてみます。



本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、この取扱説明書の内容が表示されます。

「Adobe Acrobat Reader」を初めて起動したときは

「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、［同意する(A)］をクリックしてください。

オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、［ ］をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」の［ヘルプ(H)］をクリックしてヘルプをご覧ください。



各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書やオンラインマニュアルをご覧ください。

別冊の「ご確認ください」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

 **ヘルプとは**

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 98などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

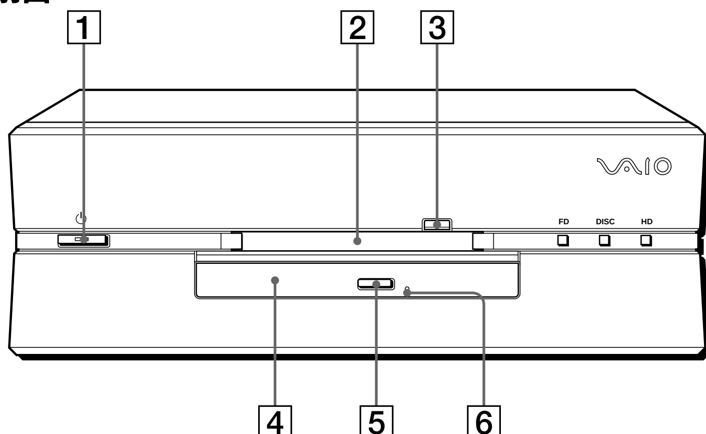
各部の名称と働き

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

キーボードの各部の名称と働きについては

「キーボードを使う」（39ページ）をご覧ください。

本機前面



1 **⏻（電源）スイッチと電源ランプ（30ページ）**
本機とディスプレイの電源を入／切するときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。

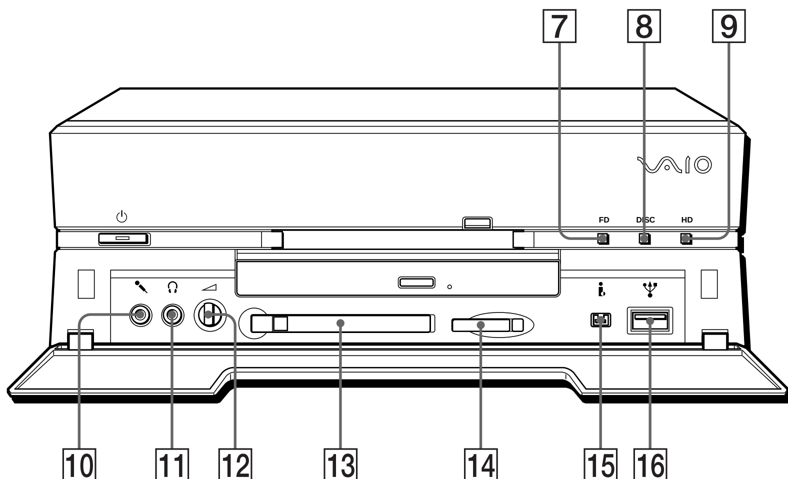
2 **フロッピーディスクドライブ（66ページ）**
3.5インチのフロッピーディスクからデータを読み込んだり、書き込んだりします。

3 **フロッピーディスクイジェクトボタン（67ページ）**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

4 **CD-RWドライブ（55ページ）**
CD-RWやCD-Rにデータを書き込んだり、CD-ROMのデータを読み込みます。

5 **ディスクイジェクトボタン（57ページ）**
ディスクを取り出すときに押します。

6 **マニュアルイジェクト穴（58ページ）**
ディスクイジェクトボタンを押してもディスクを取り出せないときに使います。



7 FD（**フロッピーディスクドライブ）アクセスランプ**（67**ページ**）
フロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

8 DISC（**ディスク）アクセスランプ**（57**ページ**）
ディスクのデータを読み込んでいるときやデータを書き込んでいるときにオレンジ色に点灯します。

9 HD（**ハードディスク）アクセスランプ**
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

10 MIC（**マイクロホン）コネクタ**（81、132**ページ**）
付属の音声認識用のヘッドセットマイクや市販のモノラルマイクをつなぎます。

11 PHONES（**ヘッドホン）コネクタ**（132**ページ**）
市販のステレオヘッドホンをつなぎます。

12 VOLUME（**音量調節）つまみ**
PHONESコネクタにつないだヘッドホンの音量を調節します。

13 PC CARD（PC**カード）スロット**（155**ページ**）
メモリカードなどのPCカードからデータを読み込んだり、SCSIカードでSCSIデバイスをつないだりします。

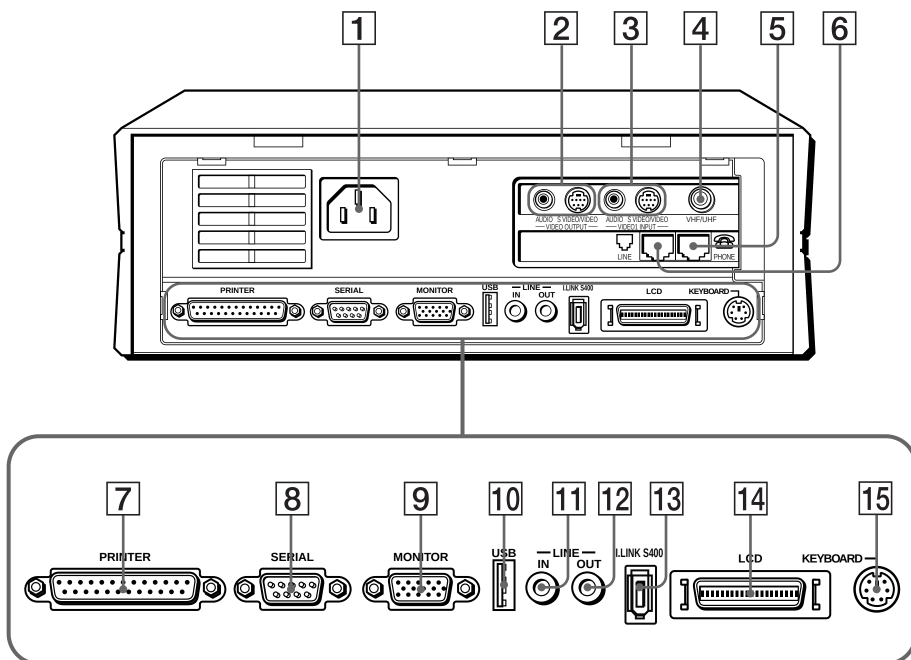
14 MEMORY STICK ™（**メモリースティック）スロット**（74、118**ページ**）
" メモリースティック "のデータを読み込んだり、書き込んだりします。

15 i.LINK S400 **コネクタ**（4**ピン**）（140**ページ**）
i.LINK対応機器をつなぎます。

16 USB（Universal Serial Bus）**コネクタ**（146**ページ**）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

次のページにつづく

本機後面



1 **AC電源入力プラグ**
付属の電源コードをつなぎ、AC電源につなぎます。

2 VIDEO OUTPUT（**映像出力**）**コネクタ**（PCV-L450G**のみ**）（136、137**ページ**）
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。

S VIDEO／VIDEO（S**映像／映像出力**）**：**
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像入力コネクタとつなぎます。本機で再生した動画を、よりきれいな画質で録画することができます。

付属のビデオ接続用変換コネクタを使うことにより、映像出力コネクタとして使用することもできます。

AUDIO（**音声出力**）**：**
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声入力コネクタとつなぎます。

3 VIDEO 1 INPUT（**映像入力**）**コネクタ**（PCV-L450G**のみ**）（135**ページ**）
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。

S VIDEO／VIDEO（S映像／映像入力）：
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力コネクタとつなぎます。よりきれいな映像を本機で見たり録画することができます。付属のビデオ接続用変換コネクタを使うことにより、映像入力コネクタとして使用することもできます。

AUDIO（音声入力）：
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力コネクタとつなぎます。

4 **VHF/UHF（アンテナ）コネクタ（PCV-L450Gのみ）（113ページ）**
アンテナをつなぎます。

5 **PHONE ☏（電話機）ジャック**
電話機をつなぎます。

6 **LINE（電話回線）ジャック**
壁の電話回線とつなぎます。

7 **PRINTER（プリンタ）コネクタ（145ページ）**
市販のプリンタやスキャナなどをつなぎます。

8 **SERIAL（シリアル）コネクタ**
SERIALコネクタを持った機器をつなぎます。

9 **MONITOR（モニタ）コネクタ**
ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200など、別売りのディスプレイをつなぎます。

10 **USB（Universal Serial Bus）コネクタ（146ページ）**
USB規格に対応した機器をつなぎます。

11 **LINE IN（ライン入力）コネクタ（133ページ）**
オーディオ機器をつなぎます。

12 **LINE OUT（ライン出力）コネクタ（133ページ）**
オーディオ機器やアンプ内蔵のアクティブスピーカーなどのヘッドホンコネクタとつなぎます。

13 **i.LINK S400 i コネクタ（6ピン）（140ページ）**
i.LINK対応機器をつなぎます。

14 **LCD（液晶ディスプレイ）コネクタ**
本機に付属の液晶ディスプレイをつなぎます。

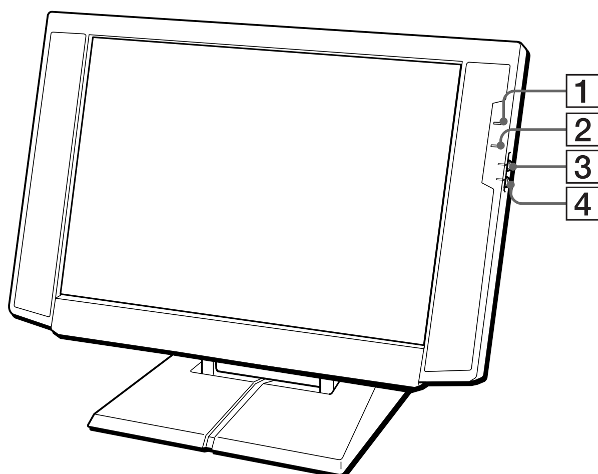
ご注意

付属の液晶ディスプレイ以外のディスプレイをつなぐことはできません。

15 **KEYBOARD（キーボード）コネクタ**
付属のキーボードをつなぎます。

次のページにつづく

液晶ディスプレイ PCVA-15QTAP2（PCV-L750）
PCVA-15XTAP（PCV-L550／L450G）



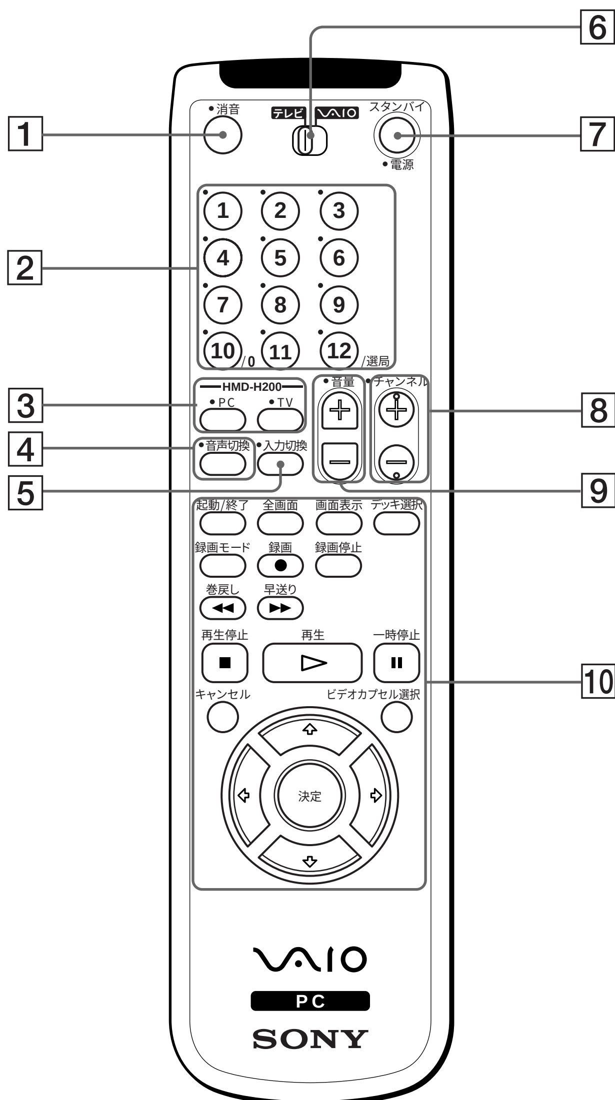
1 ⏻（電源）ランプ（30ページ）
本機とディスプレイの電源が入っている間、緑色に点灯します。
本機がスタンバイモードのときは、オレンジ色に点灯します。

2 （インフォメーション）ランプ（104、112ページ）
メール着信をお知らせするなど、本機内蔵のタイマー機能実行後の結果を赤色の点灯で表示します。

3 ☼（明るさ調節）ダイヤル
液晶ディスプレイの画面の明るさを調節します。

4 ◿（音量調節）ダイヤル
液晶ディスプレイのスピーカーの音量を調節します。

リモコン（PCV-L450Gのみ）



次のページにつづく

リモコンボタンのモード別機能一覧

リモコンで操作できるモードには、以下の2つがあります。

テレビモード：本機につないだHMD-H200（別売り）またはテレビを操作するモード

VAIO**モード**：付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを操作するモード

テレビ／VAIO切り換えスイッチで、テレビモードとVAIOモードを切り換えた場合、それぞれのボタンの機能は以下の表のように変わります。

 **ちょっと一言**

テレビモードで使えるボタンには、ボタン名の横に黄色い小さな丸がついています。

ボタン名	**テレビモード**	VAIO**モード**
1 **消音ボタン**（116**ページ**）	一時的に音を消します。もう一度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。	一時的に音を消します。もう一度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。
2 **チャンネル数字ボタン**（115**ページ**）	チャンネルを選択します。	チャンネルを選択します。
3 HMD-H200	本機に別売りのソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をつないだとき、HMD-H200の映像入力を切り換えます。 **ご注意** 3のボタンは、お買い上げ時はHMD-H200を操作できるように設定されています。ただし、リモコン信号がHMD-H200以外のテレビに設定されている（27ページ）と使えません。	使用できません。
• PC**ボタン**	コンピュータの画面を見るときに押します。	使用できません。
• TV**ボタン**	テレビを見るときに押します。	使用できません。
4 **音声切換ボタン**（116**ページ**）	二カ国語放送などの音声を切り換えるときに押します。	二カ国語放送などの音声を切り換えるときに押します。

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
5 **入力切換ボタン**（116ページ）	外部入力された映像に切り換えるときに押します。別売りのソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200を操作する場合、このボタンを押すと「VIDEO」に切り換わります。	本機につないだビデオデッキやビデオレコーダーなどの機器からの入力に切り換えるときに押します。
6 **テレビ**／VAIO **切り換えスイッチ**	リモコンの操作モードをVAIOモードに切り換えます。	リモコンの操作モードをテレビモードに切り換えます。
7 **電源／スタンバイボタン**（32、116ページ）	テレビの電源を入／切します。	本機の動作中にこのボタンを押すと、スタンバイモードに入ります。詳しくは、32ページおよび「省電力機能の設定を変更する」（193ページ）をご覧ください。 **ご注意** このボタンを押して、本機の電源を入れることはできません。
8 **チャンネルボタン**（115ページ）	テレビのチャンネルを選択します。	テレビのチャンネルを選択します。
9 **音量ボタン**（115ページ）	テレビの音量を調整します。	音量を調整します。 **ご注意** 本機につないだディスプレイやスピーカーで調整した音量以上の大きさにはなりません。
10 「Giga Pocket」**ソフトウェアボタン**		
• **起動/終了ボタン**	使用できません。	「Gigaビデオレコーダー」を起動します。もう一度押すと、「Gigaビデオレコーダー」が終了します。
• **全画面ボタン**	使用できません。	「Gigaビデオレコーダー」を全画面表示します。もう一度押すと、全画面表示が終了し、「Gigaビデオレコーダー」が元の大きさで表示されます。

次のページにつづく

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
• **画面表示ボタン**	使用できません。	全画面表示のときに、テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキを表示します。もう一度押すと、テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキの映像が消えます。
• **デッキ選択ボタン**	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキを切り換えます。
• **録画モードボタン**	使用できません。	以下のように録画モードを切り換えます。 → **ビデオ**CD → **標準** → **高画質** →
• **録画ボタン**	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキで見ているテレビ番組を録画します。
• **録画停止ボタン**	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキで見ているテレビ番組の録画を停止します。
• **巻戻しボタン**	使用できません。	ビデオカプセルを再生しながら巻き戻しをします。
• **早送りボタン**	使用できません。	ビデオカプセルを再生しながら早送りをします。
• **再生停止ボタン**	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルの再生を停止します。
• **再生ボタン**	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルを再生します。
• **一時停止ボタン**	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルの一時停止をします。
• **キャンセルボタン**	使用できません。	エラーメッセージなどが表示された画面を閉じます。全画面表示しているときは元の大きさに戻ります。
• **ビデオカプセル選択ボタン**	使用できません。	ビデオカプセル選択画面を表示します。もう一度押すと選択画面は消えます。

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
• **上下左右ボタン（↑／↓／←／→）**	使用できません。	ビデオカプセル選択画面で、キャビネットやビデオカプセルを上下左右に選びます。
• **決定ボタン**	数字ボタンと組み合わせて使うと、リモコン信号を各社の設定に変更できます。（28ページ）	ビデオカプセルを選びます。

ちょっと一言

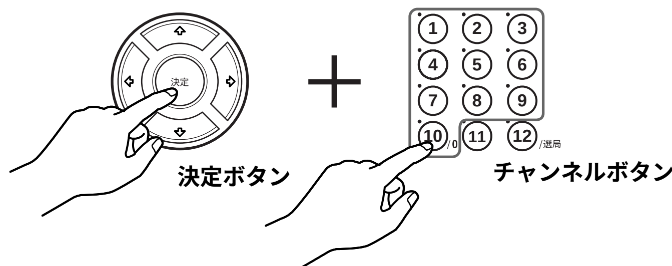
⑩「Giga Pocket」ソフトウェア専用ボタンの使いかたについて詳しくは、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

リモコンで各社のテレビを操作するには

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビのチャンネルや音量、電源を操作できます。お買い上げ時は、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200を操作できるよう設定されています。
設定するには、リモコンの決定ボタンを押しながら、チャンネル数字ボタンを押します。

例：テレビのメーカーを「ソニー（01）」に合わせる場合

決定ボタンを押しながら ⑩/0 ボタンと ① ボタンを順番に押します。



ご注意

⑪ ボタンと ⑫ ボタンは設定に使うことはできません。「12」と入れるときには、決定ボタンを押しながら、① ボタンと ② ボタンを押します。

次のページにつづく

テレビのメーカー番号は次の表の通りです。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー（Ⓡマーク付き）	01
松下電器1*	02
東芝	03
日立製作所	04
三菱電機	05
日本ビクター	06
三洋電機1*	07
シャープ1*	08
NEC	09
パイオニア**	10
富士通ゼネラル	11
ソニー（Ⓡマーク無し）**	12
松下電器2*	13
フナイ(PRECIOUS)	14
三洋電機2*	15
シャープ2*	16
アイワ	17
三星(SAMSUNG)	18
HMD-H200	19（お買い上げ時の設定）

＊　メーカー番号（02、07、08）で操作できないときは同じメーカーのもう1つの番号（13、15、16）にしてください。

＊＊ 入力切換ボタンは使えません。

ご注意

- テレビによっては、メーカー番号を合わせても操作できなかったり、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンの乾電池を交換したときは、リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「テレビ」に切り換え、テレビのメーカー番号を合わせ直してください。

操作編

電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

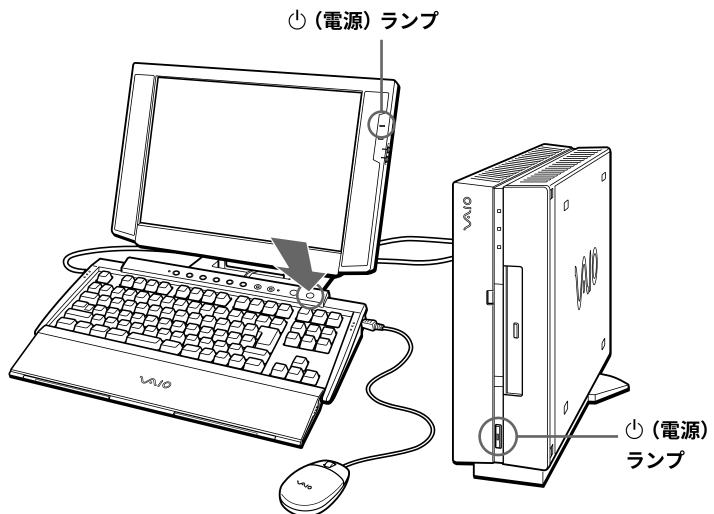
- ディスプレイが正しく接続されているか。
- キーボードが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。（67ページ）

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

キーボードの ⏻（電源）キーを押す。

本機とディスプレイの電源が入り、本機とディスプレイの ⏻（電源）ランプが緑色に点灯し、Windows 98が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 98のセットアップ画面が表示されます。Windows 98のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」をご覧ください。



本機の ⏻（電源）スイッチでも電源を入れることができます

詳しくは「各部の名称と働き」（18ページ）をご覧ください。

ご注意

4秒以上 ⏻（電源）キーを押したままにすると、電源は切れてしまいます。

電源を切る

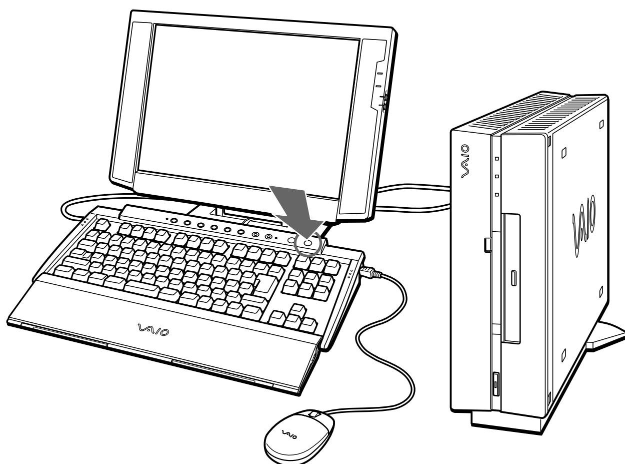
本機とディスプレイの電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

キーボードの ⏻（電源）キーを押す。

しばらくすると本機とディスプレイの電源が自動的に切れ、⏻（電源）ランプが消灯します。



 **スタート ボタンからも電源を切れます**

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、スタートメニューの［Windowsの終了］をクリックする。**

「Windowsの終了」画面が表示されます。

2 **［電源を切れる状態にする］をクリックして選び、 OK をクリックする。**

しばらくすると、本機とディスプレイの電源が自動的に切れ、⏻（電源）ランプが消灯します。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒以内は電源を入れないでください。

次のページにつづく

⏻（電源）キーを押しても、または スタート から終了操作しても電源が切れないときは

以下の作業を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出すには」（159ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは取りはずす。

それでも電源が切れないときは、「困ったときは」の「電源」（200ページ）をご覧ください。

一時的に作業を中断するときは

次の操作で、一時的にシステム全体の動作を停止します（スタンバイモード）。このとき、本機とディスプレイの ⏻（電源）ランプはオレンジ色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。

- キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押す
- リモコンの電源／スタンバイボタンを押す（PCV-L450Gのみ）

通常の動作モードに戻すには、キーボードの ☾（スタンバイ）キーを再度押します。

本機には2つのスタンバイモードが用意されています。モードの切り換えについて詳しくは「省電力機能の設定を変更する」（193ページ）をご覧ください。

ご注意

- スタンバイモードのときに、電源コードをコンセントから抜かないでください。作業を中断する前の状態に戻れなくなります。また、本機の故障の原因となることがあります。
- 付属の液晶ディスプレイは、本機より電源が供給されています。スタンバイモードに移行すると、ディスプレイの電源も自動的に切れます。
- PCV-L450Gに付属のリモコンを使ってスタンバイモードに入る場合、電源／スタンバイボタンを長く押し続けると、本機がスタンバイモードに移行したあと、すぐに通常の動作モードに戻ることがあります。リモコンの電源／スタンバイボタンを押すときは、ポンと軽く押してください。

再起動する

本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要がある場合があります。

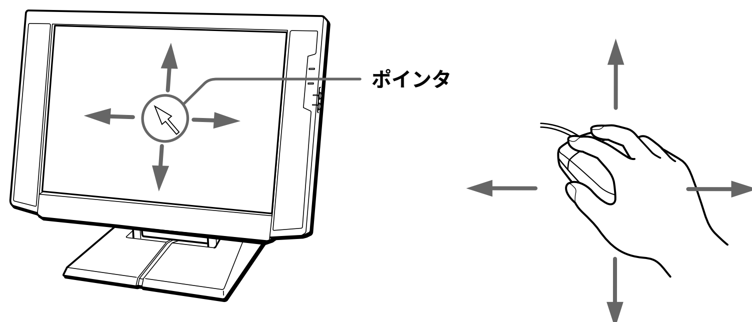
1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。**
「スタート」メニューが表示されます。

2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**
「Windowsの終了」画面が表示されます。

3 **「再起動する」をクリックして選び、 OK をクリックする。**
本機が再起動します。

マウスを使う

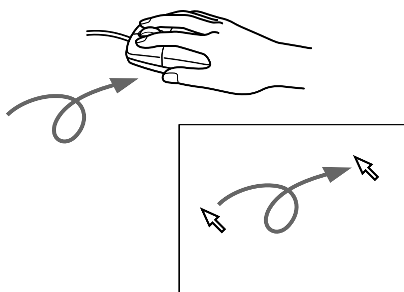
ここではマウスの使いかたを説明します。
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン、右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

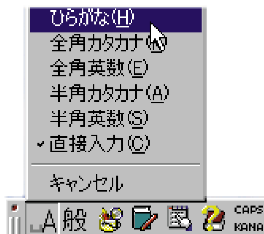
マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



ポイントする

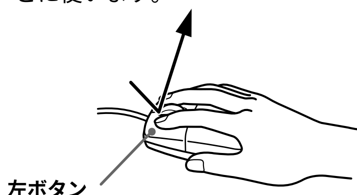
ポインタを希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。



クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

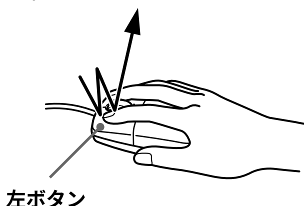
OK や キャンセル などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

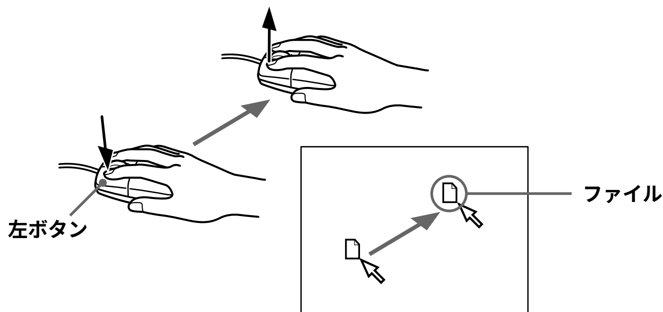
ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



次のページにつづく

ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

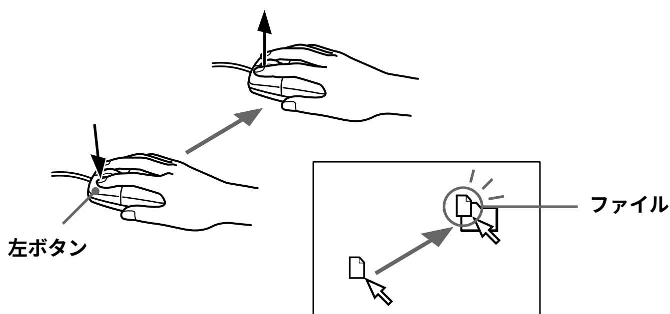


ドラッグアンドドロップする

ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。

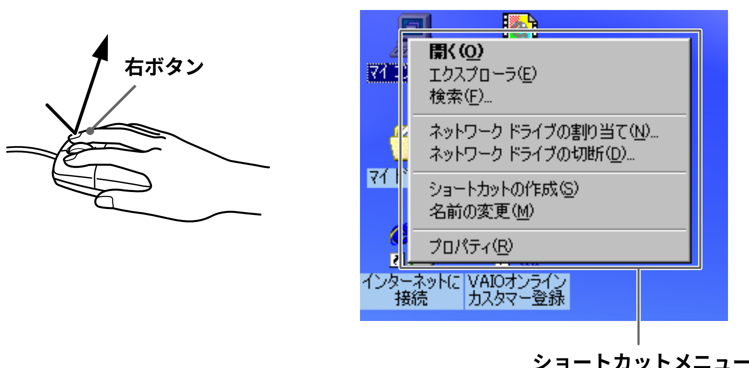
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。

ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、ソフトウェアでそのファイルを開くことができます。



右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。
ショートカットメニューを使うと、メニューなどを開かずに、さまざまな機能を直接使うことができます。



ホイールボタンの使いかた

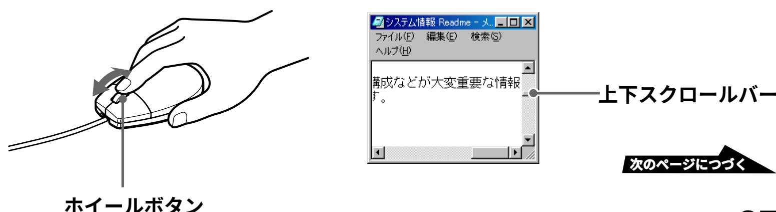
ホイールボタンを使うことによって、スクロール、オートスクロール、ズームなどの操作ができます。

ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

スクロールする

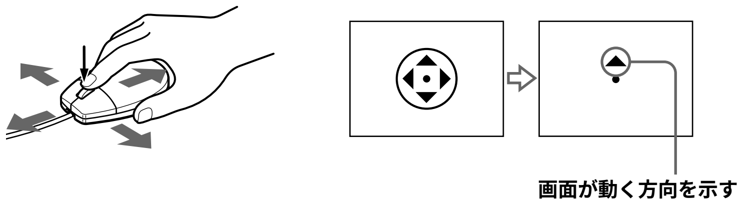
ウィンドウ上で上下スクロールバーが表示されているときに、ホイールボタンを転がすと、画面が上下して表示されていない情報を見ることができます。
また、上下スクロールバーをポイントし、ホイールボタンを転がして上下にスクロールすることもできます。



次のページにつづく

パンする

ホイールボタンを押しながらマウスを動かして、画面を上下左右に動かすことです。



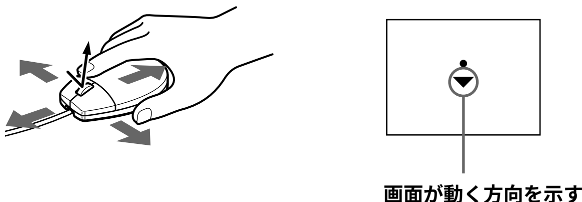
 ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもパンすることができます。

オートスクロールする

ホイールボタンを押してすぐ離し、マウスを動かして自動的に画面を動かすことです。

カーソルを元に戻す場合は、ホイールボタンをもう1度押すか、左または右ボタンをクリックします。



 ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもオートスクロールすることができます。

ズーム／データズームする

ズームする

キーボードの Ctrl（コントロール）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ画面を拡大したり縮小することです。

データズームする

キーボードの ⇧Shift（シフト）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ上のデータを上または下の階層に切り換えることです。

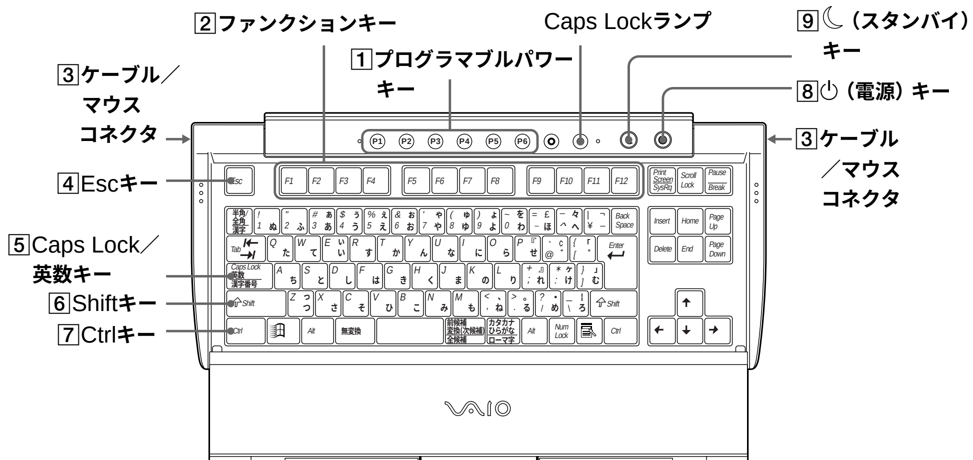
ご注意

この機能はMicrosoft Office 97と互換性のあるプログラムでのみ働きます。

ホイールボタンにスクロールやオートスクロール以外の機能を割り当てることもできます。
詳しくは「マウスの設定を変更する」（187ページ）をご覧ください。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、主なキーのなまえと機能を紹介します。
文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（46ページ）をご覧ください。

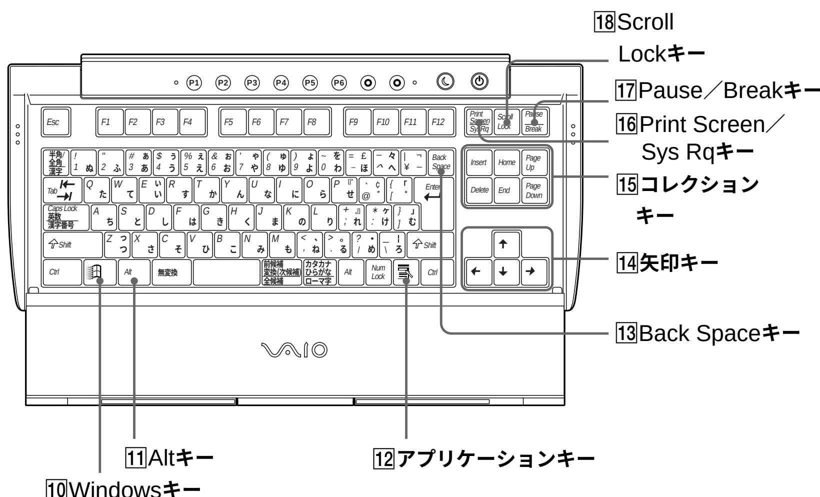


次のページにつづく

なまえ	機能
1 プログラマブルパワーキー P1 P2 P3 P4 P5 P6	これらのキーを押すだけで、好みのソフトウェアなどを起動します。詳しくは、「好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPKの使いかた）」（96ページ）をご覧ください。
2 ファンクションキー F1 ～ F12	使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
3 ケーブル／マウスコネクタ	付属のキーボード接続ケーブルまたはマウスを接続します。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。
4 Esc（エスケープ）キー Esc	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
5 Caps Lock（キャプス・ロック）／英数／漢字番号キー Caps Lock 英数 漢字番号	Shift（シフト）キーを押しながらこのキーを押し、キーボード上部の Caps Lock（キャプス・ロック）ランプが点灯しているときに文字キーを押すと、アルファベットの大文字を入力できます。 もう1度 Shift（シフト）キーを押しながらこのキーを押すと、アルファベットの小文字入力に戻ります。 Ctrl（コントロール）キーを押しながらこのキーを押すと、文字キーを押すだけでキートップ右下に印字されているひらがなをカタカナで入力できます。

なまえ	機能
6 Shift（シフト）キー ⇧Shift	アルファベット入力時に文字キーと組み合わせて使うと、アルファベットの大文字を入力できます。アルファベットの大文字入力モードのときは、文字キーと同時に押すとアルファベットの小文字を入力できます。数字キーや記号キーと同時に押した場合は、キートップ上段に印字されている文字を入力できます。 例）⇧Shift（シフト）キーを押しながら、1キーを押す。 「!」（感嘆符）を入力できます。 また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
7 Ctrl（コントロール）キー Ctrl	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrl（コントロール）キーを押しながら、S とキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
8 電源キー ⏻	本機とディスプレイの電源を入れます。（30ページ）
9 ☾（スタンバイ）キー	本機のシステム全体の動きを一時的に停止します（スタンバイモード）。

次のページにつづく



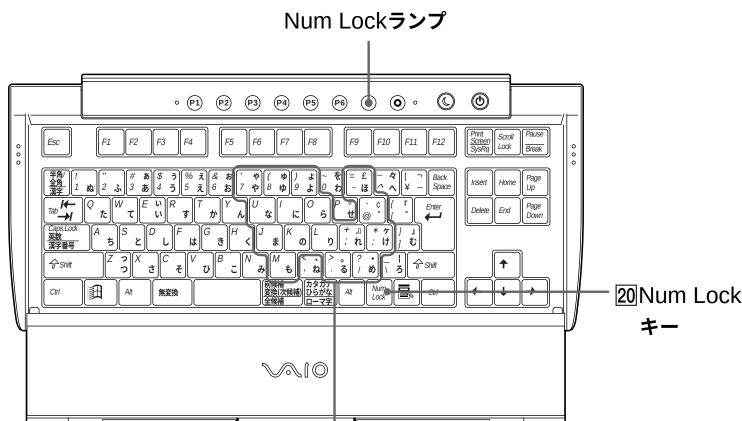
なまえ	機能
⑩Windows（ウィンドウズ）キー 	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよび「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（45ページ）をご覧ください。
⑪Alt（オルト）キー 	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
⑫アプリケーションキー 	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
⑬Back Space Back Space（バックスペース）キー	画面上のカーソルがある位置の左の文字を消すときに押します。
⑭矢印キー 	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。

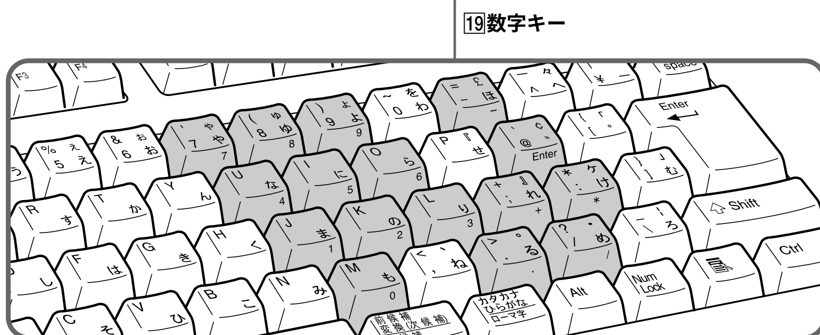
なまえ	機能
⑮コレクションキー	
• Insert（インサート）キー Insert	文字入力のモードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り換わります。
• Delete（デリート）キー Delete	画面上のカーソルがある位置の右の文字を消すときに押します。
• Home（ホーム）キー Home	行の先頭にカーソルを移動するときに押します。
• End（エンド）キー End	行の最後にカーソルを移動するときに押します。
• Page Up Page Up（ページアップ）キー	現在表示している画面の前のページを表示します。
• Page Down Page Down（ページダウン）キー	現在表示している画面の次のページを表示します。
⑯Print Screen／Sys Rq（プリントスクリーン／システムリクエスト）キー Print Screen Sys Rq	表示されている画面全体をクリップボードに取り込みます。Alt（オルト）キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブなウィンドウの画面だけを取り込みます。 取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に張りつけられます。
⑰Pause／Break（ポーズ／ブレイク）キー Pause Break	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 Ctrl（コントロール）キーを押しながらこのキーを押すと、Breakキーとして働きます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
⑱Scroll Lock（スクロール・ロック）キー Scroll Lock	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。



アクティブなウィンドウとは

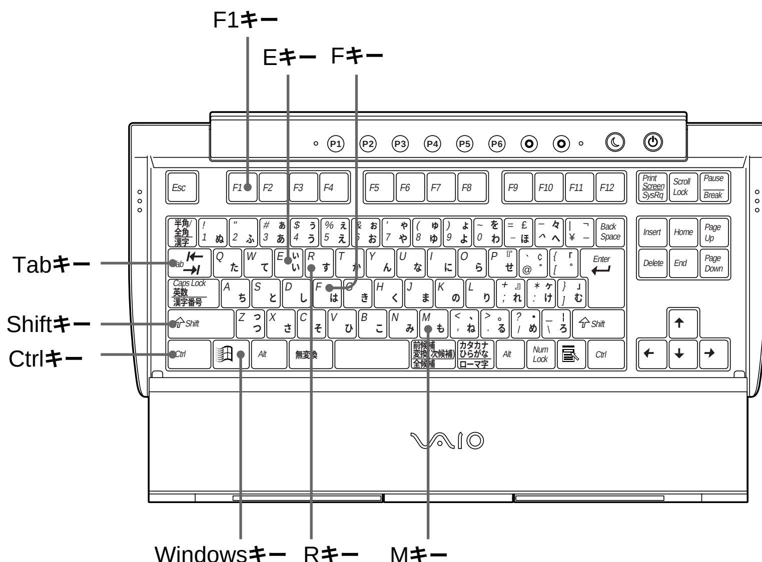
デスクトップ画面上で表示されているウィンドウの中で、最前面に表示されているウィンドウはタイトルバー（ウィンドウの上の部分）が青色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。





なまえ	機能
⑲数字キー	Num Lock （ナム・ロック）キーを押し、キーボード上部のNum Lock（ナム・ロック）ランプが点灯しているときにこれらのキーを押すと、キー前面右側に印字されている数字を入力できます。
⑳Num Lock（ナム・ロック）キー 	このキーを押すと、数字キーを押すだけで数字を入力できます。 例）Uキーを押す。 「4」が入力されます。 もう1度 Num Lock （ナム・ロック）キーを押すと、もとの状態に戻ります。

Windowsキーとの主な組み合わせと機能



キー操作の表記

例：⊞ +F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り替えます。
⊞ +E	エクスプローラ*を表示します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべての画面を最小化します。
Shift+⊞ +M	最小化されているすべての画面を元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。 ［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行…」を選んだときと同じです。

* コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピュータのどこに保存されているか、一目で確認できます。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」ソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。



ちょっと一言

キーボード上の特殊なキーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（39ページ）をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、「ワードパッド」ソフトウェアを起動します。

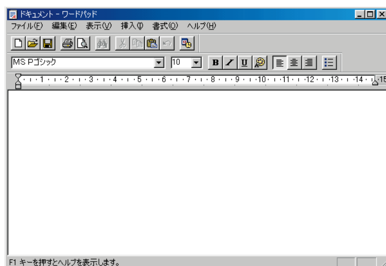
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。



2 **メニューの［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。**

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「ワードパッド」ソフトウェアの画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

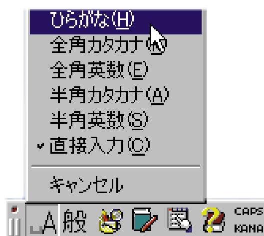
キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IME」のツールバーを使って、入力文字を切り替える必要があります。



MS-IME **ツールバー**

1 **デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバーの［␣A］をクリックする。**

文字入力選択メニューが表示されます。



2 **メニューの［ひらがな］をクリックする。**

ツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。



［␣A］から［あ］に変わる。

次のページにつづく

 **MS-IMEツールバーが表示されていないときは**

デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をクリックし、表示されたメニューの中から［ツールバーを表示］をクリックします。
MS-IMEツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

 **タスクトレイとは**

デスクトップ画面右下の部分のことです。本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindows 98の機能がここに表示されています。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つまたは3つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

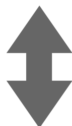
かな入力とローマ字入力を切り替えるには

MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら、Caps Lock 英数 漢字番号（キャプス・ロック／英数／漢字番号）キーを押す。
ローマ字入力とかな入力とが切り替わります。

かな入力



KANAの文字が押された状態



［KANA］をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら、Caps Lock 英数 漢字番号（キャプス・ロック／英数／漢字番号）キーを押す。

ローマ字入力



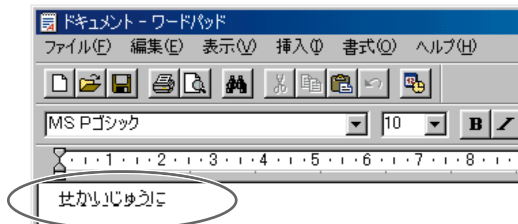
KANAの文字が押されていない状態

文字入力を練習する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったソニーVAIO」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

かな入力の場合

せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shift（シフト）キーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。

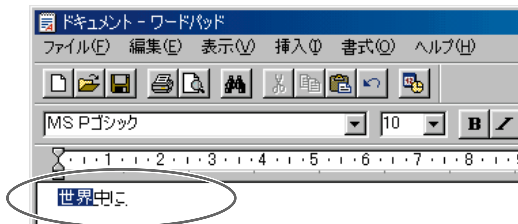
キーを押すごとに、カーソル（画面上で点滅している「｜」のこと）が文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

2 ［　　　］（スペース）キーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。

間違った漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、スペースキーを押します。

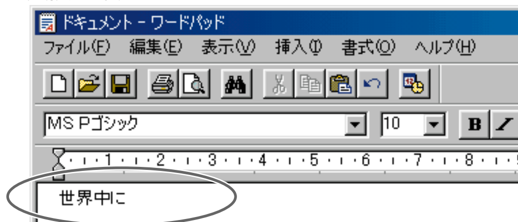


ちょっと一言

「き」など同音異義の漢字がたくさんある場合は、変換候補が表示されるまでスペースキーを押しつづけます。

3 ［Enter］（エンター）キーを押す。

変換が確定します。



間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

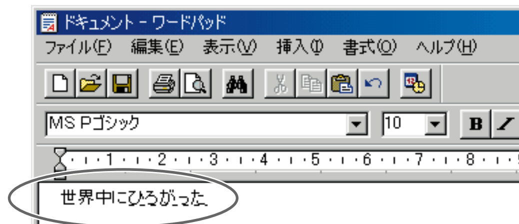
［Back Space］**（バック・スペース）キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

［Delete］**（デリート）キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

［Esc］**（エスケープ）キー**：確定していない文字をすべて消します。

2 ひらがなを入力する

1 **「ひろがった」の読みを入力する。**



ローマ字入力の場合

H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

ちょっと一言

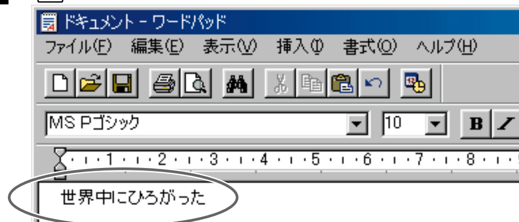
小さい「っ」を入力するときは、「かった」のように次の文字が「た」であればTキーを2回押します。

かな入力の場合

ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shift（シフト）キーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 **Enter（エンター）キーを押す。**



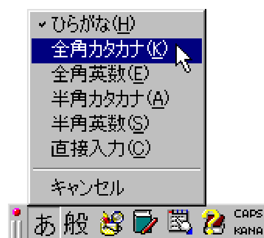
変換する必要がないので、（スペース）キーを押す必要はありません。

次のページにつづく

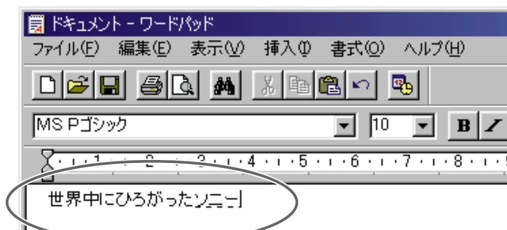
3 カタカナを入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［全角カタカナ］をクリックする。**

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。



2 **「ソニー」の読みを入力する。**



ローマ字入力の場合

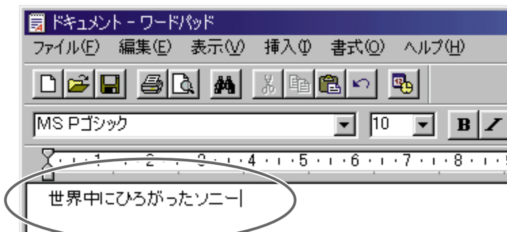
S、O、N、I、–（ハイフン）の順にキーを押します。

かな入力の場合

そ、に、— の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 **Enter（エンター）キーを押す。**

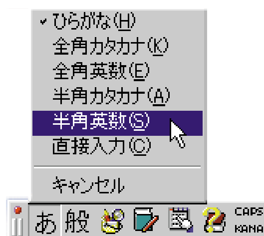


変換する必要がないので、［　　］（スペース）キーを押す必要はありません。

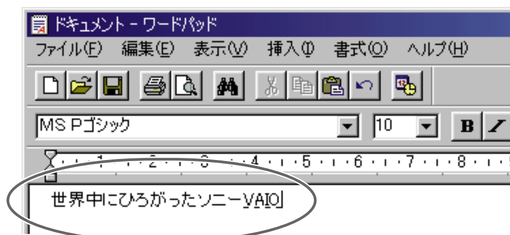
4 英字を入力する

1 MS-IMEのツールバーの［カ］をクリックして、［半角英数］をクリックする。

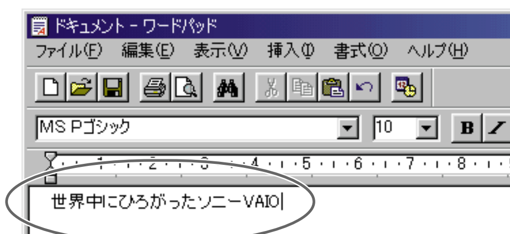
ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。



2 Shift（シフト）キーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



3 Enter（エンター）キーを押す。



変換する必要がないので、［　　　］（スペース）キーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shift（シフト）キーを押す必要はありません。

次のページにつづく

これで「世界中にひろがったソニーVAIO」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたはMS-IMEのヘルプをご覧ください。

「～」や「~」を入力するには

- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（47ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまで［ ］（スペース）キーを押すか、［Shift］（シフト）キーを押しながら［~ ^ へ］キーを押します。
- インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、MS-IMEツールバーで「半角英数」（53ページ）または「直接入力」を選び、［Shift］（シフト）キーを押しながら［~ ^ へ］キーを押します。

CD-ROMを使う

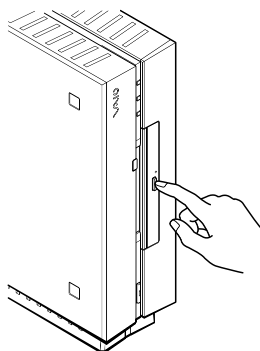
CD-ROMは、コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータが記録された、読み取り専用のコンパクトディスクです。大容量のデータを記録することができますが、読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。
CD-ROMは市販のプログラムやゲームなどで使われることが多いメディアです。
ここでは、CD-ROMの使いかたについて説明します。

ディスクを入れる

次の手順に従って、ディスクをCD-RWドライブに入れます。

1 **本機の電源が入っていることを確認する**（30ページ）。

2 **ディスクイジェクトボタンを押す。**
ディスクトレイが出てきます。

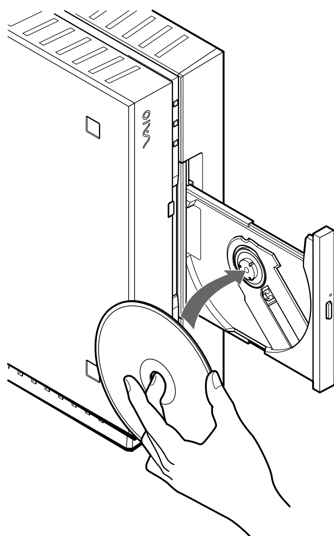


次のページにつづく

3 **ディスクトレイを最後まで引き出す。**

4 **再生したいディスクの面をトレイ側に向けて、トレイの裏側を手で支えながら、トレイ中央の突起部にカチッと音がするまでディスクをはめ込む。**

CD-ROMの場合は、レーベル面（文字が書いてある面）を外側に向けて入れます。



ご注意

- きちんとディスクをはめ込まないでトレイを閉じると、トレイが開かなくなることがあります。
- ディスクを入れるときは、記録面（文字が印刷されていない面）には絶対に触れないようにしてください。CD-RW／CD-Rの場合には、記録面が汚れると、データの読み書きができなくなることがあります。

5 **ディスクトレイを軽く押して、トレイを閉める。**

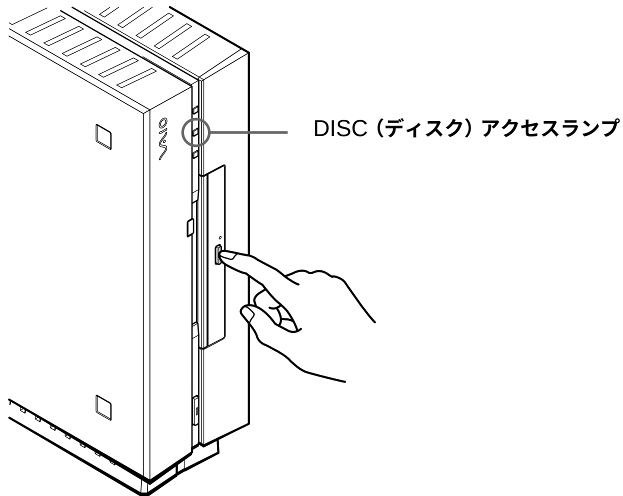
ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めると、DISC（ディスク）アクセスランプがオレンジ色に点灯します。

 **ちょっと一言**

上記の「ディスクを入れる」の手順5を行うと自動的に実行するディスクもあります。

ディスクを取り出すには

DISC（ディスク）アクセスランプが点滅していないことを確認してから、ディスクイジェクトボタンを押します。



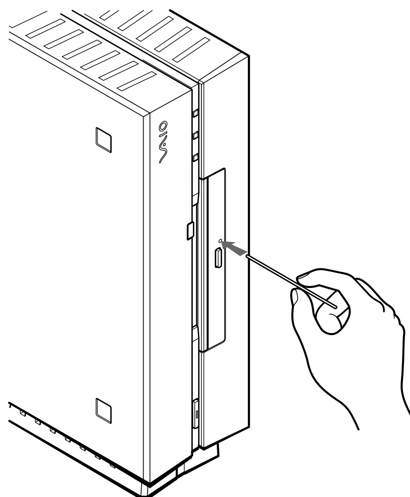
ご注意

- ディスクイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。
- CD-RW／CD-Rは、ディスクイジェクトボタンを押してもディスクがロックされている場合など、状態によってはトレイが引き出されないことがあります。詳しくは、付属の「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

次のページにつづく

ディスクイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは

針金のようなもの（太めのクリップで代用可）を、マニュアルイジェクト穴に押し込んでください。



ご注意

針金などを使ってディスクを取り出すときは、手や指にけがをしないように十分注意してください。

データを使う

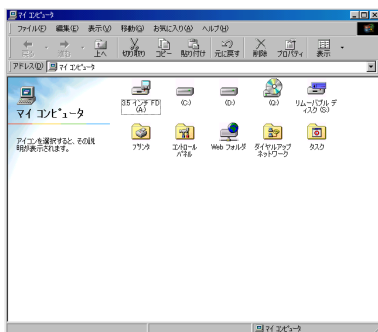
ここではCD-ROM／CD-RW／CD-Rから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

ちょっと一言

ディスクをCD-RWドライブに入れると、自動的に再生が始まるディスクもあります。このようなディスクの場合は、エクスプローラを使って内容を表示させてください。エクスプローラを起動するには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし［プログラム］にポインタを合わせ、［エクスプローラ］をクリックします。

1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

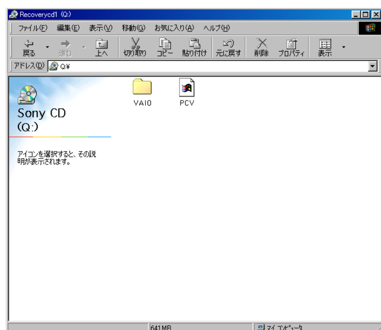
「マイコンピュータ」画面が表示されます。



次のページにつづく

2 (Q:) をダブルクリックする。

「ディスクを入れる」（56ページ）の手順5で読み込まれたディスクの内容が表示されます。



3 目的に応じて操作する。

ディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、別冊のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよびヘルプをご覧ください。

Windows 98のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

ハードディスクドライブとは

コンピュータの記憶装置のことで、データの書き込み／読み出しを高速で行います。

再生できるディスク

本機のCD-RWドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク	
CD-ROM	COMPACT disc	
音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	
CD Extra	COMPACT disc+ DIGITAL AUDIO	CD EXTRA TM
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO	VIDEO CD
CD-R*	COMPACT disc Recordable	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable
CD-RW*	COMPACT disc ReWritable	
CDTEXT	COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT	CD TEXT

* 本機では、何も書き込まれていないCD-RW／CD-Rディスク、書き込みに失敗したCD-RW／CD-Rディスク、データ書き込み後にデータを読み込めるように設定していないディスクはお使いになれません。

ご注意

- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- CD-Rを使用して作成した音楽CDは、ご使用のCDプレーヤーによっては再生できない場合があります。CD-RWを使用して作成した音楽CDは、CDプレーヤーでは再生できません。CD-RWに対応しているドライブで再生してください。

CD-RW／CD-Rにデータを記録する

CD-RW（CD-Rewritable）は、CD-ROMと外見は似ていますが、コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータを何度も書き込んだり消去したりすることができるコンパクトディスクです。
CD-R（CD-Recordable）は、コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータを一度だけ書き込むことができるコンパクトディスクです。
CD-RW／CD-Rには、フロッピーに入りきらない大容量のデータを保存することができます。
本機では付属の「DirectCD」や「Easy CD Creator」ソフトウェアを使ってCD-RW／CD-Rにデータを記録できます。
ここでは、CD-RW／CD-Rの使いかたについて説明します。

ご注意

- いかなる原因であっても、書き損じたCD-RW／CD-Rは一切補償いたしません。あらかじめご了承ください。また、CD-RW／CD-Rによっては正常に書き込みができないことがあります。CD-RW／CD-Rはソニー製をお使いになることをおすすめします。
- CD-RW／CD-Rにデータを実際に書き込む前には、テスト書き込みを行うことをお勧めします。
- 付属の「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェア以外をご使用になる場合は、各ソフトウェアの製造・販売者による動作保証ならびにサポートとなりますので、あらかじめご了承ください。
- 「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-Rを他のCD-ROMドライブで再生するには、CD-Rを取り出す際に、CD-ROMドライブでも再生できるように設定する必要があります。CD-Rを取り出す際に表示される画面の指示に従って操作してください。
- 「DirectCD」ソフトウェアで音楽CDを作成したり、音楽CDや市販のCD-ROMなどをコピーすることはできません。
- CD-RW／CD-Rは4倍速以上に対応しているものをお使いください。
- 4倍速以上に対応していないCD-RW／CD-Rをお使いの場合は、書き込みの速度が遅くなります。
- 本機はCD-RW／CD-Rへの1倍速への書き込みはサポートしておりません。書き込み速度は「4×」（4倍速）または「2×」（2倍速）に設定してご使用ください。
「DirectCD」などのCD-RW／CD-Rライティングソフトウェアで書き込み速度を「1×」に設定して書き込むと、正常に書き込まれず、すでに書き込まれていたデータも読み出せなくなることがあります。なお、本機に付属の「DirectCD」ソフトウェアをお使いの場合は、あらかじめ「4×」に設定されています（お買い上げ時）。
- データの書き込み中は、本機に衝撃や振動を与えないでください。
- データの書き込み中は、本機につないだ i.LINKケーブルおよび他の i.LINK対応機器につないだ i.LINKケーブルを抜き差ししたり、本機や i.LINK対応機器の電源を入／切しないでください。
- データの書き込み中は、キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押して、本機をスタンバイモードにしないでください。

CD-RW／CD-Rにデータを記録する前に

CD-RW／CD-Rへのデータの記録を確実に行うため、以下の点にご注意ください。以下の点を守らない場合、データの書き損じや破損が起こったり、本機が正しく動作しないことがあります。

- データを書き込む前に、「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェア以外のソフトウェアはすべて終了してください。
- スクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに、画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）を設定している場合は、設定を解除してください。スクリーンセーバーを解除するには、「コントロールパネル」の（画面）をクリックして表示される「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで、リストから「（なし）」を選びます。詳しくは「ディスプレイの設定を変更する」（169ページ）をご覧ください。
- 付属の「VirusScan」など、常駐してコンピュータウイルスを除去するソフトや、常駐してディスクのアクセスを高速化するソフトウェアは終了してください。「VirusScan」ソフトウェアを終了するには、デスクトップ画面右下のを右クリックして、表示されるメニューから［終了］をクリックします。


コンピュータウイルスとは

コンピュータウイルスは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。コンピュータウイルスに侵入されると、意味不明なメッセージがデスクトップ画面上に表示されたり、ファイルが勝手に消去されたりしてしまいます。

- データを書き込む前に、電源の管理の設定を以下の手順に従って変更してください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **（電源の管理）をクリックする。**
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

3 **［電源設定］タブをクリックする。**
「電源設定」画面が表示されます。

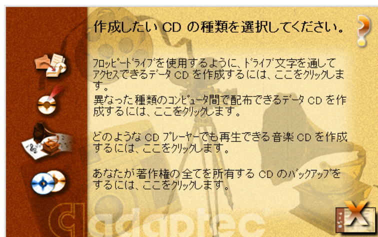
4 **「ハードディスクの電源を切る」のをクリックして「なし」に設定する。**

5 **［OK］をクリックする。**

データを記録するには

1 **CD-RW／CD-Rを入れる。**

ディスクの入れかたについては、55ページをご覧ください。
「作成したいCDの種類を選択してください」画面が表示されます。



ご注意

- CD-RW／CD-Rを入れるときは、記録面には絶対に触れないようにしてください。記録面が汚れると、データの書き込みができなくなることがあります。
- CD-RW／CD-Rは4倍速以上に対応しているものをお使いください。お買い求めの際、 パッケージをご覧になり、4倍速以上に対応しているかご確認ください。4倍速以上に対応していないCD-RW／CD-Rをお使いの場合は、書き込みの速度が遅くなります。これはCD-RWドライブやディスクの不良ではありません。

2 **作成したいCDに応じて左のアイコンをクリックする。**

クリックしたアイコンに応じて「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアが起動し、操作画面が表示されます。

3 **「DirectCD」ソフトウェアを使うとき（手順2で一番上のアイコンをクリックしたとき）は、CD-RWまたはCD-Rをフォーマットする。**

未使用のCD-RW／CD-Rを「DirectCD」ソフトウェアで使うには、あらかじめ「フォーマット」という作業が必要です。
操作について詳しくは、「DirectCD」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。「Easy CD Creator」ソフトウェアをお使いの場合は、フォーマットは必要ありません。

 **フォーマットとは**

「フォーマット」とは、お使いのコンピュータでCD-RW／CD-Rにデータを読み書きできるようにCD-RW／CD-Rの記録方式を決めることです。

ご注意

- 「DirectCD」ソフトウェアを使うときは、未使用のCD-RW／CD-Rは、必ずフォーマットを行ってください。フォーマットを行わないと本機はそのCD-RW／CD-Rを認識することができないため、CD-RW／CD-Rを使うことができません。
- 「DirectCD」ソフトウェアを使ってフォーマットしたCD-RW／CD-Rは、「Easy CD Creator」ソフトウェアで追加書き込みはできません。
- CD-Rを使用して作成した音楽CDは、ご使用のCDプレーヤーによっては再生できない場合があります。CD-RWを使用して作成した音楽CDは、CDプレーヤーでは再生できません。CD-RWに対応しているドライブで再生してください。

「DirectCD」ソフトウェアでフォーマットするのにかかる時間およびフォーマット後の使用可能容量は、以下の通りです。(74分のCD-RW／CD-Rを使用時)

	フォーマットにかかる時間	フォーマット後の使用可能容量
CD-RW	約30分	約530Mバイト
CD-R	約20秒	約620Mバイト

4 **CD-RWまたはCD-Rディスクにデータを記録する。**

操作について詳しくは「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

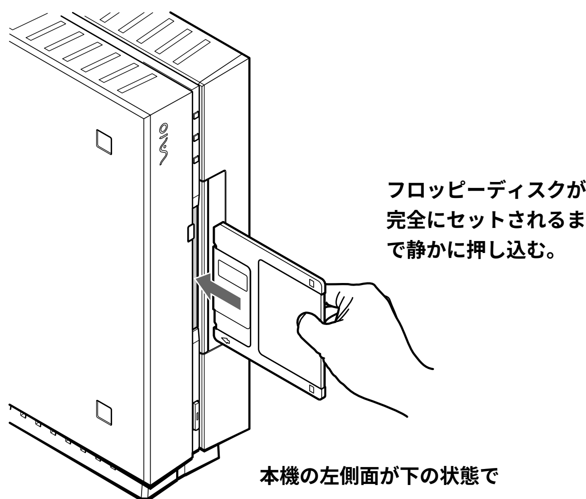
- 「DirectCD」ソフトウェアを使ってフォーマットしたCD-RW／CD-Rは、「Easy CD Creator」ソフトウェアで追加書き込みはできません。
- 「Easy CD Creator」ソフトウェアを使って書き込みしたCD-RW／CD-Rは「DirectCD」ソフトウェアを使って書き込みしたり、ファイルを削除したりできません。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めるとFD（フロッピーディスクドライブ）アクセスランプが緑色に点灯します。

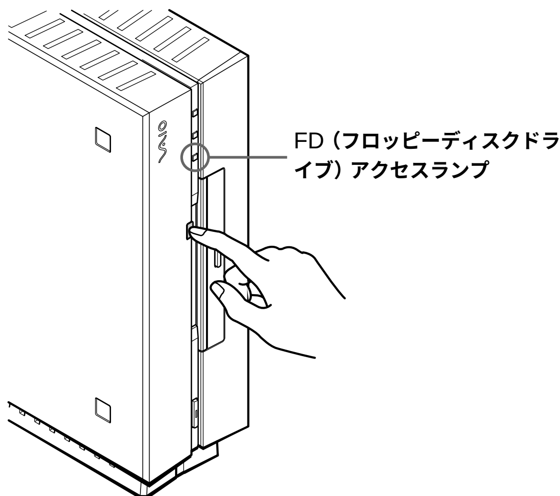
本機では、市販されている「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。
本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（72ページ）をご覧ください。
「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクをご購入いただくと、初期化する手間が省けます。
初期化とは何かについては、「フロッピーディスクを初期化する」（70ページ）をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

FD（フロッピーディスクドライブ）アクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

FD（フロッピーディスクドライブ）アクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクおよびデータの破損の原因となります。

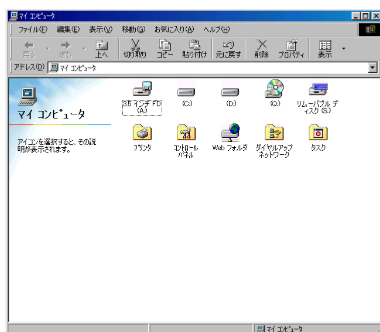


フロッピーディスクのデータを使う

ここではフロッピーディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

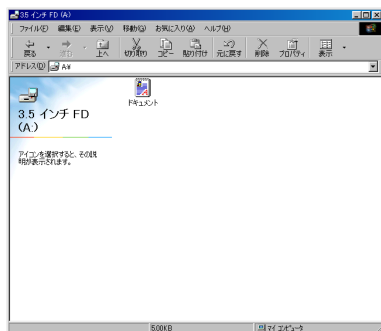
「マイコンピュータ」画面が表示されます。



次のページにつづく

2 **（3.5インチFD（A:））をダブルクリックする。**

フロッピーディスクの内容が表示されます。



3 **目的に応じて操作する。**

フロッピーディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、別冊のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよびヘルプをご覧ください。

Windows 98のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の「スタート」をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

フロッピーディスクにデータをコピーする

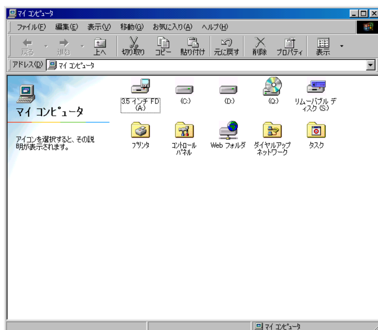
作成した文書などのデータをフロッピーディスクにコピーするには、以下の手順に従ってください。

1 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。

入れかたについては66ページをご覧ください。

2 デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）をダブルクリックする。

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。



3 コピーするデータのアイコンをクリックし、（3.5インチFD（A:））に重なるようにドラッグする。

（3.5インチFD（A:））が反転表示されます。



4 マウスのボタンを離す。

データがフロッピーディスクにコピーされます。

フロッピーディスクを初期化する

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクは、そのまま本機のフロッピーディスクに入れてすぐにお使いになれますが、以下の場合は「初期化」（または「フォーマット」ともいう）という作業が必要です。

- 「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと記載されていないフロッピーディスクを初めて使うとき
- フロッピーディスクの中のデータがいっぱいになり、そのデータを一度に消して初期状態に戻したいとき

「初期化」とは、お使いのコンピュータでフロッピーディスクにデータを読み書きできるようにフロッピーディスクの記録方式を決めることです。
初期化するとフロッピーディスクは、区画に分けられて番地が付けられ、どの区画にどんな情報が書き込まれているかを記録し、管理する部分が作られます。
本機でフロッピーディスクを初期化するには、以下の手順に従ってください。

ご注意

データが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータはすべて消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

1 初期化したいフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。

入れかたについては66ページをご覧ください。

2 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

3 (3.5インチFD（A:））を右クリックし、表示されるメニューから［フォーマット］をクリックする。

フォーマットの画面が表示されます。

4 開始(S) **をクリックする。**

フロッピーディスクが初期化されます。

5 閉じる **をクリックする。**

フォーマットの画面が閉じます。

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと書かれた、すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

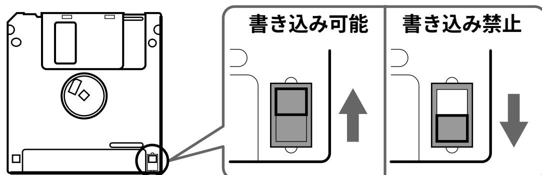
❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないときは、書き込み禁止にしておきます。



使用できるフロッピーディスク

本機では、パッケージに「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。また、3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	**本機でできること**
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	Windows上では読み書きともに可。 MS-DOSプロンプトやMS-DOSモードでは読み書きとも不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のコンピュータとデータのやりとりをする場合は、次のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	**使用するフロッピーディスク**
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のソフトウェアはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

“ メモリースティック ”を使う

“ メモリースティック ”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代の記録メディアです。“ メモリースティック ”対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器とデータをやりとりするのに便利なだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータを保存するときもお使いいただけます。

“ メモリースティック ”は、以下のようなものがあり、本機ではどのタイプも使用できます。

- 4Mバイト（MSA-4A）
- 8Mバイト（MSA-8A）
- 16Mバイト（MSA-16A）
- 32Mバイト（MSA-32A）
- 64Mバイト（MSA-64A）など

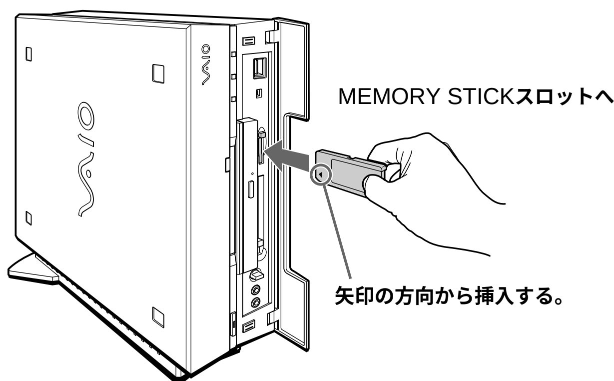
“ マジックゲート メモリースティック ”についてのご注意

本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットは、“ マジックゲート メモリースティック ”に記録した音楽ファイルなど、著作権保護されたファイルの取り扱いには対応していません。エクスプローラなどでそれらのファイルやディレクトリを操作した場合、ファイルが無効となり、使えなくなる場合があります。

著作権保護されているファイルの操作を行う場合は、メモリースティックウォークマンなどの“ マジックゲート メモリースティック ”に対応した機器と、「OpenMG Jukebox」などの著作権保護されたファイルに対応したソフトウェアをご使用ください。著作権保護されているファイルの操作を行う場合は、本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットは使用しないでください。

“ メモリースティック ”を入れる

“ メモリースティック ”をMEMORY STICK（メモリースティック）スロットに入れます。



ご注意

“ メモリースティック ”の向きにご注意ください。無理に逆向きに入れようとするとスロットが破損する恐れがあります。

“ メモリースティック ”対応機器で記録した“ メモリースティック ”を入れると、「VisualFlow」ソフトウェアが起動し、“ メモリースティック ”内のデータが表示されます。

Windows 98上で“ メモリースティック ”はリムーバブルディスク（S:）として表示されます。“ メモリースティック ”上のデータは他の記録メディア同様にエクスプローラなどを使って管理することができます。

“ メモリースティック ”対応機器から“ メモリースティック ”を使って静止画を取り込む方法については「静止画を取り込む」（119ページ）をご覧ください。

 **リムーバブルディスクとは**

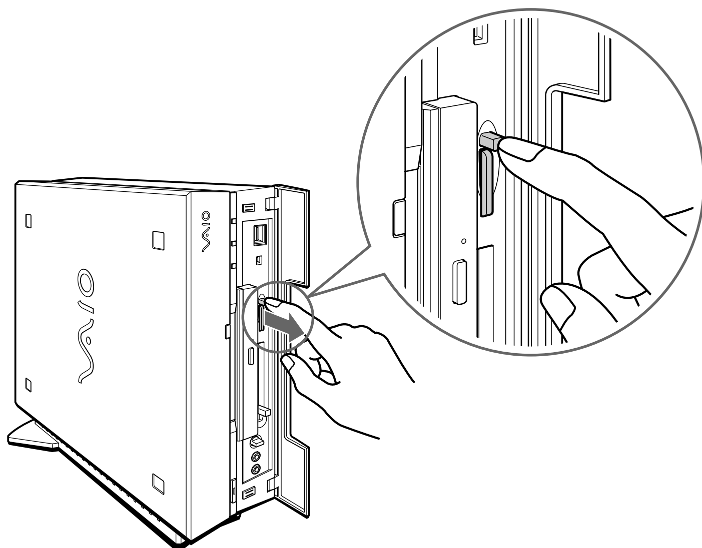
「リムーバブルディスク」とは、データを読み書きできる、取りはずし可能な記録メディアのことです。

 **ちょっと一言**

本機に付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアと組み合わせることにより、“ メモリースティック ”を挿入したときに、好みのソフトウェアを自動的に起動して、“ メモリースティック ”対応のデジタルビデオレコーダーなどで撮った静止画を閲覧することなどができます。詳しくは「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

“ メモリースティック ”を取り出すには

“ メモリースティック ”へのデータの書き込みやデータの読み出しを行っていないことを確認してからMEMORY STICK（メモリースティック）スロットのイジェクトボタンを押します。



“ メモリースティック ”使用上のご注意

“ メモリースティック ”をお使いになるときは、以下の点にご注意ください。

- “ メモリースティック ”の端子部に手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、専用の収納ケースに入れてください。
- 大切なデータはバックアップをとっておくことをお薦めします。
- データの読み込み中や書き込み中に“ メモリースティック ”を抜かないでください。
- 下記の場合、記録したデータが消えたり壊れたりすることがあります。
  - 読み込み中や書き込み中に“ メモリースティック ”を抜いたり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、“ メモリースティック ”には書き込み禁止のタブがついています。このタブを左右に動かして、“ メモリースティック ”を書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。デジタルビデオカメラレコーダーなどで静止画を撮影するときなどには、書き込み可能な状態にしておきます。

❑ 書き込み禁止

タブを右にスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。データを書き込んだり、削除したくない“ メモリースティック ”を本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットに入れてデータを読み込むときなどには、書き込み禁止にしておきます。

“ メモリースティック ”裏面



フォーマットについて

市販の“ メモリースティック ”はすでにフォーマット（初期化）されており、すぐにお使いになれます。本機で“ メモリースティック ”を再フォーマットするときは、付属の「メモリースティックフォーマッタ」ソフトウェアをお使いください。
「メモリースティックフォーマッタ」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、このソフトウェアのヘルプをご覧ください。

 **フォーマットとは**

フォーマットとはお使いのコンピュータで“ メモリースティック ”にデータを読み書きできるように“ メモリースティック ”の記録方式を決めることです。

ご注意

すでにデータが書き込まれている“ メモリースティック ”をフォーマットすると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

インターネットを楽しむ

本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。

インターネットに接続する

ここでは、インターネットに接続するための大まかな流れを記します。

電話回線につなぐ

本機を電話回線につなぎます。
詳しくは別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

インターネットサービスプロバイダと契約する

詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

インターネットに接続する

詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。


インターネットサービスプロバイダとは

「インターネットサービスプロバイダ」とは、インターネットにつなぐときに本機とインターネットとの間を仲介する役割を持つ会社のことです。

ホームページを作る

本機に付属の「Smart Write」ソフトウェアで、インターネットのホームページに使われるHTML文書を、ワープロ感覚で手軽に作成できます。また、本機に付属の「Smart Capture」ソフトウェアと合わせて使うと、i.LINK対応機器から取り込んだ静止画を文書内に取り込むこともできます。

 **HTMLとは**

「HTML」とはインターネットのホームページに使用される文書の形式のことです。

作成したHTML文書は付属の「Smart Publisher」ソフトウェアを使って自分のホームページに送信できます。

 **ちょっと一言**

ホームページを公開するには、インターネットサービスプロバイダとの契約や各種の接続設定などが必要です。

以下の流れに沿ってホームページを作成します。

「Smart Write」ソフトウェアを起動して文書を作成する

「Smart Write」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Write」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。声で文書を作成することもできます。詳しくは、「声でソフトウェアを操作する」（80ページ）をご覧ください。

↓

静止画を載せるときは、i.LINK対応機器を本機に接続して、「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後、「Smart Capture」を作って静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（139ページ）をご覧ください。また、「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

↓

「Smart Publisher」ソフトウェアを起動する

起動後、作成したHTML文書を自分のホームページに送信します。
「Smart Publisher」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Publisher」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

声でソフトウェアを操作する
（PCV-L750／L550のみ）

付属の「Smart Commander」は声でソフトウェアを起動したり、「Smart Commander」対応のソフトウェアにコマンド（命令）を送ったりすることができる日本語音声認識ソフトウェアです。

付属のヘッドセットマイクを装着し、マイクに向かって話しをするだけで以下のようなことができます。

- キーボードを使わずに他のソフトウェアを起動する。
- 付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から静止画を取り込むときにコメントを入れたり、コメント入りの静止画を電子メールに添付して送信する。
- 付属の「Tiny AIBO」ソフトウェアの画面上のペット「AIBO」に声をかけてパフォーマンスをさせて遊ぶ。

「Smart Commander」の使いかたについて詳しくは、別冊の「Smart Commander」音声認識の手引きをご覧ください。

また、付属の「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使うと以下のようなことができます。

- 付属の「Microsoft Word」ソフトウェア（PCV-L750／L550のみ）などのワープロソフトウェアや付属の「Outlook Express」ソフトウェアなどの電子メールソフトウェアをお使いの際に、キーボードを使わずに声で文章を入力する。
- 付属の「Smart Write」ソフトウェアを使って、ホームページを作るときに文章を入力する。
- ある特定の言葉を言うことで、ファイルを保存したり、ソフトウェアを終了するなど、お使いのソフトウェアを声で操作する。

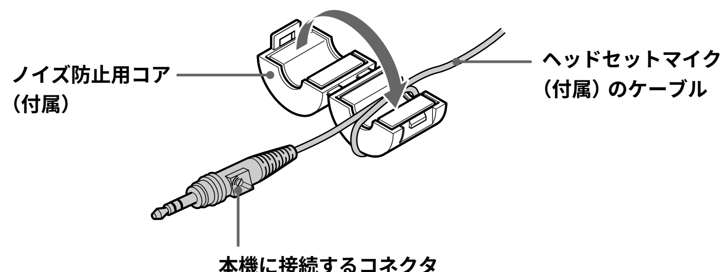
「DragonSpeech Partner」ソフトウェアについて詳しくは、「「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使って文章を入力する」（84ページ）およびヘルプをご覧ください。

ここでは付属のヘッドセットマイクの接続や装着のしかた、および「DragonSpeech Partner」の基本的な使いかたについて説明します。

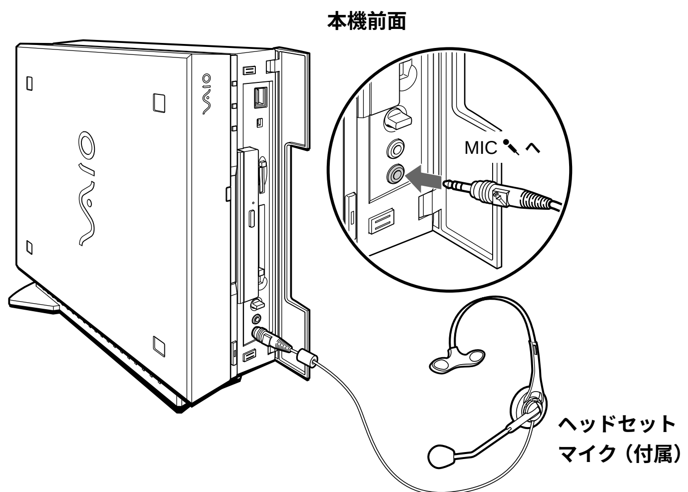
ヘッドセットマイクを準備する

1 ヘッドセットマイクに付属のノイズ防止コアを取り付ける。

ヘッドセットマイクのケーブルの本機に接続するコネクタの根元に近いところに付属のノイズ防止用コアを取り付けます。

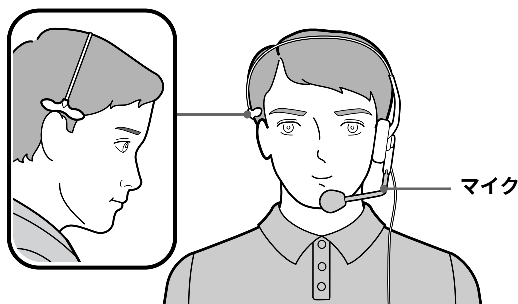


2 ヘッドセットマイクのケーブルを本機前面のMIC 🎤コネクタに接続する。

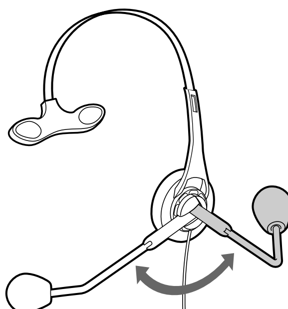


次のページにつづく

3 ヘッドセットマイクを頭に装着する。



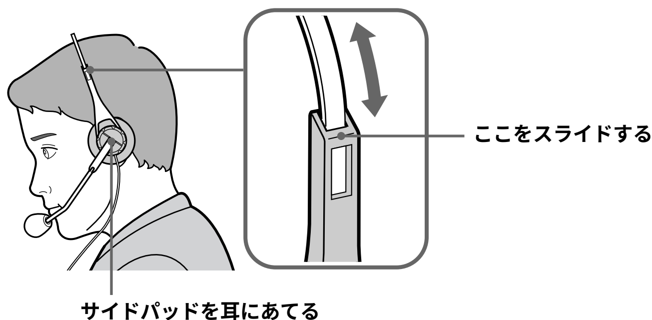
マイクは顔の右側、左側どちらでも装着できます。
顔の右側にマイクを装着する場合は、カチッと止まる位置までマイクを下に向かって回して、装着します。



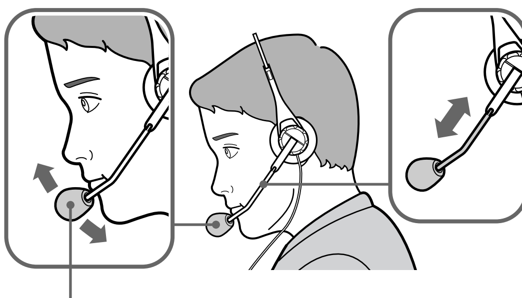
ご注意

マイクを上に向かって回さないでください。マイクが破損することがあります。

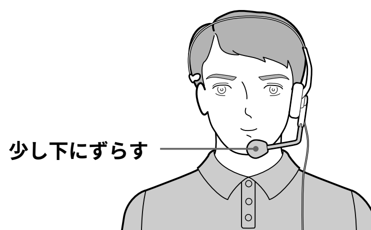
4 頭のサイズに合わせてヘッドセットマイクの長さを調節する。



5 口の近くになるように、マイクの位置を動かして調節する。



息が直接かからないように、マイクの位置を下にずらします。



ご注意

- ヘッドセットマイクを正しく装着し、周囲の雑音を少なくしてからご使用ください。音声が認識されにくくなることがあります。
- マイクを本機に近づけすぎないでください。ハウリングが起こることがあります。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使って文章を入力する

ここでは、付属の「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使って声で文章を入力したり、声でソフトウェアを操作したりする方法を説明します。

話し手の発音の特徴を登録する

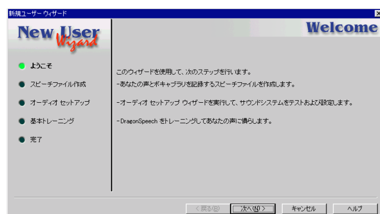
実際に声で文章を入力したり、声でソフトウェアを操作する前に、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアに発音の特徴を登録して、音声が正しく認識されるように設定します。

学習を一時的に中断するには

DragonSpeechの学習プログラムを完了するには、15分ほどかかります。休憩をとるために途中で中断することもできます。
中断するときは、［一時停止(P)］をクリックしてください。

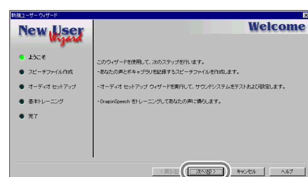
1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner – 日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。

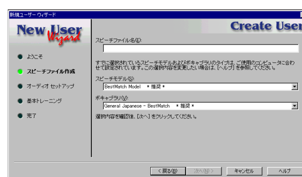
「新規ユーザーウィザード」画面が表示されます。



2 ［次へ(N) >］をクリックする。

「スピーチファイル作成」画面が表示されます。

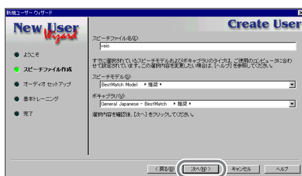


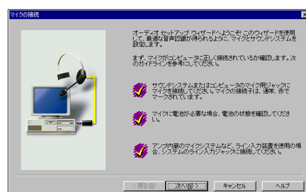
ここをクリックする

3 「スピーチファイル名」にキーボードで任意の名前を入力し、［次へ(N) >］をクリックする。

話し手の声と、ボキャブラリ（語彙）に関する情報を保存するスピーチファイルが自動的に保存され、「マイクの接続」画面が表示されます。







ここをクリックする

 スピーチモデルについて

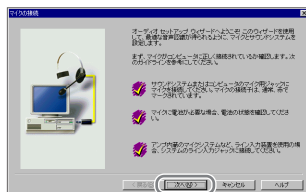
スピーチファイルのスピーチモデルは、言葉の音に関する情報を保存します。新規ユーザーウィザードでは、ご使用のコンピュータの速度やメモリ（RAM）に合わせてスピーチモデルが設定されますので、自動的に選択されたモデルを使用することをお勧めします。

 ボキャブラリとは

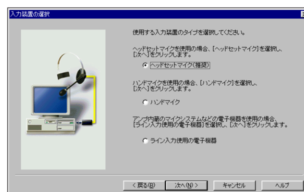
「ボキャブラリ」とは語彙という意味ですが、ここでは「DragonSpeech Partner」ソフトウェアに向かって話しかけたときに、コンピュータに認識できる語彙のことです。新規ユーザーウィザードでは、ボキャブラリに関する情報を保存する領域がスピーチモデルと同じように、ご使用のコンピュータの性能に合わせて設定されますので、自動的に選択されたボキャブラリを使用することをお勧めします。

4 ［次へ(N) >］をクリックする。

［入力装置の選択］画面が表示されます。







ここをクリックする

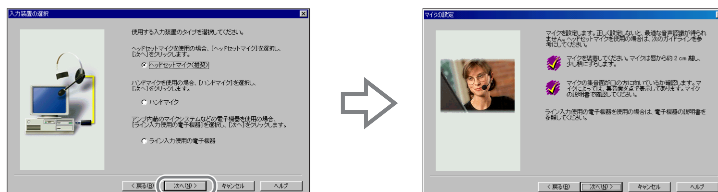
次のページにつづく

5 「ヘッドセットマイク（推奨）」が選択されていることを確認して、ヘッドセットマイクを装着する。

ヘッドセットマイクの装着方法について詳しくは、「ヘッドセットマイクを準備する」（81ページ）をご覧ください。

6 [次へ(N) >] をクリックする。

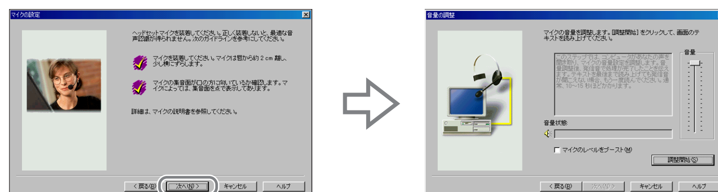
「マイクの設定」画面が表示されます。



ここをクリックする

7 [次へ(N) >] をクリックする。

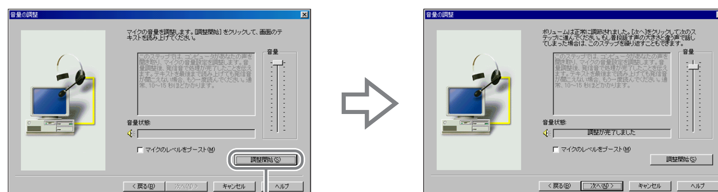
「音量の調整」画面が表示されます。



ここをクリックする

8 [調整開始(S)] をクリックして、画面に表示されているテキストを読み上げる。

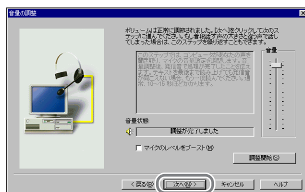
画面に表示される文章を音読すると、音声が適切な音量で入力されているかどうかを、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが確認します。



ここをクリックする

9 調整が完了したら、［次へ(N) >］をクリックする。

「オーディオの音質テスト」画面が表示されます。



ここをクリックする

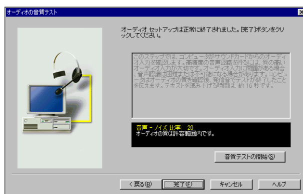


10 ［音質テストの開始(S)］をクリックして、画面に表示されているテキストを読み上げる。

音声が適切な音質で入力されているかどうかを「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが確認します。

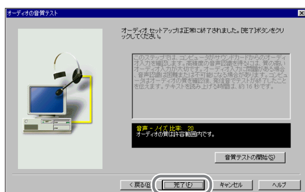


ここをクリックする

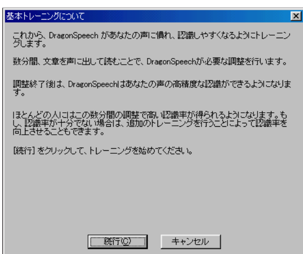


11 ［完了］をクリックする。

「基本トレーニングについて」画面が表示されます。



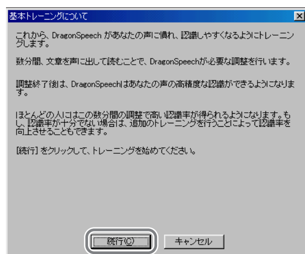
ここをクリックする



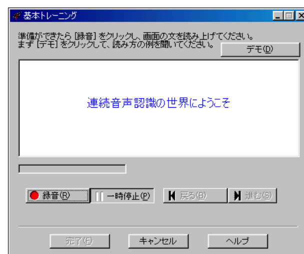
次のページにつづく

12 続行(C) をクリックする。

「基本トレーニング」画面が表示されます。





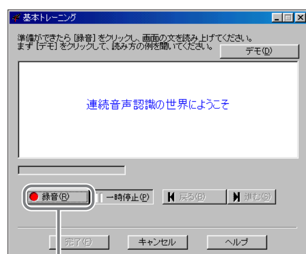


ここをクリックする

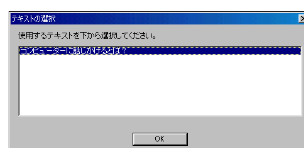
13 録音(R) をクリックして、画面に表示される文章を読み上げる。

話し手の発音のしかたを、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが学習します。途中で基本トレーニングを中断するときは、一時停止(P) をクリックします。

「テキストの選択」画面が表示されます。







ここをクリックする

読み上げる場所を黄色い矢印で示します

画面上のテキストの読み上げが止まるたびに、黄色の矢印が次に読み始める場所を示してくれます。この矢印が同じ箇所に表示され続け、動かなくなることもあります。これは「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが話し手の発音と画面上のテキストを一致させることができなかった場合に起こります。この場合には、矢印の場所からテキストを読み直してください。

読み間違えたときは

読み間違えたときには、本機は間違いを無視するか、黄色い矢印の表示でそのテキストをもう一度読むように指示を出します。また、戻る(B) をクリックして、テキストの一部を読み直すこともできます。



最初の画面から先に進めないときには

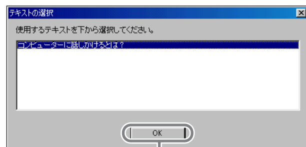
最初の2つの画面では、それぞれの文を区切らずに読む必要があります。その後の画面では、文の途中で間隔をおいてもかまいません。



黄色い矢印が消えないときには

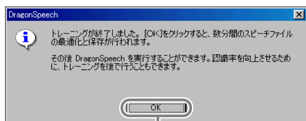
同じ言葉を何回も読んでいるのに黄色の矢印が消えず、前に進まない場合には、［進む(S)］をクリックします。

14 ［OK］をクリックしてトレーニングを開始する。



ここをクリックする

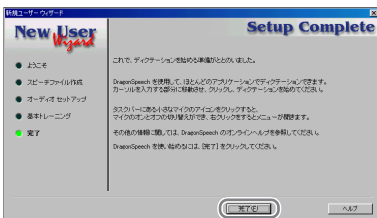
15 トレーニングが終了したら［OK］をクリックする。



ここをクリックする

16 ［完了(F)］をクリックする。

「DragonSpeachへようこそ」画面が表示されます。



ここをクリックする

声で文章を入力する

「話し手の発音の特徴を登録する」の手順を完了すると、次回から「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使って声でソフトウェアを操作したり、文章を入力することができます。
ここでは、声で「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、日本語の文章を入力してみます。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner – 日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面右下のタスクバーに（マイクアイコン）が表示されます。

2 付属のヘッドセットマイクを装着する。

ヘッドセットマイクの装着方法について詳しくは、「ヘッドセットマイクを準備する」（81ページ）をご覧ください。

3 タスクバーの をクリックする。

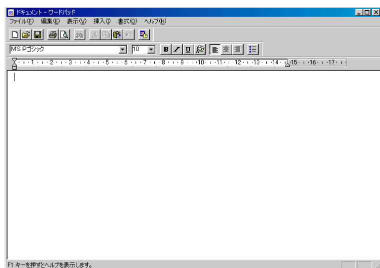
（マイクアイコン）が上向きの表示に変わります。が表示されているときは、マイクがオンでコンピュータが聞く体勢であることを示しています。
話し終わったら、もう一度 をクリックしてください。マイクがオフになります。

音声コマンドでマイクを一時停止するには

（マイクアイコン）が表示されてマイクがオンのときには、音声コマンドでマイクをコントロールすることができます。
「マイク」と言うと、マイクを一時停止できます。解除するときは、もう一度「マイク」と言ってください。

4 ヘッドセットマイクに向かって、「アプリケーション起動 ワードパッド」と話す。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動します。

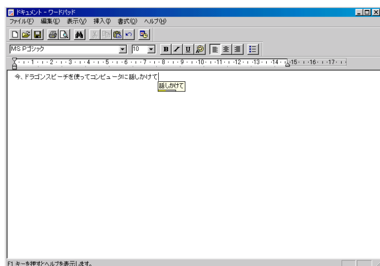


ご注意

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアで「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを起動することはできません。

5 ヘッドセットマイクに向かって話しはじめる。

テストとして自由に話してみてください。たとえば、「今＜てん＞ドラゴンスピーチを使ってコンピュータに話しかけています＜まる＞」と言ってみましょう。



ご注意

操作するソフトウェアは、そのウインドウがアクティブになっている（タイトルバーが青色に表示されている）ことが必要です。アクティブになっていない場合には、そのウインドウをマウスでクリックしてください。

 **話し始めたときには**

画面に文字が表示されるまでに多少時間がかかることがありますが、これは「DragonSpeech Partner」ソフトウェアがウォームアップしているためです。しばらくたっても文字が表示されない場合には、上記の操作を繰り返してください。ソフトウェアに慣れることが大切ですので、最初は音声が正しく認識されなくても気にせず続けてください。

次のページにつづく

句読点や記号を挿入するには

句読点や記号を入れる箇所を本機に教える必要があります。句読点や記号を入れるには、挿入する箇所で「まる」、「てん」などと言います。このほかの句読点や記号の言いかたについて詳しくは、付属の「音声コマンド早見表」をご覧ください。

新しい段落や行を開始するには

新しい段落を開始するには、「新しい段落」と言います（「新しい」と「段落」の間に間隔を置かないように気をつけてください）。これはキーボードの Enter（エンター）キーを2回押す操作と同じです。Enter（エンター）キーを1回押すには「改行」と言います。

最後に言った箇所を削除するには

「取り消し」と言います。間隔を入れずに言えば、それが文章、単語、句読点や記号のいずれであっても削除されます。「取り消し3回」などと、この操作の回数を指定することもできます（10回まで）。

認識エラーを修正するには

ソフトウェアによる認識エラーはどうしても起こります。特に最初のうちは目につくでしょう。しかし、使い込んでいくうちに認識精度は向上します。エラーを修正することで、ソフトウェアに同じ誤りを繰り返さないように教えているからです。認識エラーが起こったら、すぐに「修正」と言います。「修正」画面が開き、正しい言葉を選択するか、入力することができます。認識エラーの修正について詳しくは、ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るときは「ヘルプ表示」と言います。

文章を編集するには

文章に入力された言葉を変更する場合、マウスやキーボードでテキストを選択し、そのテキストを置き換える言葉を言います。これは言った内容を簡単に編集する方法ですが、認識エラーを防ぐ効果はありません。「修正」画面を使って、初めて「DragonSpeech Partner」ソフトウェアに同じ誤りを繰り返さないように教えることができます。

最後に行った操作を元に戻すには

「元に戻す」と言います。特に意図しないコマンドを実行してしまったときなどに便利です。また、テキストの選択中に咳をしてしまったときなど、選択したテキストを間違って削除してしまった場合にも効果的です。

ご注意

すべての操作やコマンドを元に戻せるわけではありません。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、このソフトウェアのヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動されておりマイクがオンの状態で、「ヘルプ表示」と言います。

声で操作する

ある特定の言葉を言うと、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアはその言葉を入力文字として認識するかわりに操作を実行します。このような言葉を、「音声コマンド」といいます。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアの音声コマンドについて詳しくは付属の「音声コマンド早見表」をご覧ください。また、音声コマンドの全リストは、タスクバーの（マイクアイコン）を右クリックし、［ヘルプ］から［コマンドリスト］をクリックすると表示されます。

ご注意

- コマンドを区切って発音しないでください。たとえば、「新しい段落」というコマンドの場合、「新しい」と「段落」の間に間隔を空けないでください。
- 音声コマンドを言う前に少し間隔を空けてください。この間隔で、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアは発音された言葉がコマンドであると認識します。コマンドの前に間隔を空けても、そのコマンドが入力文字として認識されてしまう場合は、キーボードの Ctrl（コントロール）キーを押しながら音声コマンドを言ってください。音声コマンドとして強制認識されます。
- テキストとして話した言葉が音声コマンドとして認識される場合には、キーボードの Shift（シフト）キーを押しながら話してください。入力文字として強制認識されます。
- 「PictureGear」や「DVgate」など、ソフトウェアの名前がすべてアルファベットのとき、または、名前の一部にアルファベットが含まれているとき、声でうまくソフトウェアを起動できないことがあります。この場合は、下記の「ショートカットを作成するには」の手順に従って新たにソフトウェアのショートカットを日本語で作ることをおすすめします。また、「ピクチャー ギア」というように、ひらがな、またはカタカナで書くときは、区切れるところにスペースを入れた方が、声が認識されやすくなります。

次のページにつづく

ショートカットを作成するには

ショートカットを作成するには、以下の手順に従ってください。ここでは、「PictureGear 4.1」を例にショートカットを作成してみます。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［PictureGear 4.1］を右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

2 ショートカットメニューから［ショートカットの作成］をクリックする。

「PictureGear 4.1」のショートカットが作成されます。

3 作成した「PictureGear 4.1」ショートカットを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

4 ショートカットメニューから［名前の変更］をクリックする。

「名前の変更」画面が表示されます。

5 「新しい名前」の入力欄に「ピクチャー ギア」と入力する。

ショートカットの名前が「ピクチャー ギア」に変わります。

声でソフトウェアを操作できないときは

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアでは、さまざまなソフトウェアのメニューやボタンなどを音声で操作できますが、ソフトウェアによっては操作できないものもあります。この場合は、以下の手順に従って「DragonSpeech Partner」ソフトウェアの設定を変更してから、再度、音声で操作してみてください。この設定変更により、「DVgate」、「PictureGear」など、ソフトウェアによっては音声で操作できるようになるものがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner-日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面右下のタスクトレイに （マイクアイコン）が表示されます。

2 を右クリックし、表示されるメニューから［ツール］、次に［オプション］をクリックする。

「オプション」画面が表示されます。

3 ［その他］タブをクリックする。

「その他」画面が表示されます。

4 **［メニューおよびダイアログに Active Accessibility を使用］の ☑ をクリックし、☐ にする。**

5 **OK をクリックする。**

6 **を右クリックし、表示されるメニューから［終了］をクリックする。**
「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが終了します。

7 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner-日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。**
「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面右下のタスクトレイに が表示されます。

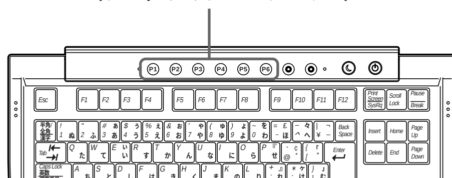
なお、上記の手順を行っても音声で操作できるようにならないソフトウェアもあります。また、上記の手順を行うと、「Microsoft® Internet Explorer」、「Microsoft® Office 2000 Personal」など、音声で操作できなくなってしまうソフトウェアもありますので、お使いになるソフトウェアに応じて使い分けてください。

好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPKの使いかた）

PPK（プログラマブルパワーキー）とは

PPK（プログラマブルパワーキー）は、1回押すだけで目的のソフトウェアを起動できる便利なキーです。電源スイッチの機能も兼ね備えていますので、本機の電源が切られている状態で押すと、電源の投入から目的のソフトウェアの起動までを自動的に行います。

PPK（プログラマブルパワーキー）



6つのPPKにはそれぞれ1つずつソフトウェアが初期設定で割り当てられています。
初期設定で割り当てられているソフトウェアについては、「ワンタッチでソフトウェアを起動する（PPKの基本操作）」（98ページ）をご覧ください。
また、これらの割り当てられたソフトウェアは、「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使ってよく使うソフトウェアなどへ変更することもできます。
割り当てられたソフトウェアを変更する方法については、「ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）」（99ページ）をご覧ください。

決められた一連の動作を自動的に実行するには

PPKは単に1つのソフトウェアを起動するだけでなく、決められた一連の動作を自動的に実行する「スクリプト」を起動することもできます。付属の「Smart Script」ソフトウェアを使ってこのスクリプトを作成できます。
「Smart Script」ソフトウェアを使うといろいろな動作を設定することができますが、インターネットサービスプロバイダへダイヤルアップ接続し、電子メールを取り込むという一連の動作については「Smart Script」ソフトウェアを使ってスクリプトを記述する必要はありません。「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、画面の指示に従って設定するだけで上記の一連の動作を実行するのに必要なスクリプトを作成できます。この「VAIO Action Setup」ソフトウェアの機能を使って作成するスクリプトを「プリセットスクリプト」と言います。この使用例を「ワンタッチで電子メールを自動的に取り込む（PPKの応用操作2）」（102ページ）で紹介します。102ページから説明されている手順に従って設定を行うとPPKを押すだけで電子メールを受信できるようになります。
「Smart Script」ソフトウェアについて詳しくは、「Smart Script」のヘルプをご覧ください。

タイマー機能について

PPKに割り当てることのできるソフトウェアやスクリプトは、同じように本機に内蔵されているタイマーに割り当てることもできます。内蔵タイマーに割り当てると、指定した日時になったときに自動的に本機の電源が入り、割り当てられたソフトウェアやスクリプトが起動するようになります。この設定も「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使います。
プリセットスクリプトを作成し、設定時間に電子メールを自動的に取り込む方法については「内蔵タイマーで電子メールを自動的に取り込む（内蔵タイマー設定）」（106ページ）をご覧ください。
各キーには、初期設定でそれぞれ以下のソフトウェアが割り当てられています。

ワンタッチでソフトウェアを起動する（PPKの基本操作）

各プログラマブルパワーキーに割り当てられたソフトウェアをワンタッチで起動できます。各キーには、初期設定でそれぞれ以下のソフトウェアが割り当てられています。

キー名	割り当てられたソフトウェア
P1（MAIL）	電子メールソフトウェア
P2（INTERNET）	ウェブブラウザ
P3（PICTURE）	「PictureGear」ソフトウェア
P4（MEMORY STICK）	「VisualFlow」ソフトウェア
P5（SETUP）	「VAIO Action Setup」ソフトウェア
P6（HELP）	本機のオンラインマニュアル

目的に合わせて、(P1)〜(P6)キーのいずれかを押す。

キーに割り当てられたソフトウェアが起動します。

ご注意

電子メールソフトウェアで電子メールをやりとりしたり、ウェブブラウザでホームページを見たりするには、あらかじめインターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了している必要があります。インターネットへの接続や電子メールソフトウェアの設定については、別冊の「はじめてのインターネット!」をご覧ください。



各キーに割り当てられたソフトウェアは「VAIO Action Setup」ソフトウェアで変更することができます

手順について詳しくは、「ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）」（99ページ）をご覧ください。

ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）

ここでは、プログラマブルパワーキーに初期設定で割り当てられたソフトウェアを好みのソフトウェアが起動するように変更する方法を説明します。

ここでは、(P6) キーを押すと「Microsoft Excel」ソフトウェアが起動するようにしてみます。


ちょっと一言

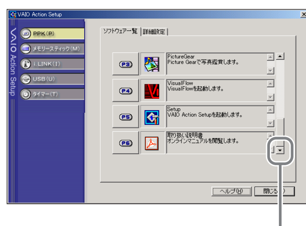
「Microsoft Excel」ソフトウェアはPCV-L750／L550にのみ付属しています。PCV-L450Gをお使いのかたは、「Microsoft Excel」ソフトウェア以外のソフトウェアに変更してください。

1 キーボードの (P5) キーを押すか、またはデスクトップ画面右下の をダブルクリックする。

「VAIO Action Setup」画面が表示されます。



2 「ソフトウェア一覧」画面の ▼ ボタンをクリックしてスクロールバーを移動する。

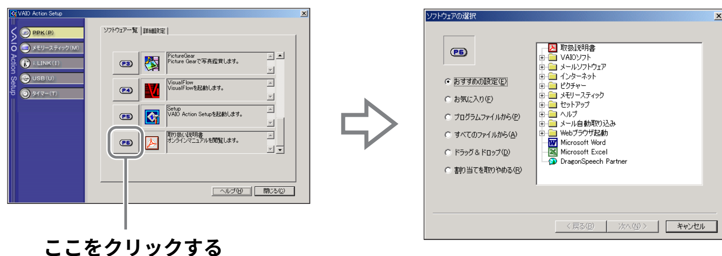


ここをクリックする

次のページにつづく

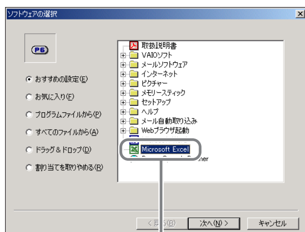
3 P6 をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。



ここをクリックする

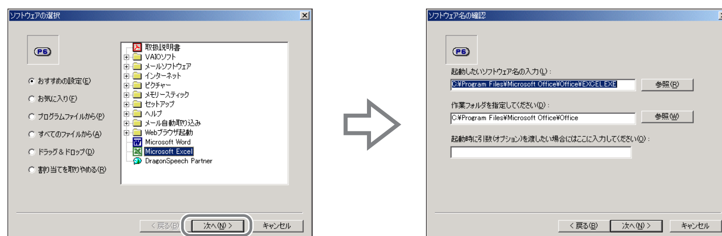
4 右側のリストから［Microsoft Excel］をクリックする。



ここをクリックする

5 次へ(N) > をクリックする。

「ソフトウェアの確認」画面が表示されます。



ここをクリックする

6 ［次へ(N) >］をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。



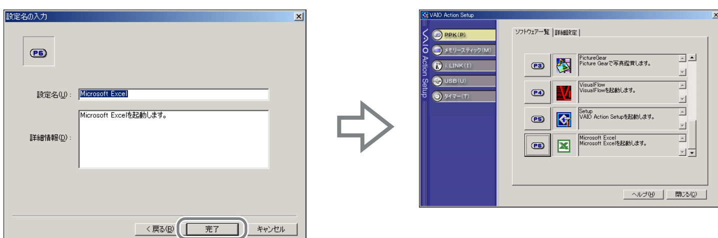
ここをクリックする

7 「設定名」や「詳細情報」を確認する。

ここに表示された「設定名」と「詳細情報」が「ソフトウェア一覧」画面に表示されます。

8 ［完了(F)］をクリックする。

これで設定は終わりです。次回からキーボードのⓅ6キーを押すと、「Microsoft Excel」ソフトウェアが起動します。



ここをクリックする

ちょっと一言

PPKの設定を変更したときのためにPPK用のプレートが付属しています。新しく割り当てたソフトウェア名をペンでプレートに記入し、PPKの上に置くと、新しい設定を忘れずにすみます。

ワンタッチで電子メールを自動的に取り込む（PPKの応用操作2）

プログラマブルパワーキーの便利な使いかたの例として、ワンタッチで「PostPet」ソフトウェアを起動し、電子メールを自動的に取り込むように設定してみましょう。

ご注意

この機能を使うにはインターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。
インターネットへの接続や電子メールソフトウェアの設定については、別冊の「はじめてのインターネット!」をご覧ください。

ここでは、(P1) キーを押すだけで電子メールを確認できるようにしてみます。

1 キーボードの (P5) キーを押すか、またはデスクトップ画面右下の  をダブルクリックする。

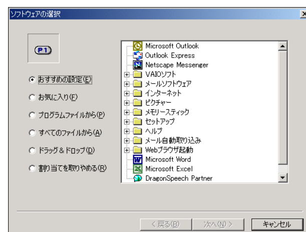
「VAIO Action Setup」画面が表示されます。



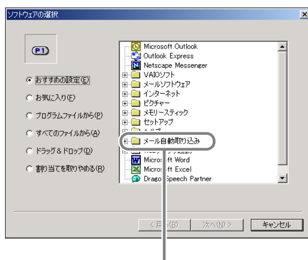
2 「ソフトウェア一覧」画面の  をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。



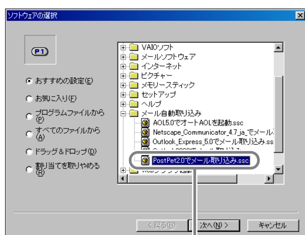


3 **右側のリストから［メール自動取り込み］をダブルクリックする。**



ここをダブルクリックする

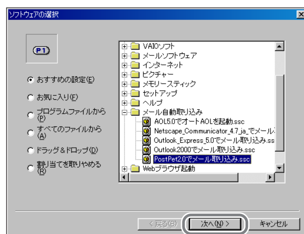
4 **右側のリストから［PostPet 2.0でメール取り込み.ssc］をクリックする。**



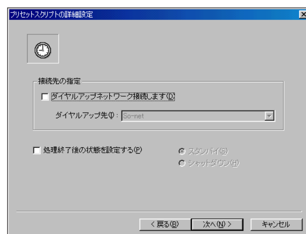
ここをクリックする

5 ［次へ(N) >］**をクリックする。**

「プリセットスクリプトの詳細設定」画面が表示されます。







ここをクリックする

次のページにつづく

6 ［ダイヤルアップネットワーク接続します］の □ を ☑ にしてから、「ダイヤルアップ先」を設定する。

「ダイヤルアップ先」の ▼ をクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定したダイヤルアップ先を選びます。

ダイヤルアップ先とは

プロバイダなど、インターネットの接続先のことです。



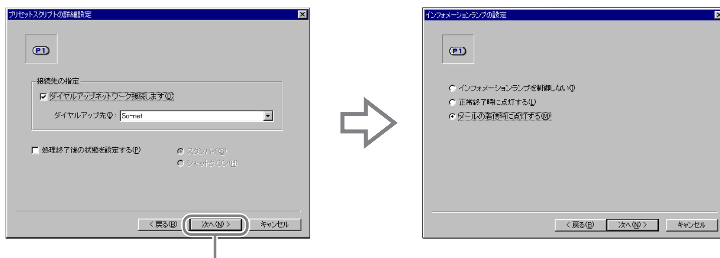
ここをクリックする　　**ここをクリックしてダイヤルアップ先を選ぶ**

ちょっと一言

電子メールソフトウェアによっては、ダイアルアップ先を設定できるものがあります。この場合は、ここで設定する必要はありません。

7 ［次へ(N) >］をクリックする。

「インフォメーションランプの設定」画面が表示されます。



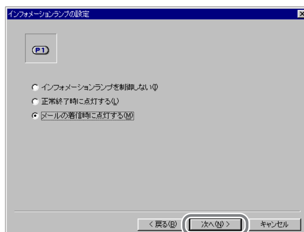
ここをクリックする

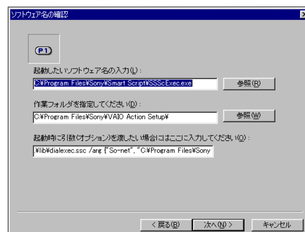
インフォメーションランプとは

電子メールを受信したことをユーザーに知らせてくれる表示ランプです。電子メール受信時に本機の液晶ディスプレイの右上にある （インフォメーション）ランプが点灯します。

8 本機の（インフォメーション）ランプの設定を行い、[次へ(N) >]をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。

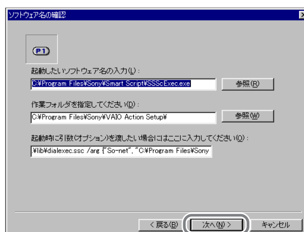


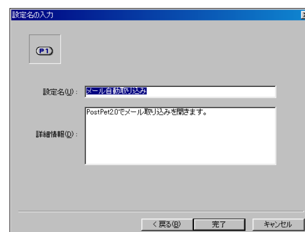


ここをクリックする

9 [次へ(N) >]をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。





ここをクリックする

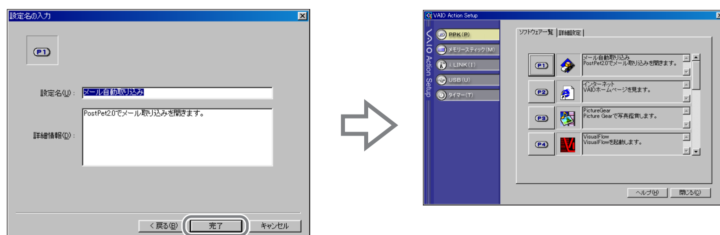
10「設定名」や「詳細情報」を確認する。

ここに表示された「設定名」と「詳細情報」が「ソフトウェア一覧」画面に表示されます。

次のページにつづく

11 完了(F) をクリックする。

これで設定は終わりです。(P1)キーを押すと「PostPet」ソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。



ここをクリックする

点灯した （インフォメーション）ランプの消灯のしかたについては、「 （インフォメーション）ランプの消灯のしかたについて」（112ページ）をご覧ください。

内蔵タイマーで電子メールを自動的に取り込む（内蔵タイマー設定）

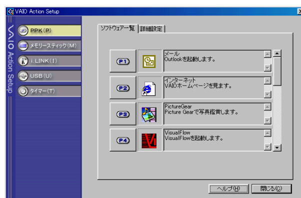
内蔵タイマーを使うと、本機が①通常の動作状態のとき、②スタンバイモードのとき、③電源を切った状態のとき、いずれの状態でも好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。
プログラマブルパワーキーにソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。
内蔵タイマーの便利な使いかたの例として、設定した時刻になったら「PostPet」ソフトウェアで自動的に電子メールを取り込むように設定してみましょう。

ご注意

この機能を使うにはインターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。
インターネットへの接続や電子メールソフトウェアの設定については、別冊の「はじめにお読みください」および「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

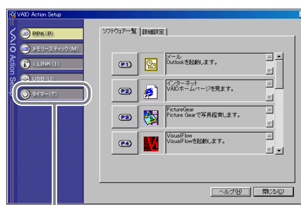
1 キーボードの (P5) キーを押すか、またはデスクトップ画面右下の をダブルクリックする。

「VAIO Action Setup」画面が表示されます。

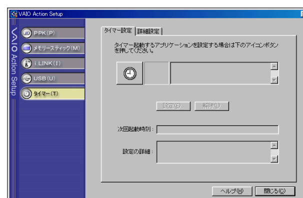


2 画面左側の タイマー(T) をクリックする。

「タイマーの設定」画面が表示されます。







3 をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

4 画面左側の［おすすめの設定］をクリックして選び、右側のリストの「メール自動取り込み」フォルダから［PostPet2.0でメール取り込み.ssc］をクリックして選び、 次へ(N) > をクリックする。

「プリセットスクリプトの詳細設定」画面が表示されます。

次のページにつづく

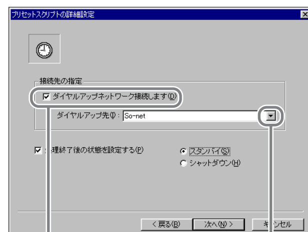
5 [ダイヤルアップネットワーク接続します] の □ をクリックして ☑ にしてから、「ダイヤルアップ先」を設定する。

「ダイヤルアップ先」の ▼ ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定したダイヤルアップ先を選びます。



ダイヤルアップ先とは

プロバイダなど、インターネットの接続先のことです。



ここをクリックする　　ここをクリックしてダイヤルアップ先を選ぶ

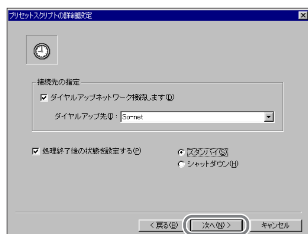


ちょっと一言

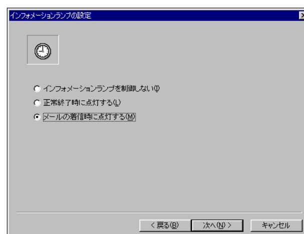
- 電子メールソフトウェアによっては、ダイヤルアップ先を設定できるものがあります。この場合は、ここで設定する必要はありません。
- [処理終了後の状態を設定する] をクリックすると、電子メールの取り込みが終わったあと、自動的に本機の電源を切ったり、スタンバイモードに移行するように設定することもできます。

6 [次へ(N) >] をクリックする。

「インフォメーションランプの設定」画面が表示されます。



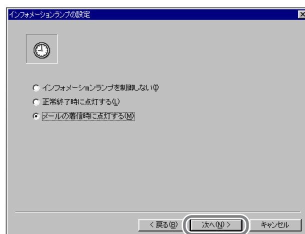




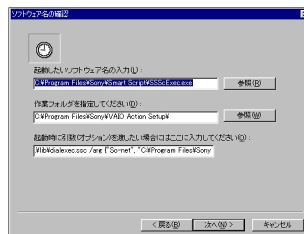
ここをクリックする

7 本機の （インフォメーション）ランプの設定を行い、[次へ(N) >] をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。



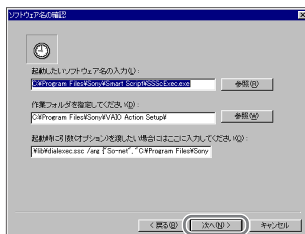




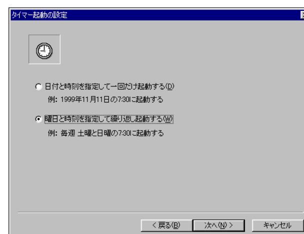
ここをクリックする

8 [次へ(N) >] をクリックする。

「タイマー起動の設定」画面が表示されます。

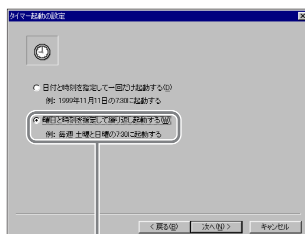






ここをクリックする

9 ［曜日と時刻を指定して繰り返し起動する］をクリックする。

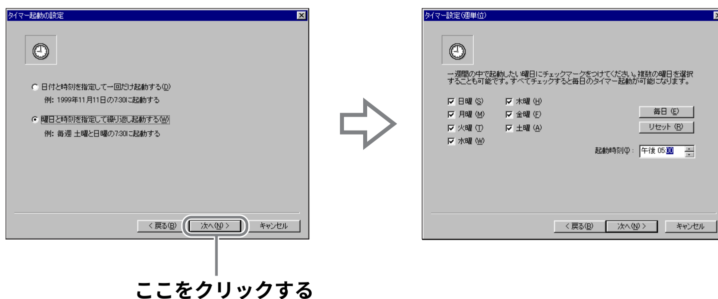


ここをクリックする

次のページにつづく

10 次へ(N) > をクリックする。

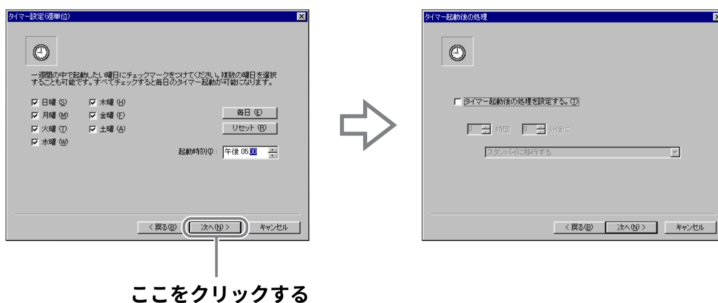
「タイマー設定（週単位）」画面が表示されます。



11 タイマー起動の曜日と時刻を設定し、次へ(N) > をクリックする。

ここでは、毎日午後5時にタイマーが起動するように設定してみます。

「タイマー起動後の処理」画面が表示されます。

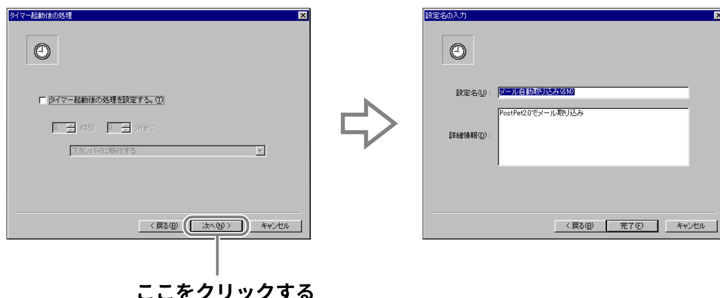


ちょっと一言

手順5で処理終了後の状態を設定している場合、「タイマー起動後の処理」を設定する必要はありません。

12 次へ(N) > をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。



ここをクリックする

13 設定名や詳細情報を確認する。

ここに表示された設定名と詳細情報が「ソフトウェア一覧」画面に表示されます。

14 完了(F) をクリックする。

これで設定は終わりです。

毎日午後5：00に「PostPet」ソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。



ここをクリックする

ご注意

- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能が正常に動作しないことがあります。この場合は、いったん本機を起動してください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。

次のページにつづく

（インフォメーション）ランプの消灯のしかたについて
インフォメーションランプは手順7の「インフォメーションランプの設定」画面で選んだ条件に従って点灯します。 点灯しているインフォメーションランプは本機の電源を切った状態、スタンバイモードのいずれの状態でも消えません。点灯しているインフォメーションランプを消灯するには、本機の動作中にタスクバーで点滅している をクリックします。

「VAIO Action Setup」ソフトウェアの制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。
プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後に電源を切った状態へ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの、電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。
このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「VAIO Action Setup」のダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。

スクリプト実行中は本機の操作をしないでください

「VAIO Action Setup」の設定による電子メール取り込みには「Smart Script」で作成したスクリプトを使用しています。
これらのスクリプトを実行中に別の本機の操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

テレビ番組やビデオを録画／再生する（PCV-L450Gのみ）

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組やビデオを録画したり、再生できます。

テレビ番組やビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画するとき

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組、ビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画できます。録画しながら過去にさかのぼって再生したり、別の録画済みの動画を再生できます。
以下の流れに沿って録画します。

アンテナやビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーを本機に接続する

アンテナの接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。
ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの接続について詳しくは、「ビデオ機器をつなぐ」（134ページ）をご覧ください。

「Giga Pocket」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Giga Pocket」を使って録画します。
「Giga Pocket」の使いかたについて詳しくは、「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

録画した動画を再生するとき

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、録画した動画を最初から再生したり、指定した区間を連続して再生することができます。再生のしかたについて詳しくは、「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

ご注意

- 本機は、マクロビジョン社やその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョン社の許諾が必要であり、マクロビジョン社が特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってインターネットから取り込んだ予約データの間違いなどにより損害が生じた場合には、当社の保証対象外となりますのでご注意ください。
- 本機のアンテナ入力またはアナログ入力コネクタから動画を取り込むとき、以下のような同期信号が乱れた動画を入力した場合に、動画にノイズが出たり、一時途切れたり、取り込みに失敗することがあります。
  ー取り込む動画が乱れたとき、または本機に何も入力されていないとき
  ー本機後面のVIDEO 1 INPUTコネクタにつないだケーブルをつなぎかえたとき
  ーテレビ番組を入力中にテレビ局の放送信号が何らかの原因で乱れたとき
  ー入力中のテレビ番組の電波が弱いとき、ノイズが入ったとき、または放送が行われていないとき
  ービデオデッキから映像入力中に、ビデオデッキのチャンネルや入力を切り換えたとき
  ービデオデッキや、ビデオカメラレコーダーから映像入力中に、ビデオテープのつなぎ撮りをした部分を再生したとき
  ービデオカメラレコーダーで録画中に振動やゆれを加えて撮ったテープを再生したとき
  ー本機へ映像入力中に再生側のビデオデッキやビデオカメラレコーダーに振動やゆれが加わったとき

リモコンを使って「Giga Pocket」ソフトウェアを操作するには

付属のリモコンを使って、「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できます。テレビのチャンネルをかえたり、リモコンでビデオカプセルを選択して再生できます。

リモコンを使っての「Giga Pocket」ソフトウェアの操作について詳しくは、「リモコンボタンのモード別機能一覧」（24ページ）および「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

ビデオカプセルとは

「Giga Pocket」ソフトウェアで録画した動画を入れる入れ物のようなものです。
動画を記録するためのMPEGファイルと各種の付加情報が結合した、ソニー独自のファイル形式です。

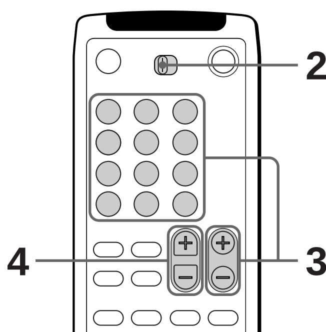
テレビを操作する（PCV-L450Gのみ）

付属のリモコンを使って、本機に接続されているテレビやソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200を操作することができます。テレビのつなぎかたについて詳しくは、「テレビにつなぐ」（137ページ）をご覧ください。

 **ちょっと一言**

お買い上げ時の設定では、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200でテレビを見るための操作ができるように設定されています。
リモコンで他社のテレビを操作できるように設定することもできます。詳しくは、「リモコンで各社のテレビを操作するには」（27ページ）をご覧ください。

テレビを見るには



1 **テレビの主電源を入れる。**

2 **リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「テレビ」に切り換える。**

3 **チャンネル数字ボタンまたはチャンネルボタンを押して、チャンネルを選ぶ。**
選んだチャンネルの放送がテレビに映ります。

4 **音量ボタンを押して、音量を調節する。**

次のページにつづく

テレビを消すには

リモコンの電源／スタンバイボタンを押します。

音を一時的に消すには

リモコンの消音ボタンを押します。もう1度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。

入力を切り換えるには

リモコンの入力切換ボタンを押します。外部入力された映像に切り換わります。

音声を切り換えるには

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選択することができます。リモコンの音声切換ボタンを押すごとに、音声が以下のように切り換わります。

項目	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主音声	主音声	主音声
副音声	副音声	副音声
主＋副音声	主音声	副音声

ご注意

テレビによっては一部のボタンが使えないことがあります。

静止画で楽しむ

本機に“ メモリースティック ”を使って、またはi.LINK対応機器から静止画を取り込み、静止画を電子メールに添付して送ったり、パノラマ画像や写真入りのラベルを作ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の静止画の楽しみかたを説明します。

- “ メモリースティック ”を使って静止画を取り込む
- i.LINK対応機器から静止画を取り込む
- 静止画を電子メールで送る
- パノラマ画像を作る
- 写真入りのラベルを作る

ちょっと一言

本機を使って、i.LINK対応機器から静止画を取り込むには、別売りの i.LINKケーブルが必要です。詳しくは、「必要な i.LINKケーブル」（143ページ）をご覧ください。

“ メモリースティック ”を使う

“ メモリースティック ”を使って、デジタルビデオカメラレコーダーなど“ メモリースティック ”対応機器から静止画を本機に簡単に取り込むことができます。

ここではソニーデジタルビデオカメラレコーダーDCR-TRV10から“ メモリースティック ”を使って静止画を取り込んでみます。

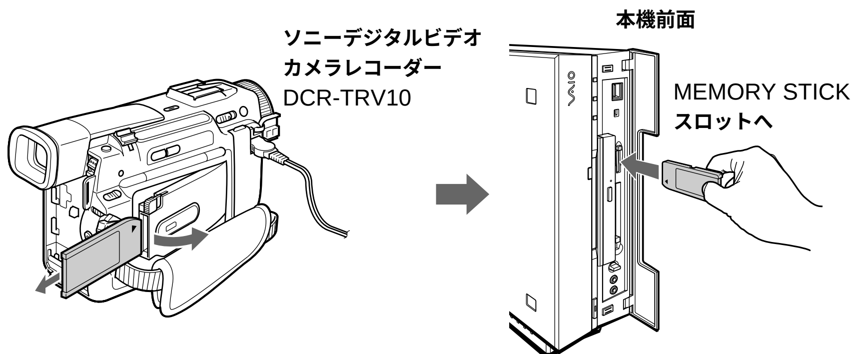
1 デジタルビデオカメラレコーダーに“ メモリースティック ”を入れ、静止画を撮影する。

デジタルビデオカメラレコーダーへの“ メモリースティック ”の入れかたおよび静止画の撮影について詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

2 デジタルビデオカメラレコーダーから“ メモリースティック ”を取り出し、本機のMEMORY STICK（**メモリースティック**）**スロットへ入れる。**

“ メモリースティック ”の取り出しかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。



「VisualFlow」ソフトウェアが起動し、“ メモリースティック ”に保存された静止画が一覧表示されます。
「VisualFlow」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VisualFlow」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

MPEG1フォーマットの動画を取り込むこともできます

MPEG1フォーマットで動画を撮影できる機能を持ったデジタルビデオカメラレコーダーをご使用の場合は、手順1で静止画のかわりに動画を撮影することにより、同様の手順で動画を取り込むことができます。動画の撮影について詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

付属の「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で録画した映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。
以下の流れに沿って静止画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（139ページ）をご覧ください。

「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む静止画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（169ページ）をご覧ください。

 **リフレッシュレートとは**

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

静止画を電子メールで送る

“ メモリースティック ”対応機器またはi.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。静止画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」または「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

「Smart Capture」ソフトウェアを使うときは

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（119ページ）をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を電子メールで送ります。「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを使うときは

“ メモリースティック ”を使って静止画を取り込む

“ メモリースティック ”を使って静止画を取り込む方法については、『“ メモリースティック ”を使う』(117ページ)をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

起動後は、送りたい静止画を、「PictureGear」から電子メールソフトウェアの静止画を添付したいメッセージにドラッグアンドドロップします。
電子メールへの静止画の添付のしかたについて詳しくは、お使いの電子メールソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

静止画によっては、電子メールで送信するのに向かない容量が大きいものもあります。送信する前に、静止画のファイルの容量をご確認ください。

パノラマ画像を作る

本機に取り込んだ静止画を何枚かつなげて、パノラマ画像を作ることができます。パノラマ画像を作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

パノラマ画像の作成に必要な静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、パノラマ画像作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

↓

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（119ページ）をご覧ください。

↓

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使ってパノラマ画像を作ります。「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

写真入りのラベルを作る

本機に取り込んだ静止画を使ったラベルを作成し、印刷してフロッピーディスクのケースなどに貼ることができます。写真入りのラベルを作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

ラベルに入れる静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、ラベル作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」(119ページ)をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使って静止画や文字をレイアウトして、写真入りのラベルを作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

動画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から動画を取り込み、動画を加工／編集したり、電子メールに添付して送ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の動画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から動画を取り込む
- 動画を加工／編集する
- 動画を電子メールで送る

 **ちょっと一言**

本機を使って、i.LINK対応機器から動画を取り込むには別売りの i.LINKケーブルが必要です。詳しくは、「必要な i.LINKケーブル」（143ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

付属の「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を本機に取り込めます。以下の流れに沿って動画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（139ページ）をご覧ください。

↓

「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を取り込みます。各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

- 「DVgate Motion」ソフトウェアをお使いの際は、その他すべてのソフトウェアをあらかじめ終了させてください。
- 「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ動画のファイル形式はDV形式ではなく、AVI形式またはアニメーションGIF形式になります。



DV形式とは

「DV形式」とは、ソニーデジタルビデオカメラレコーダーなどDV方式のデジタルビデオ機器からテープ上に映像／音声をデジタル記録する際のデータ圧縮形式です。



AVI形式とは

「AVI形式」とは、Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。



アニメーションGIF形式とは

「アニメーションGIF形式」とは、米CompuServeが作った画像データ形式であるGIF形式の画像を複数集めて、動画にしたときのファイル形式です。

- ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む動画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（169ページ）をご覧ください。
- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って取り込む動画データは容量が大きいので、本機では、ハードディスクがC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれており（お買い上げ時）、動画を扱うためのデータのスペースとしてD:ドライブが確保されています。お使いになる状況によって、D:ドライブに割り当てられている容量を変えることができます。パーティションサイズを変更するには、「パーティションサイズを変更する」（217ページ）をご覧ください。



リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

動画を加工／編集する

i.LINK対応機器で録画した動画を本機に取り込んで加工／編集することができます。不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげるといった加工をするときは付属の「DVgate Assemble」ソフトウェアを使います。また、付属の「MovieShaker」ソフトウェアを使うと、動画と動画をつなぐオーバーラップ効果や色の調整、特殊効果、テキスト文字の挿入などさまざまなビデオ編集ができます。加工／編集した動画はi.LINK対応機器に録画することもできます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（139ページ）をご覧ください。

動画を取り込む

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（124ページ）をご覧ください。

動画の簡単な加工をする

「DVgate Assemble」ソフトウェアを使って動画を加工します。
「DVgate Assemble」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」の取扱説明書をご覧ください。

動画を編集する

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画を編集します。
「MovieShaker」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「MovieShaker」の取扱説明書をご覧ください。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

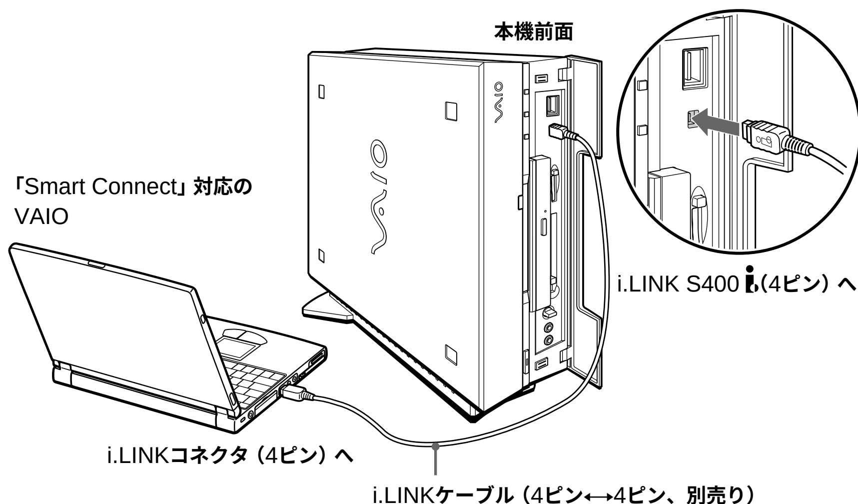
「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」(124ページ)をご覧ください。

動画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

「Smart Connect」対応のVAIOとデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機を、別売りのi.LINKケーブル（4ピン←→4ピン）で接続すると、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。
使いかたについて詳しくは、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。
i.LINK接続については、「i.LINK対応機器をつなぐ」（139ページ）をご覧ください。
本機では「Smart Connect」は初期設定で使えない状態に設定されています。使えるようにするには、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。



ちょっと一言

「Smart Connect」を使ったデータのやりとりの状態は、「Smart Connectモニタ」で確認できます。デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックして確認します。詳しくは、「Smart Connectモニタ」のヘルプをご覧ください。

ご注意

「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときに、「DVgate」、「Smart Capture」のいずれかのソフトウェアを起動すると、本機が正常に動作しなくなることがあります。「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときは、これらのソフトウェアは起動しないでください。

音楽CD／ビデオCDを再生する

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDなどを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）
「Media Bar」ソフトウェアを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。
「Media Bar」ソフトウェアを使うには以下の手順に従って操作してください。

1 初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときはデスクトップ画面上の （AV再生の設定）をクリックする。
「AV再生の設定」画面が表示されます。

AV 再生の設定
拡張子の関連付け　スタートアップ登録
<ドライブ内ディスクの再生>
Media Bar で再生するディスクを選択してください。
☑ 音楽 CD，ビデオ CD(C)
<AV ファイルの再生>
Media Bar で再生するファイルの拡張子を選択してください。
ファイルをダブルクリックするだけで Media Bar で再生できるようになります。
☑ AVI ファイル [avi](V)
☑ QuickTime ファイル [mov qt](Q)
☑ MPEG ファイル [enc m1v mp2 mp3 mpa mpe mpeg mpg](E)
☑ MIDI ファイル [mid rmi smf](M)
☑ オーディオ ファイル [aif aifc aiff au snd wav](A)
OK　キャンセル　適用(A)　ヘルプ

2 画面の指示に従って各チェックボックスをクリックしてから、 OK をクリックする。
「Media Bar Launcher」操作画面が表示されます。

CD　VCD　MD

3 再生する。
「Media Bar」ソフトウェアの使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

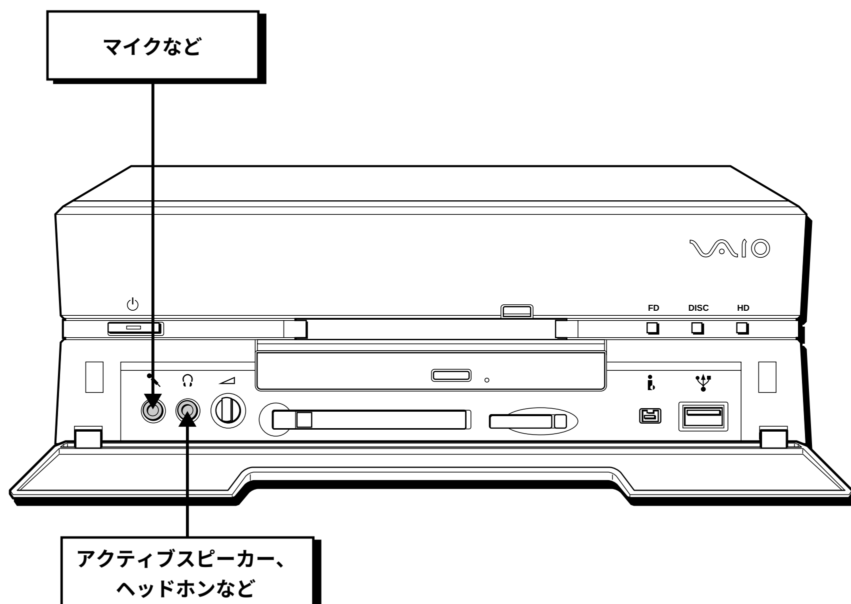
一度上記の流れに従って「Media Bar」ソフトウェアの再生のための設定を終了すると、 （AV再生の設定）は表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。再度設定を行いたい場合は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Media Bar］から［AV再生の設定］をクリックします。

拡張編

AV機器をつなぐ

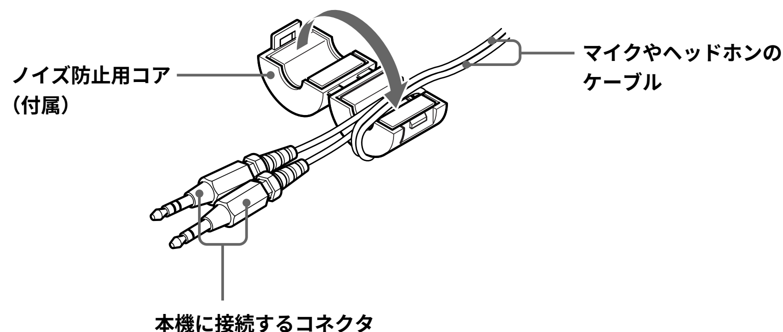
本機とお手持ちのAV機器を接続し、付属のさまざまなソフトウェアを使うことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。
接続するAV機器の取扱説明書や、ソフトウェアのヘルプなどもあわせてご覧ください。

本機前面

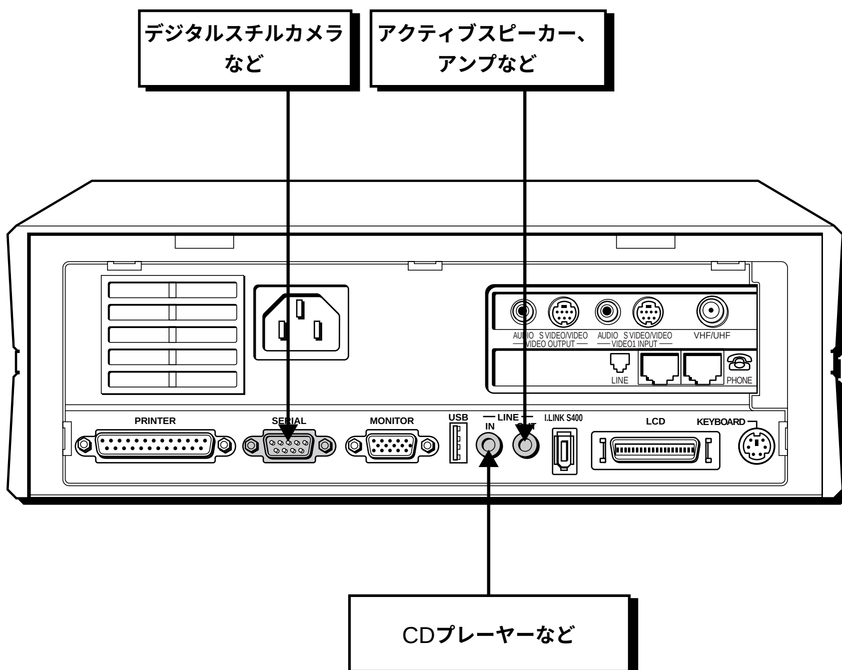


マイクやヘッドホンは付属のノイズ防止用コアを取り付けてからご使用ください

本機のMICコネクタおよびPHONESコネクタにマイクやヘッドホンをつなげてお使いになるときは、マイクやヘッドホンのケーブルの本機に接続するコネクタの根元に近いところに付属のノイズ防止用コアを取り付けてください。



本機後面（PCV-L450G）



次のページにつづく

また、PCV-L450GにはいろいろなAV機器をつなぐことができます。ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	このようにつないでください
• ビデオデッキの動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオデッキの動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオデッキをつなぎます。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ（PCV-L450Gのみ）」（134ページ）をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ（PCV-L450Gのみ）」（134ページ）をご覧ください。
ディスプレイで見ている動画をテレビでも見たい	本機とテレビをつなぎます。 接続のしかたについては「テレビにつなぐ（PCV-L450Gのみ）」（137ページ）をご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ（PCV-L450Gのみ）

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーを本機につないで、ディスプレイでビデオデッキの動画を見たり、録画することができます。また、再生した動画をビデオデッキで録画することもできます。
Sビデオ接続ケーブル（別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーをつなぎます。本機には後面パネルに映像／音声入力コネクタとS映像入力コネクタがあり、どちらの入力コネクタを使うこともできます。
ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

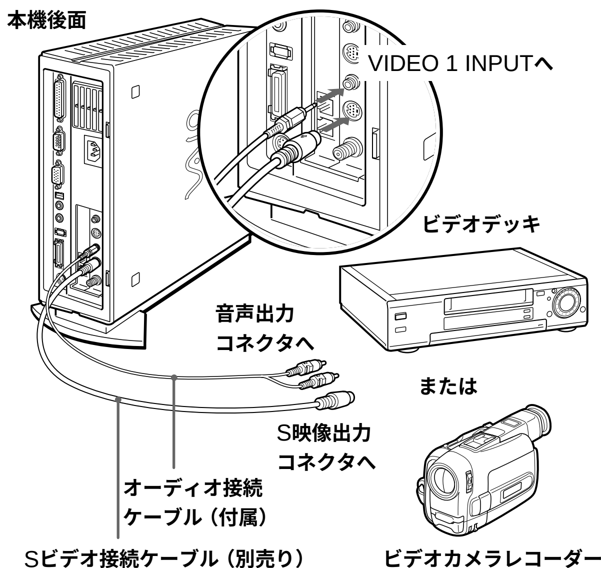
すでに壁のアンテナコネクタにビデオデッキやテレビがつながっているときは

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターを使って分配する必要があります。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

ビデオデッキの映像を見たり録画するには

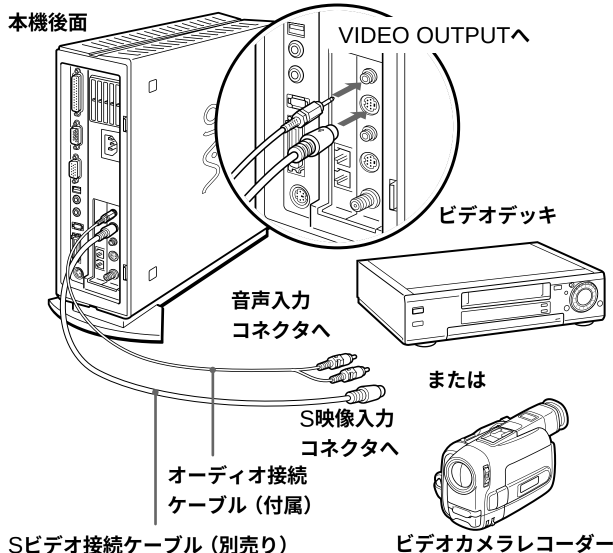
付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。ビデオデッキの映像を「Giga Pocket」ソフトウェアで扱う方法については、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの動画を見たり取り込むとき



次のページにつづく

本機で録画した動画をビデオデッキやビデオカメラレコーダーに録画するとき

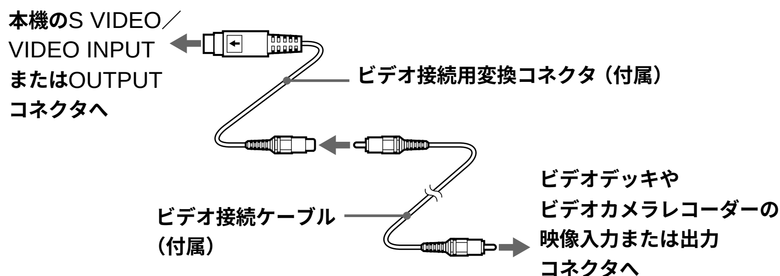


ご注意

本機のVIDEO 1 INPUTコネクタとVIDEO OUTPUTコネクタに同時にビデオデッキやビデオカメラレコーダーを接続して使用すると、雑音が出たり、映像が乱れることがあります。

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキやビデオカメラレコーダーをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



ご注意

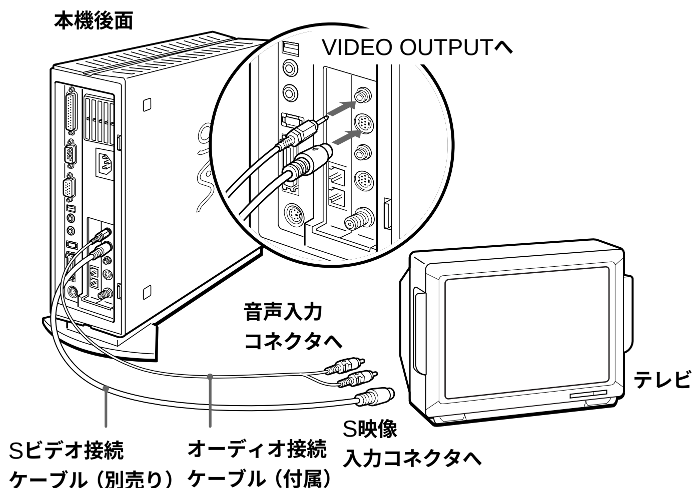
本機のS映像入力コネクタを使うときは、映像入力コネクタに接続ケーブルをつなぐ必要はありません。S映像入力コネクタに接続ケーブルをつなぐと、S映像入力が優先されます。

テレビにつなぐ（PCV-L450Gのみ）

「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像をテレビでも見ることができます。
Sビデオ接続ケーブル（別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。



 **ビデオデッキをつなぐときは**

本機のVIDEO OUTPUTコネクタとビデオデッキの映像／音声入力コネクタをつなぎ、ビデオデッキの映像／音声出力コネクタとテレビの映像／音声入力コネクタをつなぎます。

 **すでに壁のアンテナコネクタにビデオデッキやテレビがつながっているときは**

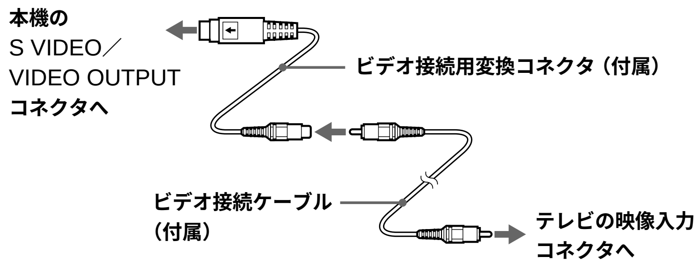
本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターを使って分配する必要があります。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

次のページにつづく



S映像入力コネクタのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」（143ページ）および「本機と操作できるi.LINK対応機器」（144ページ）をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

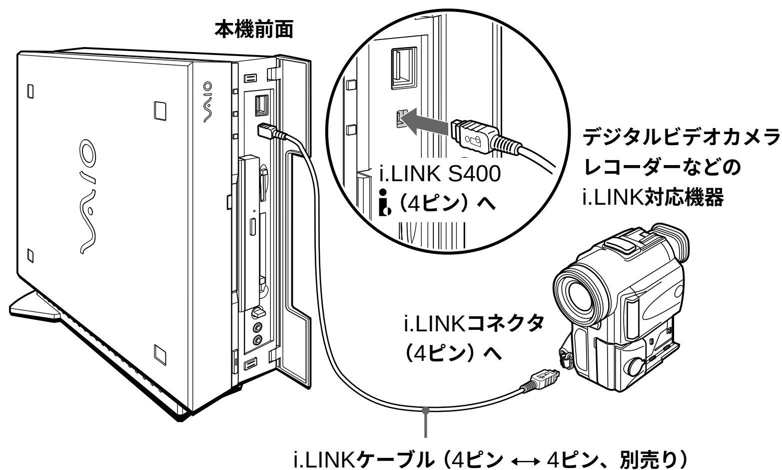

ちょっと一言

- 本機は電源が切れている場合でもi.LINKのデータを中継（リピート）します。
- i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

次のページにつづく

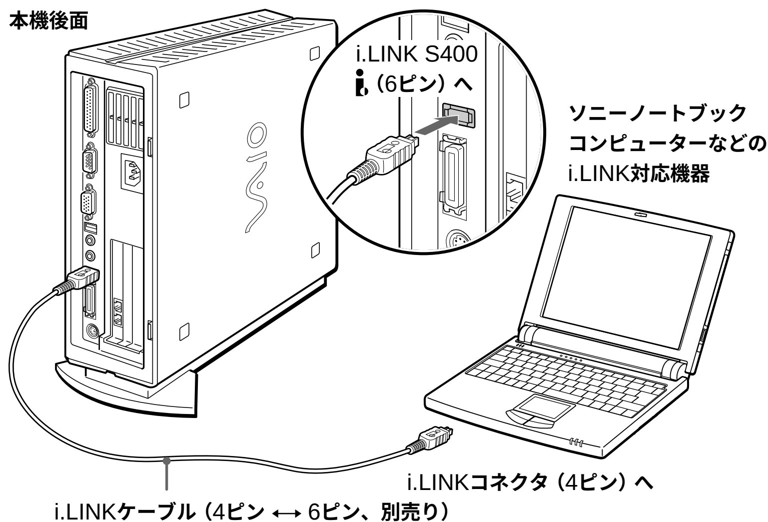
前面パネルのコネクタ（4ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン ⟷ 4ピン、別売り）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン ⟷ 6ピン、別売り）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



i.LINKとは？

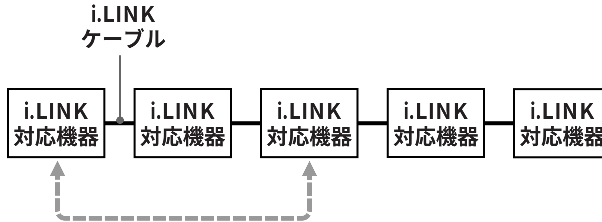
i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

 **ちょっと一言**

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

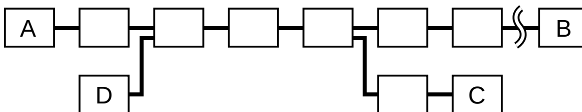
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。



2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINKの規格上、i.LINK対応機器は本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。（i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。）
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

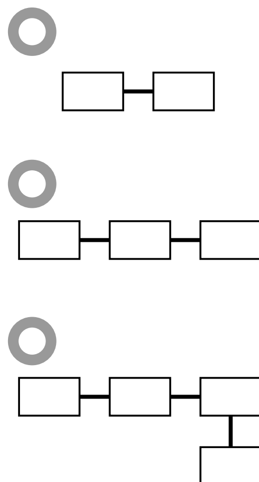


A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、いずれの経路も最大17台の機器を接続できます（最大16ホップ）。

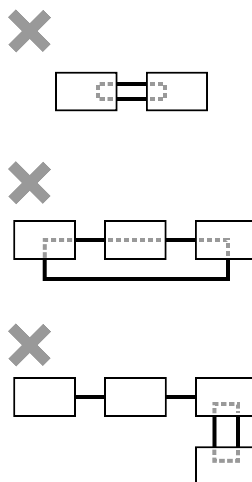
接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

正しい接続例



ループの接続例



接続についてのご注意

- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり、省電力モードに入っているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

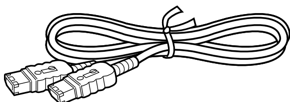
必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

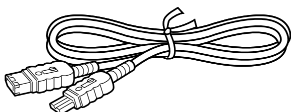
i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、次ページのソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

次のページにつづく

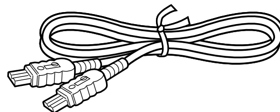
6ピン⟷6ピン
- VMC-IL6615A（1.5 m）
- VMC-IL6635A（3.5 m）



4ピン⟷6ピン
- VMC-IL4615A（1.5 m）
- VMC-IL4635A（3.5 m）



4ピン⟷4ピン
- VMC-IL4408A（80cm）
- VMC-IL4415A（1.5 m）
- VMC-IL4435A（3.5 m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機と操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（2000年5月10日現在）
- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

* 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。
取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニー i.LINK CD-RWドライブ PCVA-CRW1
- ソニーが2000年4月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバータ、およびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む。ツーリストモデルは除く）

ご注意

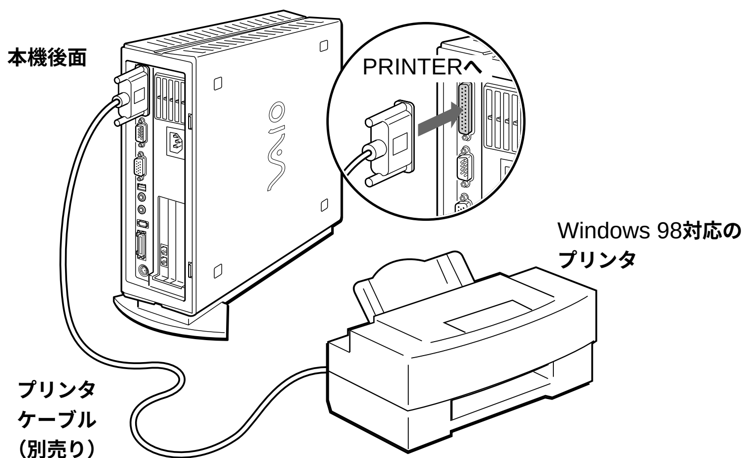
本機はDTLAコピー・プロテクション技術（141ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することができません。

プリンタをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンタに付属または別売りのプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンタおよび付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

 **ドライバとは**

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

次のページにつづく

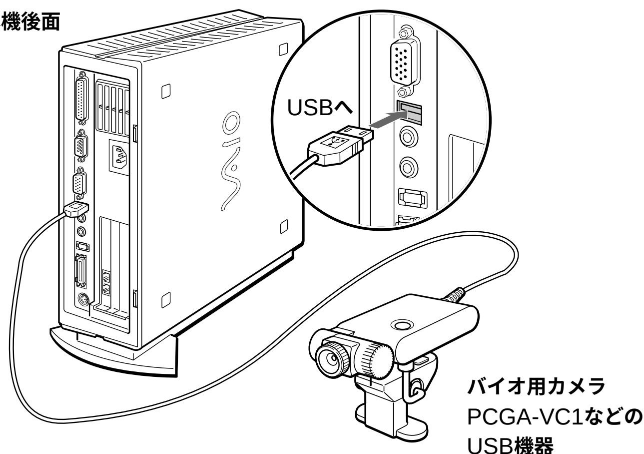
ご注意

本機をスタンバイモードから通常の動作モードに戻したあとで、本機につないだプリンタが使えなくなる場合があります。この場合は、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［プリンタイネーブラ］をクリックして表示される画面で［OK］をクリックしてください。プリンタが使えるようになります。なお、プリンタが正常に使える場合には、「プリンタイネーブラ」は実行しないでください。

USB機器をつなぐ

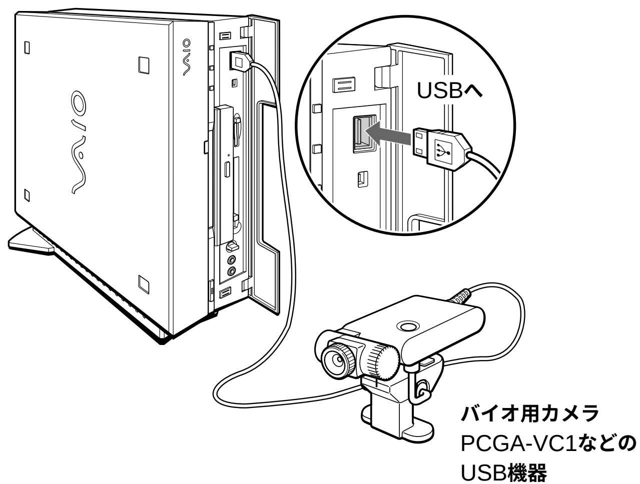
本機のUSBコネクタを使って、バイオ用カメラPCGA-VC1などのUSB機器をつなぐことができます。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

後面パネルのコネクタを使うとき



前面パネルのコネクタを使うとき

本機前面



拡張ボードを増設する

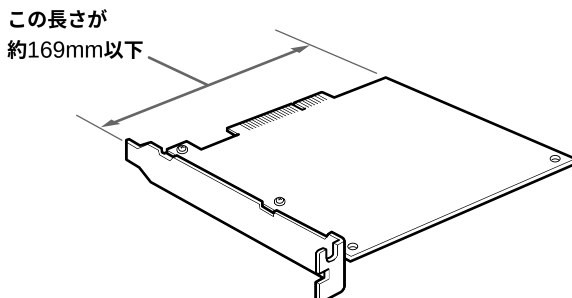
本機では「拡張ボード」と呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCIリビジョン2.1」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 98とPCI規格に対応していることをご確認ください。
本機には空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1つあり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。（PCV-L450Gには空きスロットはありません。）

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの大きさは、下図のようなショートサイズのものです。フルサイズの拡張ボードは取り付けられません。



 **増設できる拡張ボードについて**

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。
VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードはボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。


IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。
キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じた割り込みした処理を行います。


メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。


I/Oポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。


リソースとは

もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

次のページにつづく

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

1 **デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）を右クリックする。**

ショートカットメニューが表示されます。

2 **［プロパティ］をクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 **［デバイスマネージャ］タブをクリックする。**

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 **［コンピュータ］をダブルクリックする。**

「コンピュータのプロパティ」画面が表示され、現在使用中のリソースが表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

本機前面の電源ランプが消灯していることを確認してください。電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」（31 ページ）をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」（152ページ）をご覧ください。

電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」（30ページ）をご覧ください。

ドライバの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されるとメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書などもご参照のうえ、指示に従って操作してください。


ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源を入れたまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。

- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- 縦置きスタンドを使用しているときは、本機から縦置きスタンドを取りはずしてください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

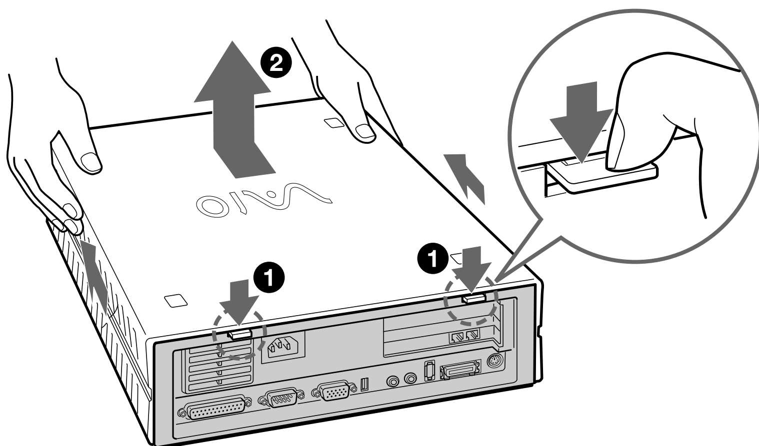
ご注意

電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 本機のカバーを取りはずす。

❶ 本機後面の2か所のツメを下げる。

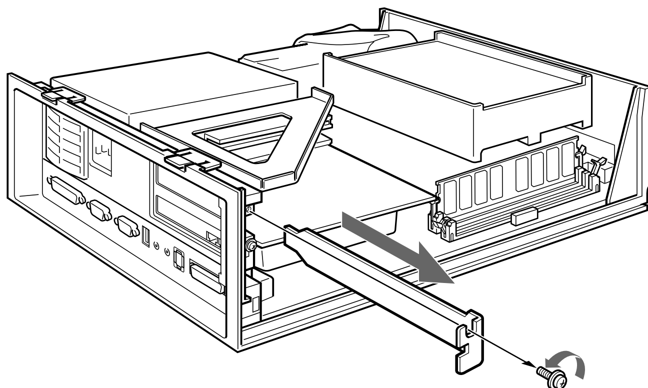
❷ カバーを矢印方向にずらしてから、持ち上げて取りはずす。



 **ちょっと一言**

本機を縦置きでお使いのかたで、本機の底面に付属のフットを取り付けていない場合は、カバーを取りはずす前に一時的にフットを取り付けると作業しやすくなります。フットの取り付けかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「設置する」をご覧ください。

3 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーのネジをはずし、カバーを取りはずす。



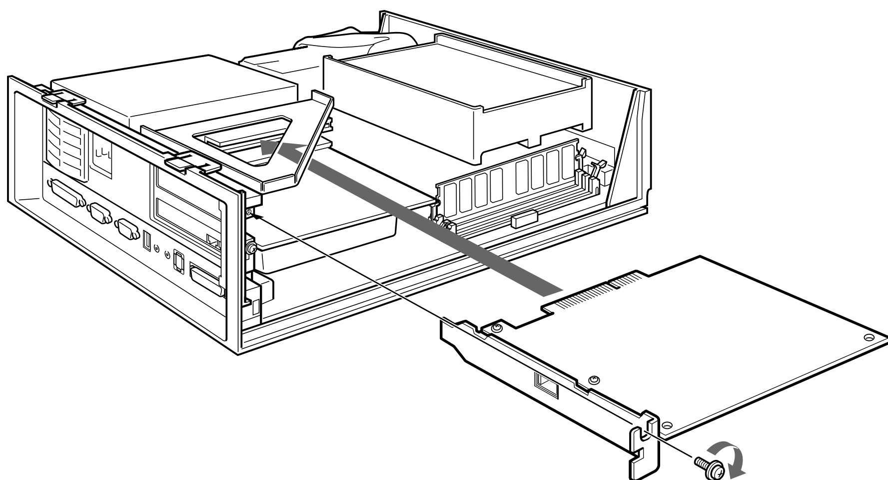
ご注意

内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。

次のページにつづく

4 拡張ボードを取り付ける。

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。
詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



5 本機のカバーを取り付ける。

6 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

Windows 98が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

PCカードを使う

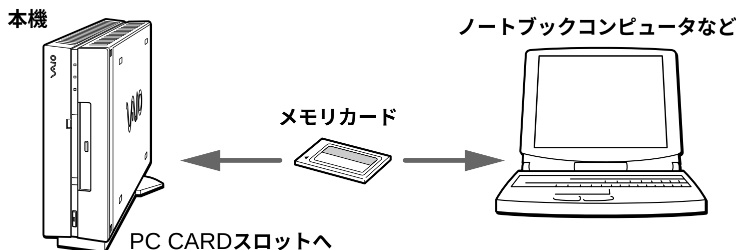
本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張したりできます。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリカード

データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。
また、本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。



SCSIカード

MOドライブやスキャナなどのSCSIデバイスを接続できます。

MOとは

「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記憶メディアのことです。フロッピーディスクよりも容量が多く、種類により、最大640Mバイトまでデータを記録することができます。

SCSIとは

「スカジー」と読みます。コンピュータと、MOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。周辺機器などをSCSIで接続すると、本機を含めて最大7台まで数珠つなぎに接続することができます。

次のページにつづく

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

 **イーサネットとは**

コンピュータ間のデータ通信方式のことで、職場などで複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないで、データをやりとりするときに使われます。

TA（ターミナルアダプタ）カード

ISDN回線に接続できます。

 **ISDNとは**

NTTのデジタル通信網を使った電話で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

本機には、PC Cardタイプ I とタイプ II に準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busにも対応しています。
（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

ご注意

PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。

- PCカードによっては、本機のリソース不足により、本機の工場出荷時の設定で使用できないことがあります。この場合は、BIOSセットアップ（CMOS SETUP UTILITY）メニューを起動して、「CHIPSET FEATURES SETUP」の「Onboard Serial Port 1」（シリアルポート）の設定を「Disabled」（使用不可）に変更することをおすすめします。設定の変更のしかたについて詳しくは、本機にプリインストールされている「BIOSセットアップマニュアル」をご覧ください。
  「BIOSセットアップマニュアル」を見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、［BIOSセットアップマニュアル］をクリックします。
  「オンラインマニュアルの使いかた」（16ページ）もあわせてご覧ください。
  また、BIOSをお買い上げ時の設定に戻すには、BIOSセットアップ（CMOS SETUP UTILITY）メニューより「LOAD SETUP DEFAULTS」を選び、実行します。実行のしかたについて詳しくは、本機にインストールされている「BIOSセットアップマニュアル」をご覧ください。

 **BIOSとは**

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

- PC カードによっては、PC CARD スロットに挿入したまま本機の電源を入れると、正しく動作しないことがあります。この場合は、PC カードの使用を中止し、いったん取り出してから、もう一度入れ直してください。PC カードの取り出しかたについて詳しくは、「PC カードを取り出すには」（159 ページ）をご覧ください。
- お使いのPC カードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。



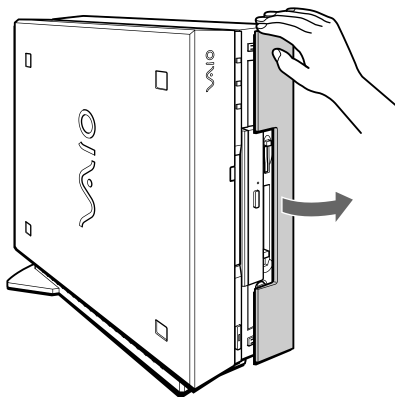
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをパソコン側に知らせ、周辺機器を、正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

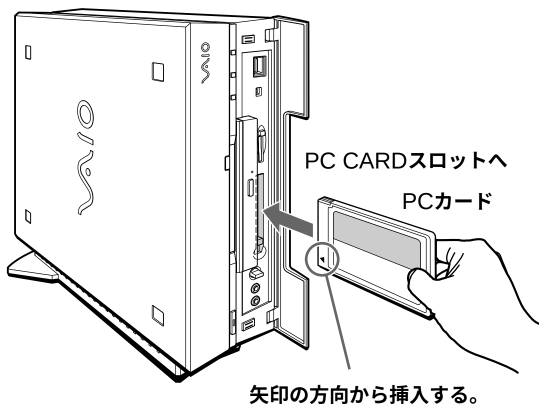
1 本機の前面パネルのふたを開ける。



次のページにつづく

2 **カードを**PC CARD（PC**カード）スロットに挿入する。**

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。
カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているとき（本機前面の ⏻（電源）ランプが消灯）は、手順1～5は不要です。本機がスタンバイモードのとき（本機前面の ⏻（電源）ランプがオレンジ色に点灯）は、キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押して本機を通常の動作モードに戻してから手順1～6を行ってください。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （PCカード）をダブルクリックする。

「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面が表示されます。

3 リストから取り出したいPCカードをクリックし、［停止(S)］をクリックする。

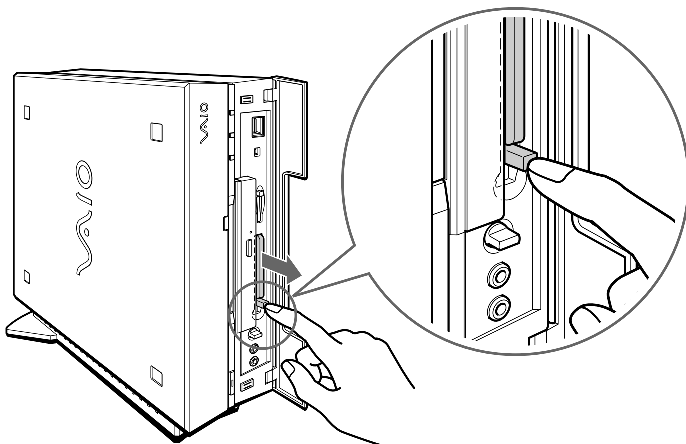
4 「このデバイスは安全に取りはずせます。」と表示されたら、［OK］をクリックする。

5 ［OK］をクリックする。

「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面が閉じます。

6 PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。

カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



本体を拡張する

メモリを増設する

本機内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。
メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをお薦めします。
- メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
  メモリをご購入されたかた、またはご購入予定のかたで、ご自分で取り付けられない場合は、VAIOカスタマーリンクで有料取り付けサービスを承っております。
- メモリ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- メモリ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。

メモリモジュールを取り付ける

別売りのメモリモジュールを取り付けることにより、メモリを増設します。
ソニー製のメモリーモジュールは、以下のものが取り付けられます。

容量	メモリーモジュール	同じメモリを2枚増設すると
128Mバイト	PCVA-MM128Q	256Mバイトまで増設
256Mバイト	PCVA-MM256S	512Mバイトまで増設

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあり、本機には64Mバイトのメモリが1枚装着されています。
標準で装着されているメモリモジュールを取りはずし、PCVA-MM256S（別売り）を2枚取り付けて装着することにより、最大で512Mバイトまでメモリを増設することができます。
取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリモジュールを選ぶときのご注意

- メモリモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリモジュールの販売元にご相談ください。

メモリモジュールを取り付けるときのご注意

メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源を入れたままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が破損することがあります。

- 静電気でメモリモジュールが破壊しないように、メモリモジュールを取り付けるときは、次のことをお守りください。
  – メモリを増設するときは、静電気の起こりやすい場所（カーペットの上など）では作業しないようにしてください。
  – 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  – メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを持つときは半導体やコネクタに触れないようにしてください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

次のページにつづく

1 **本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。**

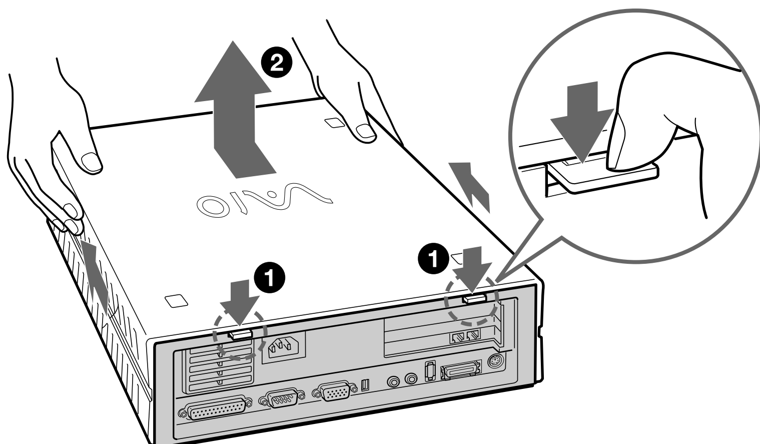
ご注意

電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 **本機のカバーを取りはずす。**

❶ 本機後面の2か所のツメを下げる。

❷ カバーを矢印方向にずらしてから、持ち上げて取りはずす。



ちょっと一言

本機を縦置きでお使いのかたで、本機の底面に付属のフットを取り付けていない場合は、カバーを取りはずす前に一時的にフットを取り付けると作業しやすくなります。フットの取り付けかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「設置する」をご覧ください。

3 **メモリモジュールを梱包から取り出す。**

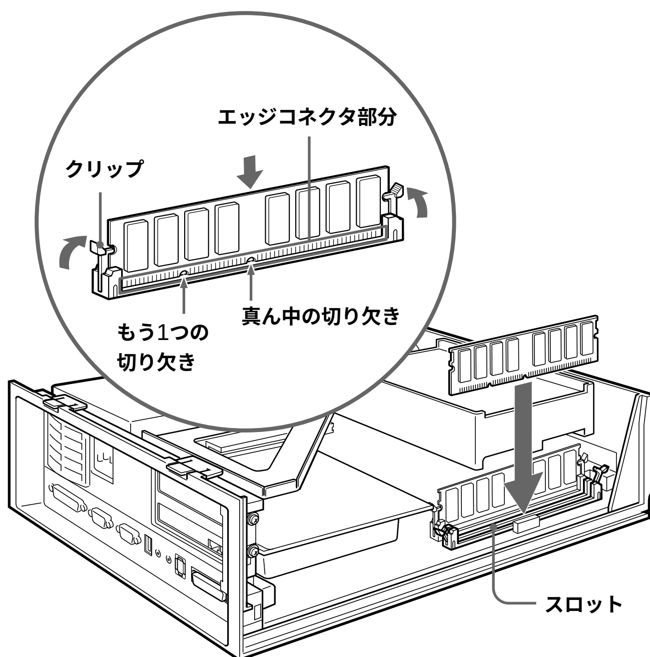
本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出します。

4 メモリモジュールを取り付ける。

メモリモジュールにはエッジコネクタ部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

❶ メモリモジュールのエッジコネクタ部分のもう1つの切り欠きがある方を右側にしてスロットに合わせる。

❷ クリップが起き上がり、固定されるまでメモリモジュールを垂直にスロットへ押し込む。



ご注意

メモリモジュールを取りはずしたり、取り付けるときは、必ず本機を横にして作業してください。

次のページにつづく

5 **本機のカバーを取り付ける。**

6 **手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。**

7 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［VAIO システム情報］を選び、［VAIO システム情報］をクリックする。**

「VAIO システム情報」画面が表示されます。

VAIO システム情報

本アプリケーションは、このコンピュータに固有の情報を表示します。

製品情報
製造： Sony Corporation
モデル名： PCV-
シリアル番号：
BIOSバージョン：
OSバージョン：
OSシリアル番号：
OEM情報： ソニー株式会社
PCV-

システム情報
CPU：
クロック周波数： MHz
システムメモリ： MBytes
キャッシュメモリ： KBytes

閉じる

8 **「システムメモリ」の項目が増設後のメモリ容量になっていることを確認する。**

メモリの容量が正しければ、メモリの増設は完了しました。

メモリの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。

VAIO システム情報

本アプリケーションは、このコンピュータに固有の情報を表示します。

製品情報
製造： Sony Corporation
モデル名： PCV-
シリアル番号：
BIOSバージョン：
OSバージョン：
OSシリアル番号：
OEM情報： ソニー株式会社
PCV-

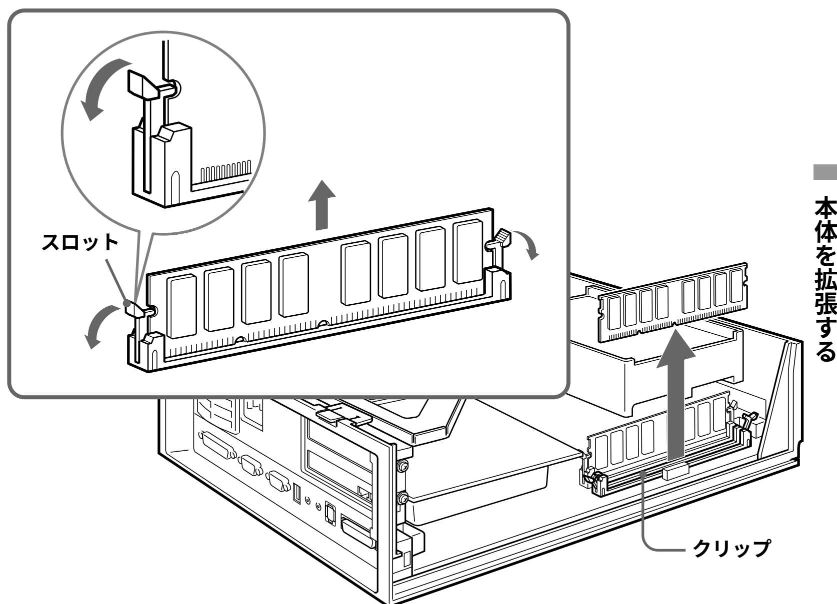
システム情報
CPU：
クロック周波数： MHz
システムメモリ： MBytes
キャッシュメモリ： KBytes

閉じる

ここを確認する。

メモリモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリスロットの両端のクリップを外側に押し、メモリモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



ご注意

標準で取り付けられているメモリモジュールを取りはずす場合は、本機内部の他のデバイスを取りはずす必要があります。
128Mバイトのメモリモジュールを2枚取り付けるなど、標準のメモリモジュールを取りはずす必要がある場合は、販売店またはVAIOカスタマーリンク修理窓口に取り付けを依頼されることをおすすめします。

セットアップ編

操作環境を自分の好みに合わせる

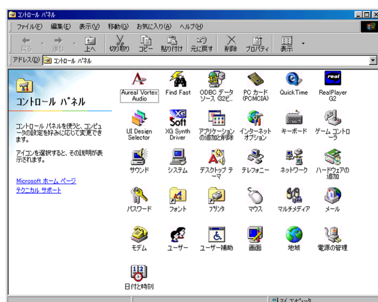
本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 98のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 98に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。

設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目の画面を表示させ、設定を変えます。



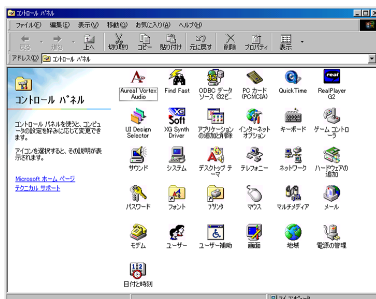
アイコン	できること
（キーボード）	キーボードの設定を変更できます。
（UI Design Selector）	ソニー製ソフトウェアのデザインを変更できます。（184ページ）
（XG System Driver）	音質の設定を変更できます。（185ページ）
（サウンド）	Windows 98の起動時や終了時の音、警告音などを変更できます。
（マウス）	ポインタの動きかたを変更したり、ホイール機能の設定ができます。（187ページ）
（日付と時刻）	本機に登録してある日付や時刻を変更できます。
（画面）	解像度を変更したり、画面の背景、スクリーンセーバーを変更できます。（169ページ）

ディスプレイの設定を変更する

画面の背景、スクリーンセーバー、ウィンドウの枠の色、デスクトップ画面上のアイコンのデザイン、アクティブデスクトップ、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

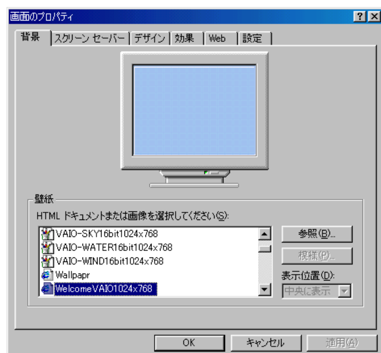
「コントロールパネル」ウインドウが表示されます。



次のページにつづく

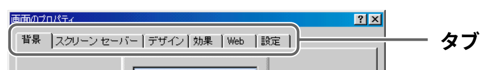
2 **(画面)をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」画面が表示されます。



3 **[背景]、[スクリーンセーバー]、[デザイン]、[効果]、[Web]、[設定]の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。**

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。



4 **設定が終了したら、OK または 適用(A) をクリックする。**

手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ **背景**(171ページ)

画面の背景について設定する画面です。

❑ **スクリーンセーバー**(172ページ)

スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

❑ **デザイン**(173ページ)

ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ **効果**(174ページ)

アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。

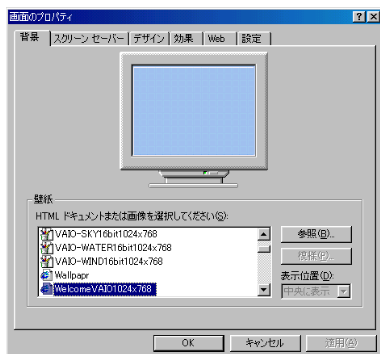
❑ Web(175ページ)

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

❑ **設定**(176ページ)

解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景



❑ 壁紙

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。選んだ壁紙が上のディスプレイ画面にプレビュー表示される。

[参照]: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやアクティブデスクトップを使っているときのみインターネットドキュメント（HTMLファイル）を選ぶ画面が表示される。

[模様]: クリックすると、デスクトップに使用する模様を選択する画面が表示される。

表示位置: 壁紙の表示位置を、▼をクリックしてリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙が画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙が並べられて画面全体に表示される。

拡大: 壁紙が画面全体に拡大されて表示される。

壁紙とは

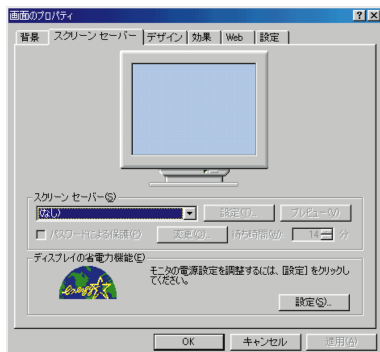
デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

次のページにつづく

スクリーンセーバー



❑ スクリーンセーバー

(なし): 使用するスクリーンセーバーを をクリックしてリストから選ぶ。

[設定]: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定する画面が表示される。

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: をクリックして にすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

[変更]: クリックすると、スクリーンセーバーを保護するパスワードが設定される。

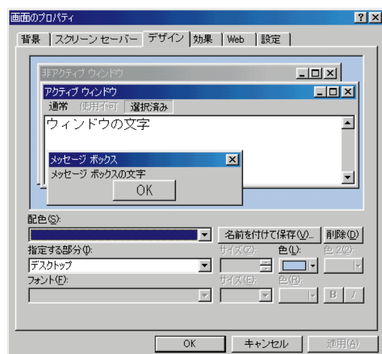
待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを をクリックして選ぶ。

❑ ディスプレイの省電力機能

[設定]: クリックすると、ディスプレイの電源を設定する画面が表示される。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン



❑ 配色

Windows スタンダード: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録する画面が表示される。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

❑ 指定する部分

デスクトップ: 「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを ▲▼ をクリックして選ぶ。

色: 指定する部分の色を ▼ をクリックして選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色を ▼ をクリックして選ぶ。

❑ フォント

: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさを ▼ をクリックして選ぶ。

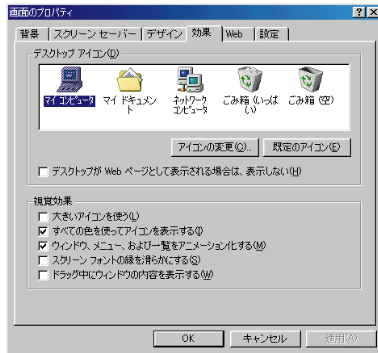
色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

I: クリックすると、文字が斜体になる。

次のページにつづく

効果



❑ デスクトップアイコン

変更したいアイコンをクリックして変更します。

[アイコンの変更]: クリックすると、変更できるアイコンの一覧の画面が表示される。

[既定のアイコン]: クリックすると、変更したアイコンをデフォルトのアイコンに戻す。

ディスクトップがWebページとして表示される場合は、表示しない：

□ をクリックして ☑ にすると、アクティブデスクトップを使用しているときはディスクトップにアイコンを表示しないように設定する。

❑ 視覚効果

大きいアイコンを使う: □ をクリックして ☑ にすると、デスクトップに表示されるアイコンを大きくする。

すべての色を使ってアイコンを表示する: □ をクリックして ☑ にすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

ウィンドウ、メニューおよび一覧をアニメーション化する:

□ をクリックして ☑ にすると、画面やメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーン フォントの縁を滑らかにする: □ をクリックして ☑ にすると、複雑な文字が見やすくなる。

ご注意

この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

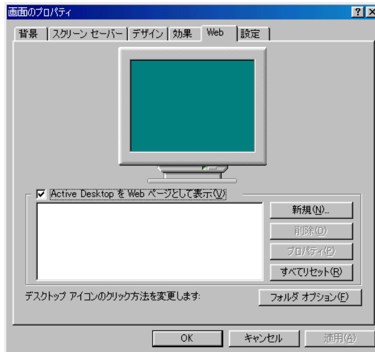
ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する: □ をクリックして ☑ にすると、画面をドラッグするときに画面を表示したままドラッグする。

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

 **アクティブデスクトップとは**

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。



❏ **Active DesktopにWebコンテンツを表示**

チェックボックスをクリックすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

下のリストのアクティブデスクトップ項目の □ をクリックして ☑ にすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

[新規]: 新しいアクティブデスクトップ項目をインストールする。

[追加]: 新しいアクティブデスクトップ項目を追加する。

[削除]: 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ]: 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細が表示される。

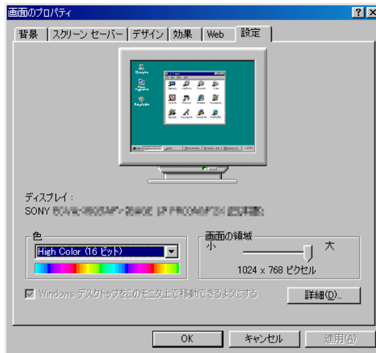
[すべてリセット]: デスクトップを標準の設定に戻す。

❏ **フォルダオプション**

クリックすると、フォルダに関する詳細を設定する画面が表示される。この項目を選ぶと「画面のプロパティ」画面は保存され、閉じられる。

次のページにつづく

設定



❑ ディスプレイ

接続されているディスプレイが表示される。

❑ 色

High Color (16 ビット)：画面の表示色数を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

ご注意

本機では「High Color（16ビット）」に設定してお使いになることをおすすめします。

❑ 画面の領域

スライダを左右に動かして画面の解像度を設定する。

ご注意

PCV-L750では1280×960ピクセルに、PCV-L550／L450Gでは1024×768ピクセルに設定してお使いになることをおすすめします。

❑ Windowsディスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする

マルチディスプレイのときに有効になる。



マルチディスプレイとは

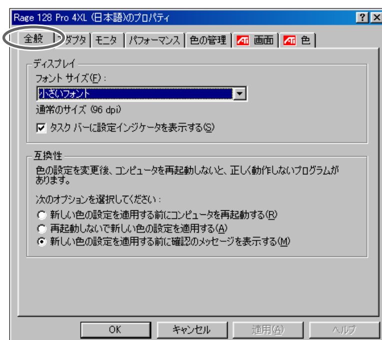
1台のコンピュータに複数のディスプレイを接続して、それぞれに違う画面を表示する機能です。

❑ [詳細]

クリックすると、フォントサイズ、リフレッシュレート、ディスプレイを設定する画面が表示される。

［詳細］をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般



- **ディスプレイ**

  フォントサイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小を をクリックしてリストから選ぶ。（解像度が800×600ピクセルより大きい場合のみ選べます。解像度について詳しくは、「画面の領域」（176ページ）をご覧ください。）

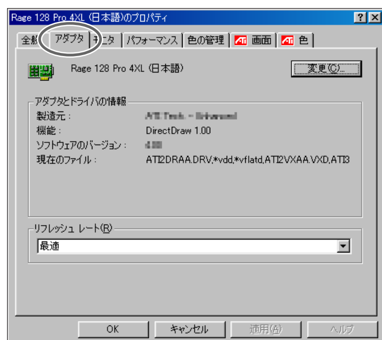
  タスクバーに設定インジケータを表示する:
  をクリックして にすると、 がデスクトップ画面右下のタスクバーに表示される。

- **互換性**

  ディスプレイの色の設定を変更するときに適用するオプションの をクリックして にして選ぶ。

次のページにつづく

アダプタ



- **[変更]**
  クリックすると、新しいディスプレイアダプタのソフトウェアをインストールするための画面が表示される。

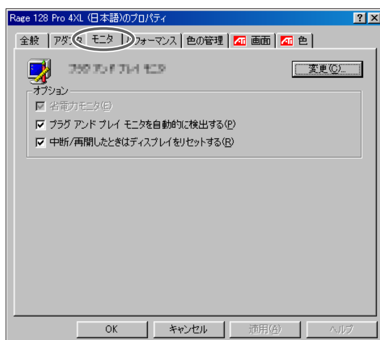
- **アダプタとドライバの情報**
  現在使用しているディスプレイアダプタの情報が表示される。

- **リフレッシュレート**
  変更したいリフレッシュレートを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

 **リフレッシュレートとは**

コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

モニタ



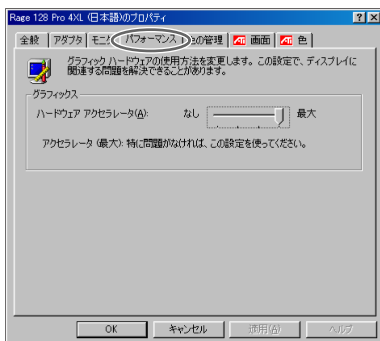
- **[変更]**

  クリックすると、接続されているディスプレイを変更する画面が表示される。

- **オプション**

  それぞれの □ をクリックして ☑ にし、ディスプレイに関するオプションの設定を変更する。

パフォーマンス



- **グラフィックス**

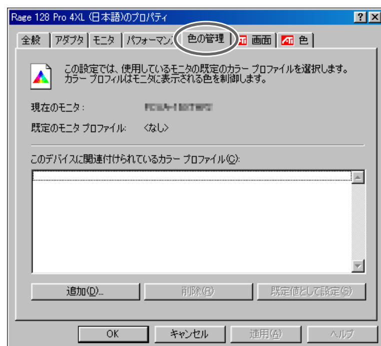
  ハードウェアアクセラレータ: スライダを左右に動かして、ハードウェアアクセラレータの機能をどの程度使うか指定する。

 **ハードウェアアクセラレータとは**

コンピュータの画面表示を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。

次のページにつづく

色の管理



- **現在のモニタ**
  接続されているディスプレイの名前が表示される。
- **既定のモニタ プロファイル**
  接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。
- **このデバイスに関連付けられているカラープロファイル**
  接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。使用するプロファイルをクリックして選ぶ。
- **[追加]**
  クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択する画面が表示される。
- **[削除]**
  クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。
- **[既定値として設定]**
  クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

 **プロファイルとは**

Windows 98のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

画面



- **基本設定**

  デスクトップ設定の名前を入力して右側の［保存］をクリックすると、各ディスプレイデバイスの現在の設定を保存できる。
  設定を削除するときは［削除］をクリックする。

- **ホットキー**

  上記の「基本設定」を保存するときに一緒にホットキーを割り当てる。

- **モニタ**

  別売りのCRTディスプレイを本機のMONITORコネクタ（21ページ）につないだとき、有効になる。
  ［モニタ］をクリックすると、画面の位置やサイズを調整する画面が開く。
  ディスプレイの解像度は「設定」画面の「画面の領域」（176ページ）で調整します。

- FPD

  付属の液晶ディスプレイを本機のLCDコネクタにつないだとき有効になる。
  ［FPD］をクリックすると、パネル属性を確認したり、変更する画面が開く。
  ディスプレイの解像度は「設定」画面の「画面の領域」（176ページ）で調整します。

ご注意

ゲームなどのイメージでパネルサイズに拡大すると、画面の表示が見にくくなることがあります。この場合は「イメージをパネルサイズに」のチェックをはずしてお使いください。

次のページにつづく

色

ディスプレイの色の補正を行うための画面です。グラフィックの編集をするときなどに画面に表示される色を調整できます。プリンタで印刷された色と画面に表示される色を合わせたいときに便利です。



- **色曲線**
  色を構成する3要素である赤、緑、青の発色を調整する。赤、緑、青それぞれのボタンをクリックし、定規をドラッグして調整する。

- **明るさ**
  デスクトップ: スライダを左右に動かしてディスプレイの色の明るさとコントラストを調整する。
  オーバーレイ: スライダを左右に動かしてビデオオーバーレイウィンドウの色の明るさとコントラストを調整する。

- **[既定値]**
  「色」のすべての設定値を初期状態に戻す。

アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。「アクティブデスクトップ」とは、ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップです。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

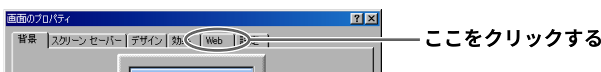
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

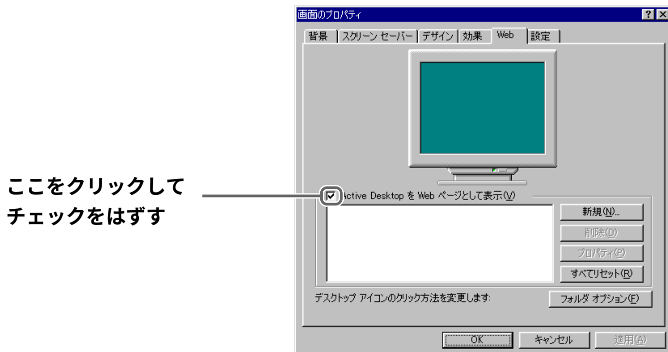
2 （画面）をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［Web］タブをクリックする。

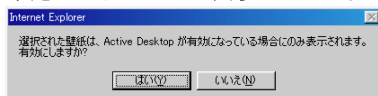


4 ［Active DesktopをWebページとして表示］の ☑ をクリックして ☐ にして、チェックをはずす。



5 OK をクリックする。

下記のメッセージが表示されます。



6 いいえ(N) をクリックする。

Windows 98のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

ウィンドウのデザインを変更する

「UI Design Selector」に対応したソニー製ソフトウェアのインターフェイスのデザインを好みに合わせて変更することができます。

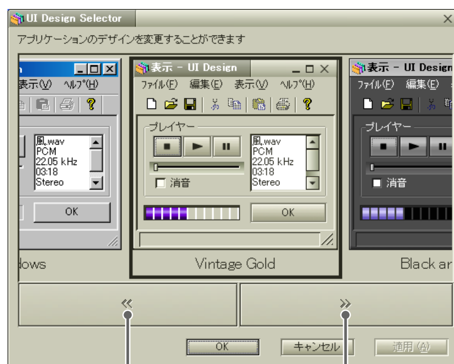
1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウインドウが表示されます。

2 **（UI Design Selector）をダブルクリックする。**

「UI Design Selector」画面が表示されます。

3 **［<<］または［>>］をクリックして、デザインを選ぶ。**



ここをクリックしてデザインを選ぶ

4 **適用(A) をクリックする。**

「UI Design Selector」画面のデザインが変わります。ソニー製ソフトウェアのウィンドウもこの画面と同じデザインになります。

5 **デザインを選び直すときは、［<<］または［>>］をクリックする。**

6 **OK をクリックする。**

ソニー製ソフトウェアの画面のデザインが変更され、「UI Design Selector」画面が閉じます。

音質の設定を変更する

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 XG Soft **（XG Synth Driver）をダブルクリックする。**

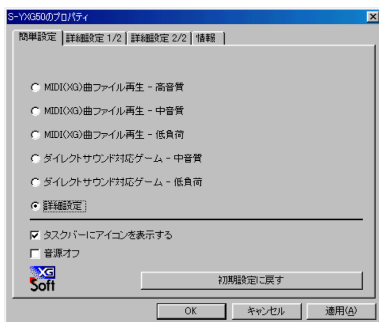
「S-YXG50のプロパティ」画面が表示されます。



ちょっと一言

デスクトップ画面右下のタスクトレイのXG Softを右クリックして表示されるメニューから［ソフトシンセサイザー設定］をクリックしても［S-YXG50のプロパティ］画面が表示されます。

3 **お好みのサウンド設定をクリックして選ぶ。**



詳細な設定をしたいときは、［詳細設定1／2］および［詳細設定2／2］の画面で各種の設定を行います。
画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

各画面の設定項目は、以下のとおりです。

詳細設定1／2



次のページにつづく

❑ ウェーブテーブル音源 最大発音数

最大発音数をクリックするか、スライダを左右に動かして選ぶ。

❑ 最大CPU使用率

CPUの占有率をクリックするか、スライダを左右に動かして選ぶ。

値が大きいほど音質が良くなります。

ご注意

CPUの占有率を上げすぎると、他のソフトウェアの動作が遅くなることがあります。

❑ 受信エフェクト

各種エフェクト効果を入／切する。

リバーブ: ☐ をクリックして ☑ にすると、残響効果が加わる。

コーラス: ☐ をクリックして ☑ にすると、奥行きや厚みといった音響効果が加わる。

バリエーション: ☐ をクリックして ☑ にすると、さまざまな音響効果が加わる。

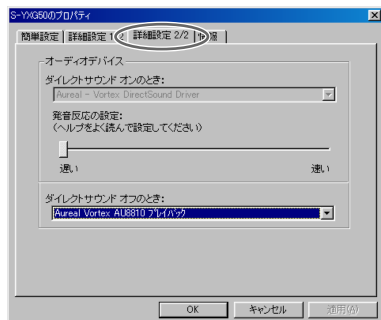
❑ 音質（サンプリング周波数）

再生する音声のサンプリング周波数（音声波形のきめ細かさ）をクリックして選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

❑ ダイレクトサウンド

マイクロソフト社のダイレクトサウンドの使用をクリックして入／切する。ダイレクトサウンドに対応したゲームを使用する場合は「On」を選ぶ。

詳細設定2／2



❑ **オーディオデバイス**

ダイレクトサウンドがオン／オフのとき、オーディオ再生デバイスを選ぶ。ダイレクトサウンドがオンの場合には、発音処理時間を調整できます。

4 設定が終了したら、 OK をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

「YAMAHA ソフトシンセサイザー S-YXG50」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、このソフトウェアのヘルプをご覧ください。

マウスの設定を変更する

ポインタの動きかたや形など、マウスに関する設定を変更することができます。ここでは、付属のホイールマウスの設定を変更する方法について説明します。

ご注意

- 付属のマウス以外のマウスを本機につないだときの動作保証はいたしませんのであらかじめご了承ください。
- 「マウスのプロパティ」画面の右下の［ヘルプ］をクリックしたとき表示されるヘルプには、タッチパッド、他のマウスの追加などの説明が含まれていますが、本機ではお使いになれません。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

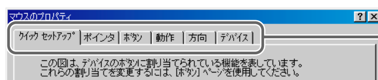
「コントロールパネル」ウインドウが表示されます。

2 （マウス）をダブルクリックする。

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［クイックセットアップ］、［ポインタ］、［ボタン］、［動作］、［方向］、［デバイス］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。



4 設定が終了したら、 OK または 適用(A) をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

次のページにつづく

各画面の設定については、以下のページをご覧ください。

❑ **クイックセットアップ（188ページ）**

本機に接続したマウスのセットアップを行う画面です。

❑ **ポインタ（189ページ）**

ポインタの表示のしかたを設定する画面です。

❑ **ボタン（190ページ）**

マウスのボタンの機能割り当てを設定する画面です。

❑ **動作（191ページ）**

ポインタの速度調節などを設定する画面です。

❑ **方向（192ページ）**

マウスの方向を設定する画面です。

❑ **デバイス（192ページ）**

マウスの情報を表示したり、システムにマウスを追加するなどの設定をする画面です。

クイックセットアップ

使用中のマウスを表す図と、現在のボタンの割り当てを表示します。



❑ **[デバイスの設定]**

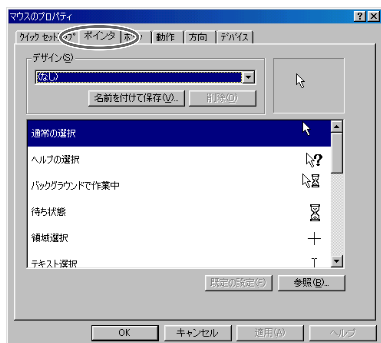
クリックすると、メーカー推奨設定に従ってマウスを再設定する。

❑ **タスクバーにアイコンを表示**

□ をクリックして ☑ にすると、デスクトップ画面右下のタスクバーに （マウスウェアアイコン）が表示される。

 をダブルクリックすることにより「マウスのプロパティ」画面を開くことができます。

ポインタ



❏ デザイン

(なし)▼：登録されているマウスのポインタのデザインの組み合わせを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]：クリックすると、下のリストで設定しているポインタのデザインの組み合わせに名前を付けて登録する画面が表示される。

[削除]：クリックすると、登録したポインタのデザインの組み合わせが削除される。

❏ リスト

選択したポインタのデザインの組み合わせが一覧表示される。
OS（Operating System）の動作状態ごとにいろいろなデザインのポインタを割り当てることができます。

[既定の設定]：クリックすると、ポインタの設定が標準に戻る。

[参照]：クリックすると、そのOSの動作状態のポインタのデザインを割り当てる画面が表示される。

 **OSとは**

「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機はOSとしてWindows 98を使っています。

次のページにつづく

ボタン



❑ ボタンの割り当て

クリック/選択: マウスの各ボタンに割り当てることができる機能を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[オプション]: クリックすると、さらに詳細なマウスのオプションを設定する画面が表示される。

❑ スクローラ

スクロール速度: ホイールボタンを使ったとき、スクロールされる文章の量を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

Office 97互換のスクロールのみを使用: ☐ をクリックして ☑ にすると、Microsoft Office 97互換スクロールを有効にする。

動作



❑ カーソルの速度と加速

スライダ: マウスを動かす距離に反応してデスクトップ画面上のポインタが移動する距離を設定する。

右の ◯: クリックすると、ポインタの加速が変わる。

❑ スマートムーブ

設定する: ☐ をクリックして ☑ にすると、ダイアログボックスが開いたときにポインタが初期設定のコマンドボタンに自動的に移動するように設定される。

❑ カーソルの軌跡

設定する: ☐ をクリックして ☑ にすると、ポインタがデスクトップ画面上を移動する際に軌道を残すように設定される。

軌跡の長さ: スライダを左右に動かして、ポインタの軌跡の長さを調節する。

次のページにつづく

方向



❏ 方向の設定

［方向の設定］：クリックすると、マウスの方向を変更する画面が表示される。

デバイス



❏ デバイス情報

［ﾎｲｰﾙ ﾏｳｽ (PS/2 ﾎﾟｰﾄ 上) ▼］：本機に現在接続しているマウスが表示されるので、使用するマウスを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

［デバイスの追加］：クリックすると、本機に接続されているすべてのマウスがマウスウェアによって検出される。

❏ バージョン情報

現在使用しているマウスやマウスウェアの情報が表示される。

省電力機能の設定を変更する

本機には、いくつかの省電力機能のモードが用意されています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

通常モード（本機の電源ランプ：緑色に点灯、ディスプレイの電源ランプ：オレンジ色に点灯）

通常の動作モードですが、ディスプレイの電源を切り、消費電力を節約することができます。
「画面のプロパティ」画面の「スクリーンセーバー」タブの「ディスプレイの省電力機能」で設定します。詳しくは、172ページをご覧ください。

スタンバイモード（本機の電源ランプ：オレンジ色に点灯、ディスプレイの電源ランプ：オレンジ色に点灯）

❑ **システムアイドルモード**（PCV-L450G**お買い上げ時の設定**）
一時的にシステム全体の動作を停止し、消費電力を節約できます。このモードのときは本機内部の主電源部のファンはゆっくりと回転しています。

❑ **システムサスペンドモード**（Suspend to RAM）（PCV-L750／L550**お買い上げ時の設定**）
現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。長時間、本機を使用しないときなど、消費電力を節約するときに便利です。
最低限必要なデバイス以外の電源を切るため、上記のシステムアイドルモードに比べて、より消費電力を節約することができます。
このモードに入ると、本機の主電源が切れ、内部の主電源部のファンは停止します。

次のページにつづく

システムアイドルモードとシステムサスペンドモード（Suspend to RAM）を切り換えるには

スタンバイモードの設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （電源の管理）をダブルクリックする。

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［スタンバイモード選択］タブをクリックする。



4 使用するスタンバイモードを選ぶ。



5 OK または 適用(A) をクリックする。

ご注意

- PCI規格の拡張ボードによっては、システムサスペンドモード（Suspend to RAM）に対応していないものがあります。この場合は、システムアイドルモードに変更してからご使用ください。
- ソフトウェアによってはスタンバイモードに対応していないものがあります。この場合は、使用中のソフトウェアを終了させてからスタンバイモードに入ってください。
- システムサスペンドモード（Suspend to RAM）時には消費電力を抑えているため、本機のUSBコネクタに接続したUSB機器には電源が供給されません。本機を通常の動作モードに戻したとき、接続しているUSB機器の数および種類によっては、本機が正しく認識できないことがあります。この場合には、スタンバイモードをシステムアイドルモードにして本機を使用するか、USB機器をいったん取りはずしてからスタンバイモードにしてください。
- PCV-L450Gをお使いのかたは、以下の点にもご注意ください。
  – 付属の「Giga Pocket」ソフトウェアの状態によっては、スタンバイモードに入れません。詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
  – スタンバイモードの設定をシステムサスペンドモード（Suspend to RAM）にした場合、付属のリモコンを使って通常の動作モードに戻すことはできません。通常の動作モードに戻すときは、キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押してください。

困ったときは

トラブルを解決するには

トラブルが発生したら、あわてずに下記の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

「主なトラブルとその解決方法」（199ページ）をチェックする

お使いのコンピュータの症状に合うものがないか確認してください。
また、ソフトウェアについてのトラブルは、各ソフトウェアに付属の取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。Windows 98の使いかたについては、「スタート」メニューの［ヘルプ］をクリックして、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

「Q&A Search」を使う

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、お客様からのお問い合わせが多い質問と回答やQ&A集を掲載しています。詳しくは「「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する」（212ページ）をご覧ください。

それでもトラブルが解決しないときは

VAIOカスタマーリンクまたはお買い上げ店にご相談ください。

VAIOカスタマーリンクにお問い合わせいただくときは

付属のVAIOカルテと筆記用具をご用意ください。また、事前に以下のことを確認してください。

- お客様のカスタマーID
- 本機の型名：PCV-L750／L550／L450G
- 本機に接続している機器
- 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、そのソフトウェアの名前とバージョン
- トラブルの状況と発生時期／頻度
- その他お気づきの点

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動後または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（31ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

電源

電源が入らない。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 「⏻（電源）キーを押しても、または スタート から終了操作しても電源がきれないときは」（32ページ）の操作を行ってください。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 98は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」（31ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter （エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［Windowsの終了］を選んでも、「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、 Alt （オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押して「Windowsの終了」画面を表示させ、［コンピュータの電源を切れる状態にする］をクリックして選び、［はい］をクリックしてください。

Alt （オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押しても「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、 Ctrl （コントロール）キーと Alt （オルト）キーを押しながら Delete （デリート）キーを押し、「タスクリスト」画面が表示されたら、［Windowsの終了］をクリックしてください。

→ 上記のいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）スイッチを4秒以上押して⏻（電源）ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safe mode（セーフモード）で起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（31ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

本機がスタンバイモードに移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。(33ページ) 再起動できない場合は、本機前面の ⏻ (電源) ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」あるいは「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」というメッセージが出る。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードの Enter (エンター) キーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl (コントロール) キーと Alt (オルト) キーを押しながら Delete (デリート) キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(214ページ) および「パーティションサイズを変更する」(217ページ) をご覧ください。

電源を入れると「C:￥WINDOWS>_」と表示されたまま止まり、Windowsが起動しない。

→ 「exit」と入力して Enter (エンター) キーを押してください。Windows 98が起動します。本機の電源を切るときは「電源を切る」(31ページ) の手順に従ってください。
「exit」と入力せずに本機の電源を切ってしまうと、次回電源を入れた際も「C:￥WINDOWS>_」と表示されたままになります。

次のページにつづく

ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。

→ ディスプレイの ☼（明るさ調節）ダイヤルで調整する。

画面が暗い。

→ ディスプレイの ☼（明るさ調節）ダイヤルで調整する。

画面が赤みがかっている。

→ ディスプレイのLCDケーブルが本機後面のLCDコネクタにしっかり差し込まれているか確認する。

スピーカー

音が出ない。

→ 本機とディスプレイがしっかり接続されているか確認する。

→ ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。◿（音量調節）ダイヤルで音量を上げる。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーのオーディオケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下の タスクトレイの（スピーカーアイコン）をダブルクリックして、音量を上げる。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。（225ページ）

→ スタート キーを押して「スタート」メニューを表示させ、↑ キーまたは ↓ キーを押して［Windowsの終了］を選んで、Enter（エンター）キーを押す。

「Windowsの終了」画面が表示されたら Enter（エンター）キーを押し、電源が切れた後に、10秒後に ⏻（電源）スイッチを押して再び電源を入れる。

→ Windows キーを使って電源を切れない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して、本機を再起動する。

→ CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、CD-ROMを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キー、Delete（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）スイッチを4秒以上押して電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール設定の方法が間違っている。スクロール方向の設定を確認してください。（192ページ）

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを起動している。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

ホイールボタンを押してもオートスクロールできない

→ ホイールボタンの動作設定を変更している。動作設定を確認してください。（190ページ）

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 67ページをご覧ください。

次のページにつづく

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（71ページ）

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（71ページ）

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（214ページ）をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（214ページ）をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ CD-RWドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

→ 上記の操作を行っても起動できない場合は、リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（214ページ）をご覧ください。

CD-ROM／CD-RW／CD-R

CD-ROM**が再生されない、または音楽**CD**の再生時、音がとぎれる。**

→ ディスクをCD-RWドライブに入れてください。

→ ディスクが正しくCD-RWドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

CD-ROM**が取り出せない。**

→ 57ページをご覧ください。

CD-RW／CD-R**が取り出せない。**

→ CD-RW／CD-Rはディスクイジェクトボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。取り出しかたについては「Direct CD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

CD-RW／CD-R**へのデータ書き込み時にデータの書き損じが起こる。**

→「CD-RW／CD-Rにデータを記録する前に」（63ページ）をご覧ください。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「文字を入力をする」（46ページ）をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（47ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまで [ ]（スペース）キーを押すか、[Shift]（シフト）キーを押しながら[^]を押します。

URL**で使われる半角の「**~**」（チルダ）が入力できない。**

→ MS-IMEツールバーで「半角英数」（53ページ）または「直接入力」を選び、[Shift]（シフト）キーを押しながら [^] キーを押します。

困ったときは

次のページにつづく

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字が入力できない場合は、キーボード右上の Num Lock（ナム・ロック）ランプが消灯していないかを確認してください。消灯しているときは、数字キーは矢印キーやコレクションキーと同じ働きをします。Num Lock（ナム・ロック）キーを押して、ランプを点灯させてから数字を入力してください。

→ 「コントロールパネル」ウインドウの中の（システム）をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブでキーボードの項目が「106日本語（A01）キーボード（Ctrl＋英数）」に設定されているか確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）画面のどこかをクリックするか、Alt（オルト）キーと Tab（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（画面の上の部分が青い色になります）。

→ キーボードがNum Lock（ナムロック）の状態（数字を入力するモード）になっている。

Num Lock（ナム・ロック）キーを押し、Num Lockの状態を解除してから文字キーを押してください。

文字（A〜Z）キーを押すと、数字（0〜9）が入力される。

→ キーボードがNum Lock（ナム・ロック）の状態（数字を入力するモード）になっている。

Num Lock（ナム・ロック）キーを押し、Num Lockの状態を解除してから文字キーを押してください。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器に映像を録画できない。

→ 他のソフトウェアが起動していないか確認する。他のソフトウェアが起動中に「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器への録画を繰り返し行うと、録画ができなくなることがあります。この場合は、本機を再起動してください。（33ページ）

インターネット

インターネットに接続できない。

→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する。詳しくは別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ デスクトップ画面上の （インターネットに接続）をダブルクリックして設定を確認する。

→ 本機後面のTELEPHONEジャックにつないだ電話機の受話器を取り、発信音がするかどうか確認する。

→ 内蔵モデムがWindows 98に正しく認識されているか確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「内蔵モデムの設定を確認する」をご覧ください。「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（16ページ）をご覧ください。

→ 本機に接続できる回線は、一般アナログ電話回線です。ダイヤル方法を確認してください。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤル方法を設定する」をご覧ください。

→ インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

→ 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定しなければならない場合があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

次のページにつづく

モデム

内蔵モデムからダイヤルできない。

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤル方法を設定する」をご覧ください。
「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（16ページ）をご覧ください。

→ 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。
詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

→ テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。

→ 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。

モデムはダイヤルしているが、接続できない。

→ 詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

モデムの通信速度が遅い。

→ 電話回線が混み合っている場合や電話回線の品質が悪い場合は、モデムはエラーが発生しないように自動的に通信速度を落として通信します。

→ 受信側のモデムが本機の内蔵モデムと同じ規格「K56flex/V.90」でない場合、本機に内蔵のモデムの最高速度56kbpsは出ません。

→ 日本国内では受信するときのみ最高速度56kbpsで通信できます。送信するときは、電話回線の中継局の制限で通信速度が遅くなります。

→ 分配器などを使って電話回線を分岐したときは、通信速度が遅くなったり、まったく通信できないことがあります。1本のテレホンコードで本機後面のLINEコネクタと壁の電話回線のコンセントをつないでください。

本機後面のPHONEジャックに電話回線をつないでいるとき、内蔵モデムからダイヤルすると電話機の呼び出し音が鳴る。

→ お使いの電話回線がパルス式ダイヤルの場合、電話機の呼び出し音が鳴ることがあります。ソニー自動転換機TL-P20C/P30Cをご使用ください。

Windowsのメッセージ

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（71ページ）

電源を入れた後、「Non-System disk or disk error Replace and strike any key when ready**」あるいは「**Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.**」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。**

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter(エンター) キーを押す。

「CMOS battery faild**」というメッセージが表示される。**

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「CMOS checksum Error-Defaults loaded**」というメッセージが表示される。**

→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。詳しくは「BIOSセットアップマニュアル」の「LOAD SETUP DEFAULTS」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」はデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（16ページ）をご覧ください。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

次のページにつづく

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンとリモコン用受光ユニットの間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと受光ユニットの距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が受光ユニットの方を向いていない。リモコンを受光ユニットに向ける。

→ リモコンの電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。電池を交換する。

→ 本機の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本機と蛍光灯を離して設置する。

「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「VAIO」になっているか確認する。

テレビを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。（28ページ）

録画、再生

「DVgate」または「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画が正常にできない。

→ 本機につないだ機器が正しく接続されているか確認する。（134、139ページ）

→ 「DVgate」または「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

音声認識

音声が認識されない。

→ ヘッドセットマイクのケーブルがMICコネクタに正しく接続されているか確認する。詳しくは、「ヘッドセットマイクを準備する」（81ページ）をご覧ください。

→ マイクの位置を確認する。詳しくは、「ヘッドセットマイクを準備する」（81ページ）をご覧ください。

→ マイクがオフになっている。詳しくは「声で文章を入力する」（90ページ）をご覧ください。

→ 周囲の雑音が多い。周囲の雑音を少なくしてから話してください。

→ 文字を入力するソフトウェアがアクティブになっていない。ウィンドウをマウスでクリックして、アクティブにする。

音声コマンドが認識されない。

→ コマンドを区切って発音した、またはテキストとして話した言葉と音声コマンドを続けて言った。コマンドを区切って発音しない、またはコマンドを言う前に間隔を開けてください。それでもコマンドが認識されない場合は、キーボードの Ctrl （コントロール）キーを押しながら音声コマンドを言ってください。音声コマンドとして強制認識されます。

同じ間違いをする。

→ 言い間違えた言葉を「修正」画面を使って直したため、特定の言葉の発音を別の言葉として認識してしまっている。「修正」画面で正しい言葉を入力し直す。詳しくは「Dragon Speech Partner」ソフトウェアが起動しておりマイクがオンの状態で、「ヘルプ表示」と言って「Dragon Speech Partner」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

その他

ファンの音が急に大きくなった。

→ 本機内部のファンは自動制御されています。大きなCPUのパワーを使うソフトウェアをお使いになったり、周囲の温度が高い場所で本機をお使いの場合は、ファンの回転が速くなり、音が大きく聞こえるようになります。

本機は風通しの良いところに設置されることをおすすめします。

「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp）には「Q&A Search」があり、VAIOに関する質問に対する回答を掲載しています。
「Q&A Search」を使うにはあらかじめインターネットに接続するよう設定しておいてください。インターネットの接続については、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

1 **デスクトップ画面左下の をクリックして［お気に入り］にポインタを合わせ、［ソニーお勧めのサイト］を選び、［VAIOカスタマーリンク］をクリックする。**

インターネットに接続してホームページを見るためのソフトウェアが起動し、VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

2 **［Q&A Search］をクリックする。**

「Q&A検索」画面が表示されます。

3 **検索したい内容を入力し、 をクリックする。**

「検索結果一覧」画面が表示されます。

4 **読みたい文面をクリックする。**

回答の内容が表示されます。

ちょっと一言

VAIOカスタマーリンクのホームページではVAIOに関する最新情報や、アップデートプログラムなどもあります。困ったら、まず一度ご覧ください。

その他

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROMを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の 2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。
なお、PCV-L750／L550をお使いの場合には、再セットアップ後に、付属のOffice 2000 Personalプレインストール パッケージでMicrosoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールし直してください。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。詳しくは「パーティションサイズを変更する」（217ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってください。また、PCV-L750／L550をお使いの場合には、再セットアップ後に付属のOffice 2000 Personal プレインストール パッケージで、Microsoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールし直してください。上記の操作を行わないと、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。リカバリ CDを使って本機を再セットアップすると、C:ドライブにあるファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。
C:ドライブに保存している大切なデータは、再セットアップを行う前に必ずバックアップを取ってください。

保存しているデータは、次の方法で残しておくことができます。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CD-RW／CD-Rにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。
以下の手順に従って再セットアップします。

1 付属の「システム リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。
入れかたについて詳しくは、「ディスクを入れる」（55ページ）をご覧ください。

2 Windows 98が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。
Windows 98の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（31ページ）をご覧ください。

3 30秒ほど待ってから、⏻（電源）スイッチを押して本機の電源を入れる。
しばらくするとCD-RWドライブから起動し、リカバリCD上のプログラムが動作します。

4 「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。
メニュー画面が表示されます。

次のページにつづく

その他

5 **再セットアップの方法を選び、Enter(エンター) キーを押す。**

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.リカバリ　CDを終了する...」：再セットアップを中止します。

6 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうか聞かれたときは、Yんキーを押してEnter(エンター)キーを押してください。

7 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、本機を再起動する。**

8 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」の手順に従って、Windows 98をセットアップする。**

9 **Windows 98のセットアップが終了したら、「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK]をクリックしてください。

10 **PCV-L750／L550をお使いの場合には、付属のOffice 2000 Personal プレインストール パッケージで、Microsoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールする。**

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「LOAD SETUP DEFAULTS」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」は本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた」(16ページ)をご覧ください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリCDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 98はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。


パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。


断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。


デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

次のページにつづく

1 **「再セットアップする」（215ページ）の手順1～4を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「2.パーティションサイズの変更...」を選び、[Enter]（エンター）キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。

[Esc]（エスケープ）キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、[Enter]（エンター）キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、[N]キーを押してから[Enter]（エンター）キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうかを聞かれたときは[Y]キーを押し、[Enter]（エンター）キーを押してください。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、本機を再起動する。**

6 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」の手順に従って、Windows 98をセットアップする。**

7 **Windows 98のセットアップが終了したら、「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、［OK］をクリックする。

8 **PCV-L750／L550をお使いの場合には、付属のOffice 2000 Personal プレインストール パッケージで、Microsoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールする。**

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイの画面上に常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。液晶パネルは非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

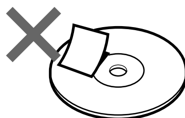
バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、
ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

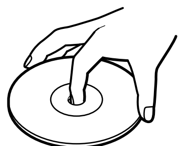
CD-ROM／CD-RW／CD-Rディスクの取り扱いについて

CD-ROM／CD-RW／CD-Rディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-RW／CD-Rは記録面が汚れるとデータの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。

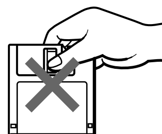


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

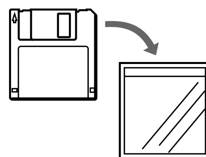
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、次ページの「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

次のページにつづく

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。また、本機にはシステムを自動監視する「VShield」ソフトウェアはあらかじめインストールされていません。この機能をご利用になるには、右記の「「VShield」ソフトウェアをインストールするには」の手順に従って「VShield」ソフトウェアをインストールする必要があります。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www/nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
  ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポート
  電話番号：(03) 3379-7770

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

「VShield」ソフトウェアをインストールするには

以下の手順に従って「VirusScan」をインストールします。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、**［McAfee VirusScan］**の**［McAfee VirusScan **セットアップ**］**をクリックする。**

VirusScanのインストーラが起動し、「セットアップへようこそ」画面が表示されます。

2 **［次へ］をクリックする。**

「ソフトウェアの使用許諾契約書」画面が表示されます。

3 **内容を確認後、「はい」をクリックする。**

「インストール済みの現在のバージョンが見つかりました！」画面が表示されます。

4 **［保存］をクリックする。**

「コンポーネントの選択」画面が表示されます。

5 **［次へ］をクリックする。**

「オプションの選択」画面が表示されます。

6 **「ブート時にシステムをスキャン」のチェックをはずし、［次へ］をクリックする。**

「プログラムフォルダの選択」画面が表示されます。

7 **［次へ］をクリックする。**

「インストール設定の確認」画面が表示されます。

8 **［次へ］をクリックする。**

「エマージェンシーディスクウィザード」画面が表示されます。

9 **画面の指示に従って操作し、エマージェンシーディスクを作成する。**

10 **画面の指示に従って本機を再起動する。**

操作がわからなくなったときは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［McAfee VirusScan］、［必ずお読みください］の順にクリックします。
またはヘルプメニューをクリックします。

「VShield」ソフトウェアをご使用になる際のご注意

- 「VShield」ソフトウェアのインストールを行うと、次回起動時から「VShield」がデスクトップ画面右下のタスクトレイに常駐し、ウイルスの自動監視を行います。「VShield」ソフトウェアはメモリに常駐するため、Windows のシステムリソースを消費します。そのため、各種ソフトウェアの連携操作を行った場合、複数のソフトウェアの起動によりWindows のリソースが不足して次のようなメッセージが表示され、本機が正しく動作しなくなることがあります。
「90 パーセント以上のシステムリソースが現在使用されています。使用していないプログラムを終了し、システムリソースを開放しないと、コンピュータが応答しなくなる可能性があります」
この場合は、タスクトレイにあるとをそれぞれ右クリックし、［終了］にポインタを合わせてクリックしてください。
- 「VShield」ソフトウェアのインストールにより、Windowsの起動時間が長くなる場合があります。

その他

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

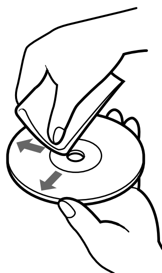
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切ってからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



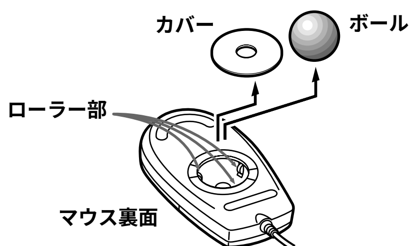
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-RW／CD-Rディスクのお手入れ

- CD-RW／CD-Rディスクは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-RW／CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、マウスをキーボードから取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

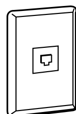
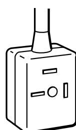
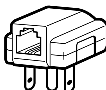
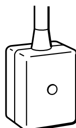
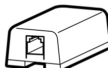
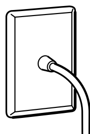
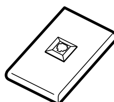
- **型名：**PCV-L750／L550／L450G
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

部品の交換について

この製品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意いただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラ型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラーアダプターTL-30 
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラーローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31 

1) 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

2) 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

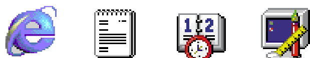
ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

用語集

五十音順

ア

アイコン
画面上に表示されるソフトウェア、文書や画像などを表す絵記号のことです。それぞれに固有のデザインがあり、直感的にわかりやすくなっています。



アクティブウインドウ
複数のウィンドウがデスクトップ画面上に開いているときに、作業中のウィンドウのことを言います。

アクティブデスクトップ
ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

アニメーションGIF形式
米CompuServe社が作った画像データ形式であるGIF形式の画像を複数集めて、動画にしたときのファイル形式です。

アプリケーションソフトウェア
→「ソフトウェア」をご覧ください。

イーサネット
複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないだときのコンピュータ間のデータ通信方式です。

インストール（プリインストール）
ソフトウェアなどをコンピュータにコピーして組み込むことです。「プリインストール」とは、ソフトウェアなどがお買い上げ時にインストールしてあることです。

インフォメーションランプ
電子メールを受信したことを知らせてくれる表示ランプです。電子メールを受信すると、液晶ディスプレイ右上にあるランプが点灯します。

インターネットサービスプロバイダ
インターネットへの接続サービスなどを提供する業者のことです。

ウイルス
→「コンピュータウイルス」をご覧ください。

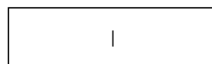
ウィンドウ
デスクトップ画面に表示される枠で囲まれた領域のことで、フォルダの内容などが表示されます。ソフトウェアを使って文書や画像を作成するときもウィンドウで作業します。

オーバーレイ
CPU（234ページ）のプログラム領域に入りきれないような大きなプログラムを実行するときに、プログラムをいくつかのブロックに分けて、必要なブロックを次々にCPUに読み込ませて、実行するための方法のことです。

オンラインマニュアル
本書や「BIOSセットアップマニュアル」などをデスクトップ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアを使ってデスクトップ画面上に表示させ、読むことができます。

カ

カーソル
デスクトップ画面上で、文字や絵を挿入する位置を示す記号のことです。現在の位置を示すために点滅していることもあります。何か入力すると、カーソルの位置にその入力したものが挿入され、カーソルはその分移動して、次の挿入位置へと移動します。



壁紙
デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。好きな壁紙を選んで使用することができます。詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」（169ページ）をご覧ください。

コントロールパネル
操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 98に標準で装備されているツールです。詳しくは、「コントロールパネルとは」（168ページ）をご覧ください。

コンピュータウイルス
コンピュータの内容を破壊するプログラムのことです。単に「ウイルス」とも言います。インターネットなどの通信や、フロッピーディスクなどの記録メディアからコンピュータに感染します。コンピュータウイルスの侵入を監視するソフトウェアを使用することにより、感染を未然に防ぐことができます。本機には「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。また、感染したコンピュータウイルスを退治するには、「ワクチンプログラム」を使用します。

サ

周辺機器
プリンタやUSB機器など、コンピュータに接続する機器全般のことです。

ショートカット
ソフトウェアやファイルなどの分身を作ること、または分身そのもののことです。よく使うソフトウェアやファイルなどのショートカットをデスクトップ画面上に置いておくと、探す手間が省けて便利です。

ショートカットメニュー
マウスを右クリックして表示されるメニューのことです。クリックした状況に応じて、よく使われる機能を素早く選ぶことができます。

初期化
「フォーマット」とも言います。フロッピーディスクやハードディスクにデータの書き込みができるようにする作業のことです。データが保存されているディスクを初期化するとデータが消去されてしまうので注意が必要です。ハードディスクの中身をすべて消去してお買い上げ時の状態に戻したいときは、付属のリカバリ CDを使って初期化することができます。

シリアル
パラレル（並列）の対語で、１本のデータ線を通して、データを一つずつ順番に送り、処理していく方法のことです。デジタルスチルカメラなどと接続するときに使われます。

スクリーンセーバー
電源を入れたまま長時間使わない状態の画面を、保護するためのソフトウェアのことです。同じ画面のまま長時間放置すると、輝いている部分の蛍光塗料が劣化して、その部分のみ発光しなくなったり、跡が残ったりするのを防ぎます。長時間、コンピュータへの入力がないときに自動的に起動して、画面を暗くしたり、模様を描いたりします。何かコンピュータへの入力（キーボードやマウスの操作など）を行えば自動的に解除し、元の画面に戻ります。
好きなスクリーンセーバーを選んで使用することができます。詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」（169ページ）をご覧ください。

スライダ
音量などを連続的に変えるための入力装置のことです。通常はマウスで操作します。

ソフトウェア
コンピュータを動かすための電子の信号でできた命令のかたまりのことです。略して「ソフト」とも言います。ソフトウェアには大きく分けて「基本ソフトウェア」(「OS」も参照)と「アプリケーションソフトウェア」があります。
「基本ソフトウェア」にはWindows 98やMS-DOSなどがあります。「アプリケーションソフトウェア」は、「アプリケーション」または「ソフトウェア」、「プログラム」と呼ばれ、基本ソフトウェアの下で特定の目的のための機能を提供するソフトウェアです。「アプリケーションソフトウェア」にはワープロソフトや表計算ソフトなどがあります。
本書では、「アプリケーションソフトウェア」のことを「ソフトウェア」と表記しています。

タ

タスクトレイ
デスクトップ画面の右下の部分です。本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindows 98の機能が表示されています。

タスクバー
初期状態でデスクトップ画面下辺に表示される横長の棒(バー)のことです。バーの左端にあるスタートボタンより各ソフトウェアを起動します。また、使用中のソフトウェアやフォルダがボタン化されて、横に並んだ状態で表示されますので、ボタンをクリックすることにより、ウィンドウの切り替えができます。

断片化
「フラグメンテーション」とも言います。
ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

チェックボックス
ウィンドウの中に表示される、チェック用の図形のことです。☐をクリックすると☑になり、選択されたことを示します。

チルダ
「~」と書く半角記号です。インターネットのホームページのアドレスを記入するときによく使う記号です。

デスクトップ
コンピュータを起動したときに表示される画面のことです。

デバイス
コンピュータに接続して使用するディスクやプリンタなどの装置のことです。

デフラグ(最適化)
ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ(最適化)により、データの読み出しや書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

電子メール
「Eメール」とも言います。
インターネットなどのネットワークを使ってコンピュータ同士でメッセージをやりとりするシステムのことです。実際の郵便と比べて、相手にメッセージが届くまでの時間がかからず、手軽に読んだり書いたりできます。再編集や保存が簡単なため、最近急速に普及してきています。

電子メールアドレス
「Eメールアドレス」とも言います。
電子メールを送る相手先の情報のことです。通常の郵便になぞらえて、「アドレス」と言っていますが、国名や番地を書く訳ではありません。電子メールアドレスは、世界に1つだけのものなので、使う人がどこにいようと配信され、読むことができます。

ドライバ
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。基本的なものはすでにWindows 98に含まれていますが、それ以外の周辺機器を使用したいときは、その機器に必要なドライバをインストールする必要があります。

ハ

パーティション
ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルやソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

ハードウェアアクセラレータ
コンピュータの画面を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。

ハードディスク
コンピュータに接続する補助記憶装置の一つです。表面に、磁性体を塗った平らな円盤(ディスク)を回転させ、それに磁気ヘッドを近づけてデータの書き込み／読み出しを行います。大容量のデータを保存でき、書き込み／読み出しが高速で行えます。

パラレル
「並列」という意味です。複数のデータ線を通して、データを同時にいくつか送り、同時に処理のできる方法のことです。プリンタやモデムなどと接続するときに使われます。

ピクセル
画面上の点を示します。コンピュータの画面上やプリンタでは、文字や図形を小さな点の集まりで表しますが、この基本の単位となる最小の点のことです。「画素」や「ドット」とも言います。

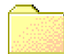
ビットマップ
文字や図形を小さな点の集まりで表現することです。現在のコンピュータの表示は、ほとんどがビットマップ方式です。

ファイル
データのことです。厳密に言えばデータをひとまとめにしたものですが、コンピュータでは区別が無くなっています。ファイルには、文字列として読み出すことのできるテキストファイル（文書ファイルなど）と、文字としては読み出せないバイナリファイル(実行形式のファイルなど）があります。



フォーマット
→「初期化」をご覧ください。

フォルダ
ペーパーフォルダの形をしたアイコンのことで、ファイルを保存しておく場所のことです。ソフトウェアや文書は「ファイル」として保存されますが、ファイルを整理して、使いやすくするためにフォルダの中に分類することができます。紙の資料（ファイル）を紙ばさみ（フォルダ）に入れて整理、保管することをデスクトップ画面上で行うようなものです。



プラグアンドプレイ
周辺機器を接続したり、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使える状態になる機能です。本機に取り付けられているPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。

プログラマブルパワーキー
押すだけで目的のソフトウェアを起動できるキーです。本機の電源が切れている状態で押すと、電源の投入から目的のソフトウェアの起動までを自動的に行います。

プロバイダ

→「インターネットサービスプロバイダ」をご覧ください。

プロパティ

OS上のソフトウェアからアクセスできる属性のことです。プロパティは、ユーザーの使いやすいように設定することができます。

プロファイル

Windows 98のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

マ

マイコンピュータ

デスクトップ画面上にあるアイコンの一種で、お使いのコンピュータで使用できるデバイスやツール(道具)の集まりを示します。 マウスでダブルクリックすると、使用中のコンピュータの各種情報や、コントロールパネル、フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブといったデバイスやフォルダなどが表示されます。



マルチディスプレイ

複数のディスプレイ画面に画像を表示させることです。コンピュータに複数のディスプレイボードを搭載しなければならないので面倒ですが、画面が広く使えるといった利点があります。

メモリ

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

モデム

コンピュータの情報を電話回線を通じてやりとりするために必要な機器です。本機には内蔵されています。

ラ

リソース

もともとは、「資源」という意味です。

コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。リソースには限りがあるため、不要なソフトウェアが占有しないようにすることが必要です。

リフレッシュレート

コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことを「リフレッシュレート」と言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

リムーバブルディスク

データを読み書きできる取り外し可能な記録メディアのことです。

アルファベット順

AVI形式
Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。

BIOS
「バイオス」と読みます。基本入出力システムのことです。コンピュータの本体と、周辺機器(マウス、キーボード、プリンタ、ディスプレイなど)との間でのデータのやり取りを行います。コンピュータにとって最も基本的なプログラムの一つです。

CD-R
「シーディーアール」と読みます。コンピュータで扱うプログラムやデータを一度だけ書き込むことができるコンパクトディスクです。

CD-ROM
「シィーディーロム」と読みます。コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータが記録された、読み取り専用のコンパクトディスクです。読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。

CD-RW
「シーディーアールダブリュー」と読みます。コンピュータで扱うプログラムやデータを何度も書き込んだり消去したりすることができるコンパクトディスクです。

CPU
「シーピーユー」と読みます。中央演算処理装置のことで、コンピュータの中枢部分のことです。入出力装置からデータを受け取り、演算し、記憶し、結果を出力します。コンピュータでは、CPUの機能を一つにまとめて、マイクロプロセッサとして使用されています。なお、CPUは同時に処理できるデータ数によって、8ビット、16ビット、32ビット、64ビットなどに分けられ、ビット数の大きいものほど一般には処理速度は速くなる傾向があります。

DV形式
ソニーデジタルビデオカメラレコーダーなどDV形式のデジタルビデオ機器からテープ上に映像／音声をデジタル記録する際のデータ圧縮形式です。

Eメール
→「電子メール」をご覧ください。

Eメールアドレス
→「電子メールアドレス」をご覧ください。

I/Oポート
「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット)、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

i.LINK
「アイリンク」と読みます。次世代のI/Oの規格でIEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様（通称IEEE1394）の本格的な普及を目指すためソニーが開発・提唱している呼称です。コンピュータどうしまたは、コンピュータとデジタルビデオカメラレコーダーなどを接続して、データを転送・編集したり、接続した機器をコンピュータからコントロールすることができます。

IRQ
「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じて、CPUに割り込み命令を出して、実行中の処理を一時的に中断し、割り込みした処理を行います。

ISDN
NTTのデジタル通信網を使った電話で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

MO
「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記録メディアです。

PPK
→「プログラマブルパワーキー」をご覧ください。

SCSI
「スカジー」と読みます。コンピュータとMOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。

OS
「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機はOSとしてWindows 98を使っています。

SERIAL
→「シリアル」をご覧ください。

URL
「ユーアールエル」と読みます。インターネット上の情報（ホームページ）のアドレスのことです。本機に付属の「Internet Explorer」ソフトウェアなどのWebブラウザ上で「http://www.sony.co.jp/」と入力すると、ソニーのホームページにジャンプして見ることができます。ただし、1文字でも間違えると、閲覧したいホームページにジャンプできなかったり、何も表示されないことがあります。

USB
「ユーエスビー」と読みます。キーボードやマウスなどの比較的低速な周辺機器を接続するインターフェイス規格のことです。USB機器は電源が入ったままの状態で接続または取りはずしができます。また、USBはハブと呼ばれる接続器を仲介して、最大で127台までの周辺機器を接続することができます。

索引

五十音順

ア

カ

サ

タ

その他

次のページにつづく

ナ

ハ

アルファベット順

その他

次のページにつづく

この説明書は再生紙を使用しています。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損なうことは禁じられています。
コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。
工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）および MEMORY STICK™ は、ソニー株式会社の商標です。
- “AIBO”とAIBOロゴ は、ソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" " は商標です。
- Microsoft、Windows、Outlook、Bookshelfは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- Adobe®およびAdobe® Acrobat® ReaderはAdobe System Incorporaded（アドビ システムズ社）の商標です。
- Copyright ©1991-2000 Dragon Systems,Inc. All rights reserved.
- Adaptecおよびアダプテック社のロゴはアダプテック社の商標です。
- Direct CD、Easy CD Creatorはアダプテック社の登録商標です。
- VirusScanはネットワークアソシエイツ株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
VAIOカスタマーリンクへ
● 0466-30-3000
カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
● 03-3584-6651

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan